

回航し、印度洋艦隊を編成して印度洋、アフリカ沿岸傳ひにマダガスカル、ケープタウンの航路警備に當てたのである。

印度は、資源的に英國の寶庫であるとともに、人的資源からも英國の寶庫であるから、英國は印度確保のためにはあらゆる犠牲を忍ぶ決意と見える。それだけに印度の動搖は英國の深刻なる悩みの種である。

有力なる艦艇部隊と、航空部隊とより成るわが機動部隊の東部印度洋掃蕩作戦は、雄渾豪壯、殊にツリンコマリ、コロombo強襲作戦に至りては胸のすく思ひがする。

四月九日ツリンコマリ東南方洋上を南下中の英航空母艦ハーミスは、驅逐艦一隻を従へ遁走を企てたのであるが、わが航空部隊は、これを発見、直ちに追撃、一撃のもとにこれを撃沈した。

虎口を逃がれた思ひの空母ハーミスは、折柄起つた大スコールを天の助けと雨雲の蔭を全速力でわが爆撃圏外に逃がれやうとした。スコールの中に入つたので、もう安心と思つたらしいハーミスを追撃中のわが海鷲は、厄介千萬なスコールの雨雲を避け大きく迂回して先廻りしハ

ーミスの雨雲の蔭から現はれるを上空から狙ひ一撃のもとに爆沈せしめた。

かうした、東印度作戦は輝く大戦果とともに英軍勢力を西印度洋に壓迫し、かつ皇軍のビルマ作戦に寄與するところ極めて大なるものがある。

珊瑚海々戦

米戦艦、空母を轟撃沈

ニューギニア方面に作戦中のわが帝國海軍部隊は、珊瑚海附近を游弋何事か企圖しあるものゝ如き有力敵艦隊の蠢動を偵知したので、同方面に在るわが海軍部隊は直ちに出勤、その全力を擧げて廣海域の哨戒偵察を行つた。果然五月七日朝ソロモン諸島ツラギ島の南方珊瑚海において戦艦二隻、航空母艦二隻を基幹とする有力なる敵艦隊を発見した。

見敵必滅の海軍魂に燃ゆるわが海軍部隊はよき獲物ござんなれとばかりこれを捕捉しその包圍圏を漸次絞つて猛然と襲ひかかり猛烈果敢なる攻撃を加へ、雷、爆撃により戦闘艦カリフォルニヤ型(三二、六〇〇トン)一隻轟沈、同ウオースパイト(三〇、六〇〇トン)に大損害を

與へ、英甲級巡洋艦キャンペラ（五・八五〇トン濠洲艦隊所屬）を大破せしめた。

さらに八日朝、米航空母艦サラトガ型（三三、〇〇〇トン）及び同ヨークタウン型（一九、九〇〇トン）の兩艦を基幹とし、それに直衛艦の随伴する有力機動部隊を捕捉これまた壯烈なる雷、爆撃によりこれを撃沈した。

この珊瑚海々戦の綜合戦果は米航空母艦サラトガ型一隻同ヨークタウン型二隻撃沈、米戦艦カリフォルニア型一隻轟沈、英戦艦ウォースパイト型一隻大破、英甲巡キャンペラ型一隻大破、巡洋艦（艦型未詳）一隻大損害、驅逐艦一隻撃沈、給油艦（二〇、〇〇〇トン）一隻大破、飛行機九十八機撃墜といふすばらしいものである。

わが方もまた小型航空母艦（給油船を改造せるもの）一隻沈没、飛行機三十一機未歸還と五月十二日大本營から發表された。しかし、未歸還飛行機三十一機中その後七機は歸還した。と訂正されたから結局尊き犠牲のわが飛行機は二十四機である。

航空部隊の決戦に凱歌

珊瑚海々戦は、戦鬪經過から見て、七日は基地航空部隊により敵戦艦以下を撃破し、八日

はわが航空部隊と敵航空部隊との一騎討ちで空前の最大海戦が展開されたわけであるから二つの異つた海戦であつた。しかも、ハワイ海戦は眞珠軍港内に碇泊中の戦艦群攻撃であり、マレー沖海戦はわが雷、爆撃機隊の行動圏で行はれた點々特色を持つてゐるが、この珊瑚海々戦は、機動中の敵有力艦隊を索敵、これを捕捉し、航空母艦を主體とする彼我兩艦隊の喰ふか喰はれるか大東亞戦争最初の近代的大海戦であつた點に特色がある。

近代戦艦は、魚雷でも七、八本以上命中しないと沈没しない。爆弾では殆んど撃沈不可能とされ、それが専門家の常識とされてゐたものである。

盟邦ドイツの戦艦ビスマルクの如き空中魚雷八、九本、それに十四インチ乃至十五インチ主砲以下六インチ砲彈等百數十發も命中してはじめて撃沈となつたが、結局最後の止めとなつたのは巡洋艦ドーゼットシャーの魚雷であつたといはれる。

だが、米英濠聯合艦隊を捕捉せるわが海軍航空部隊は、壯烈なる空中戦の裡に雷、爆撃により前記の如き戦果を挙げ、米英海軍が多年不可能視したかうした宿題を明快に解決したわけである。輝く大戦果を挙げた航空部隊は、終始敵の上空で敢闘し、見敵必滅の海鷲魂を遺憾なく

發揮したことは、撃墜せる敵飛行機九十八機中その六十一機は敵艦隊上空において撃ち墜したのに反し、残りの三十七機は反撃してきたところをわが艦隊上空で撃ち墜された記録がよくその間の消息を説明してゐる。

撃墜されたる敵飛行機は九十八機と記録されてはゐるが、撃沈された米航空母艦サラトガ、ヨークタウン兩艦の搭載機は、戦闘機、爆撃機、偵察機等各種とり混ぜ少くとも一艦の分百二十機と概算しても二百四十機あるのだから、わが海鷲のために撃墜された九十八機以外のものは、還るに母艦なく結局珊瑚海に墜落或は不時着をしたものとみるべくその運命は説明するまでもあるまじ。

海鷲魂の精華

かうした大戦果の蔭に特筆大書さるべき偵察機の殊勳功績のあることをわれらは銘記しなければならぬ。といふのは、この日〇〇兵曹長機は珊瑚海の哨戒偵察の任務に當り同方面上空を飛翔したところ、断雲の間隙から敵有力艦隊の機動を發見した。〇〇兵曹長はすかさず『敵艦隊發見』の無電を打つて報告した。

艦隊の編成、機動中の位置、針路等詳細を極はめ、かつ刻々移り變る艦隊運動の状況等を報告し、友軍攻撃部隊の誘導に努めた。

〇〇兵曹長機はすでに母艦に還る油の限度も迫つたため敵艦隊の行動方向を見定めてから歸途についた。ところが途中で友軍攻撃機部隊の大編隊に遭つた。〇〇兵曹長は、自分は母艦に還るまでのギリ／＼の油より持たぬことを知りながらも、いまこゝで友軍を誘導しないで母艦に歸投したら萬一敵艦隊を捕捉できなかつたり、敵戦闘機群の警戒網の中に突込んだりしては取り返しがつかぬと思ふとすべてを忘れ断乎機首を百八十度變へくると廻りいま翔んできた空をまつしぐら敵艦隊めがけて友軍攻撃機隊誘導に當つた。

〇〇兵曹長は敵艦隊の上空に攻撃部隊を誘導し、任務を完遂すると機翼を揺つて友軍に訣別の信號を送りそのまゝ燃料の無くなつた愛機を珊瑚海の海中に突込み自爆した。何といふ神々しくも壯烈悲壯な行動であらう。

〇〇兵曹長は敵艦隊を發見、これが報告を完了すればそれで一應任務が終つたのだから、そのまゝ母艦に還つてもいいのであるがそれができないところが日本人であり、海鷲魂の精華で

ある。一身を犠牲にして敵艦隊を撃滅せしめたこの偵察機の協同動作こそあの輝く大戦果を齎らした有力な原因の一つといふべく、ハワイ眞珠軍港のわが特別攻撃隊の岩佐中佐以下九軍神にも比すべきものではあるまいか。〇〇兵曹長の不滅の偉勳は蓋し大きなものである。

航空部隊の使命

以上の如き大戦果がすべてを物語る如く、海軍航空部隊の殊勳功績はまさに驚嘆瞠目せしむるに足る驚異であり、いかなる讃辭をもつてするも賞め過ぎはしないであらう。

名實ともに世界第一海軍と誇稱して憚りない帝國海軍部隊のこの大戦果は、御稜威の下、將兵の善謀奮戦によるはもとよりだが、魚雷や爆弾はじめ、艦船兵器の優秀性が齎らす軍事科學陣の勝利であることも決して見逃してはならない。

また、さらに航空部隊をして驥足を伸ばし、思ふ存分敢闘し得るよう、作戦線に機動せしめるためにその蔭に有力なる護衛部隊が嚴然と控へ縦横に活動してゐる事實も見逃せない。

航空部隊は海上といはず、基地といはず、常に護衛部隊の援護下に神速果敢に機動し、敵主力部隊の撃滅破摧に、或は友軍進撃の掩護に任じ、また敵航空兵力の撃滅と、常に戦線の最尖

端に重要使命を果すのである。

彼我艦隊の海上決戦を豫想してみると、そこには、まづ航空戦が展開され、航空部隊の大活躍により敵艦隊を徹底的に撃破し、敵の混乱したところを主力艦隊が決戦を行ひ、これが撃滅をはかる。そして日没を待ち、さらに水雷戦隊、巡洋艦戦隊の如き輕快艦隊或は潜水艦部隊が猛烈果敢な襲撃を加へて敵艦隊に止めを刺し、これを殲滅する。型通りに行けばかうした戦闘経過が考へられる。ところがわが帝國海軍においては、航空部隊の底知れぬ威力の海鷲魂が遺憾なく發揮され、雷撃あるひは爆撃、生死を超越した體當り必殺戦法等祕術をつくり航空部隊のみで敵艦隊を撃破してしまうので、主力艦部隊の乗り出して活躍する舞臺が與へられない。言はゞ主力艦部隊は不戦勝となつたのが大東亞戦争におけるいままでの主なる海戦の示す通りである。

見事な漸減作戦

由來海軍最高指揮官は、能ふかぎり兵力の分散を避けて可能なる最大の兵力を常に掌中に握り、作戦に當りては、敵兵力を分撃、各個にこれを撃破していくことが要諦とされる。

大東亞戦争の各海戦を見ると、ハワイ海戦以来英東洋艦隊も、米英濠蘭西南太平洋聯合艦隊にせよ、また、今次珊瑚海々戦にせよいづれもみな各個撃破漸減作戦の原則通りにいつた。これ御稜威の下、至玄至妙、雄渾無双の作戦と善謀勇戦の帝國海軍が世界に冠絶する所以である。いまや太平洋は殆んど清掃されたも同じで、米英は大西洋の兵力を割き、あるひは地中海、または北海方面の艦艇を割いて太平洋に回航しなければどうにもならぬ哀れな實狀となつた。たとへ、無理算段をして大西洋、地中海等から艦艇を太平洋に回航したところでその兵力量は知れたものであるから、帝國海軍を脅威するには足らないであらう。結局、米英は濠洲とその周邊の防衛に辛ふじて當て得る艦艇を保持するに汲々たる以外、當分は潜水艦による海上ゲリラ戦に鬱憤をはらす程度のものであり、機會があれば機動部隊の奇襲、神經戦争を展開しようとして虎視眈々機會を狙ふといふのが關の山といへよう。米海軍は、一九四四年の建艦、軍備再編期に唯一の希望を繋ぎ、總反撃を夢みてゐるようだが、わが帝國海軍は緒戦期以來保有せる優勢なる兵力量を確保維持して、常に敵米英を壓倒して行くことに信賴して敵の軍備再建を必要以上に怖れることは無用である。さりとて、敵の抗戦力を過小に下算することは危険であ

るから警戒しなくてはならない。

シドニー、マダカスカル強襲

再び特殊潜航艇の活躍

西南太平洋を制覇したわが帝國海軍は、さらに長驅七千萬平方キロの印度洋に驕足をのびし、その東部海面はわが海軍部隊の蹂躪するところとなつた。

五月卅一日未明、特殊潜航艇のわが特別攻撃隊は、南阿印度洋のマダカスカル島北端デエゴ・スワレス港を奇襲し、英戦艦クイン・エリザベス(三二一、〇〇〇トン) 甲巡アレスーサー(二一〇、〇〇〇トン)の兩艦を撃破した。

また、他の特別攻撃隊は、濠洲シドニー港を強襲し、米戦艦と覺しき艦艇一隻を撃沈し米英陣營に一大衝撃を與へた。

大本營發表(昭和十七年六月五日午後五時)

帝國海軍部隊は特殊潜航艇を以て五月卅一日未明、マダカスカル北端の要港デエゴ・スワレ

ズを奇襲し英戦艦クキン・エリザベス型一隻並に英乙巡アレスーサー型一隻を撃破せり。

大本營發表（昭和十七年六月五日午後五時十分）

帝國海軍部隊は特殊潜航艇を以て五月三十日夜濠洲東岸シドニー港を強襲し港内突入に成功、敵軍艦一隻を撃沈せり。本攻撃に参加せる我が特殊潜航艇中三隻未だ歸還せず。

大本營發表は右の通りで、昭和十六年十二月八日ハワイ海戦に偉功をたて一億國民の胸を打つたあの感激深い特殊潜航艇、それとおなじ特殊潜航艇がまたも凄烈鬼神を哭かしむる壯舉をなし遂げ再び一億國民感激の涙を絞つたのである。

濠洲陸相フォードは、わが特別攻撃隊の勇敢なる攻撃にあふや

戦争は濠洲が豫期してゐた最悪の事態に到達した。日本潜水艦は濠洲の心臓深く刺し込んだが、日本潜水艦の攻撃はこれで終つたのではない。濠洲近海のどこにも、いつでも出沒して縦横に活躍するから國民は肚を決めて最善を盡せ

と、ラジオで全濠洲に呼びかけ、人心の動搖防止に努めたが、濠洲は恐怖戦慄のドン底に叩き込まれた。全世界を震駭せしめたわが特殊潜航艇の強襲攻撃と、わが潜水艦の濠洲沿岸襲撃

はこれまた全世界の注目を惹きつけた。

濠洲政府はわが第二次特別攻撃隊員中中馬兼四、松尾敬宇兩大尉、大森猛一曹、都竹正雄二曹の遺骸を茶毘に附し盛大な合同慰靈祭を行つて軍人の龜鑑と讃え國內對策の資料たらしめた。四英靈は交換船鎌倉丸で十月九日無言の凱施をした。

東太平洋作戦

ミッドウエー海戦と意義

世界の眼が、耳が濠洲に集まつてゐる時、俄然六月四、五兩日に亘りわが海軍部隊は、東太平洋に新作戦を展開し、洋心の軍事據點ミッドウエー島を衝くとともにアメリカ合衆國の軒下アリューシャン列島ダツチハーバーその他軍事要衝を攻撃、その要衝アツツ、キスカ兩島を占領し米本土身近かにわが巨歩を踏みかけた。

米海軍は、わがミッドウエー島攻撃に少なからず狼狽した。ミッドウエーを喪ふことはハワイを喪ふ前堤となる危険があるからで米國の堪へがたいところである。

痛いところを衝かれた米國は、同方面にある全海軍兵力を擧げてミッドウエー島防衛に注ぎ込み、全能力を傾倒した。

これこそわが方のつけ目といふもの、米海軍はミッドウエー島の危機迫るとみるや虎の子の航空母艦まで總動員しミッドウエー方面に向けたのである。

わが機動部隊は、これを狙つたのである。敵機動部隊はわが思ふ壺にはまり出撃し來たところを捕捉し、こゝに凄烈なる血戦死闘のミッドウエー沖海戦が展開され、彼我航空母艦から發進せる飛行機の空中戦となつたのである。敵はミッドウエー島陸上基地から増援せる重爆撃機をもつてわが機動部隊に襲ひかかった。敵空母は、この重、軽爆撃機の翼下に掩護されわが攻撃の中を避退せんとミッドウエー島方面近く遁走するのであつた。

わが航空部隊はこの好餌を逃がしてなるものと挺身、敵重、軽爆撃機の爆撃圏内に肉薄米空母に殺到、猛烈なる防禦砲火の中に突撃敵空母ホーネット型、エンタープライズ型に必中雷、爆撃を加へその一隻を撃沈、他の一隻は大破し遁走中を、わが潜水艦が襲撃止めの魚雷を見舞つてこれを撃沈した。

また、わが海鷲隊の彼我上空において展開されたる空中戦に撃墜せる敵飛行機は實に百二十機を越える大戦果となつた。

この海戦でわが方は航空母艦一隻喪失、同一隻は大破、自爆または未歸還機三十一機といふ大きな犠牲を出した。こゝでも基地空軍の威力の絶大さが切實に示された。

アリューシャン作戦

一方、七、八兩日わが海軍作戦部隊は北太平洋特有の濃霧と荒天を衝き、狂瀾怒濤を乗り切つてアリューシャン列島を攻撃し、敵が北方進攻略と恃む重要根據地ダッチ・ハーバーを爆撃、重要軍事施設を爆撃多大の損害を與へた。

かつまた、七日アリューシャン列島の西端アツツ島を、八日にはキスカ島を占領し、米國の北方進攻略を遮断するとともに、アラスカ及び米本土に對する重大な脅威を與へるに至つた。

東太平洋作戦は、その犠牲の點からも、また收めた戦果はもとより、戦果のもつ意義の點からも大東亞戦争に劃期的一段階を作つたものといへよう。

彼我損害はミッドウエー方面

- (イ)米航空母艦エンタープライズ型一隻及びホーネット型一隻撃沈
- (ロ)彼我上空において撃墜せる敵飛行機約百二十機
- (ハ)重要軍事施設爆碎

ダッチハーバー方面

- (イ)撃墜破せる敵飛行機十四機
- (ロ)大型輸送船一隻撃沈
- (ハ)重油槽群二ヶ所、大格納庫一棟爆破炎上

といふ大戦果を収めたるに對し

わが方の損害は

- (イ)航空母艦一隻喪失、同一隻大破、巡洋艦一隻大破
- (ロ)未歸還飛行機三十五機

この數字が示す通り、ミッドウエーを中心の東太平洋作戦の勝敗の決は自から明瞭である。

米國は航空母艦二隻、飛行機百二十機以上、その他前記の數字が示す通りの大損害を蒙つたのである。

わが方の空母一隻喪失、一隻大破は現有航空兵力量の幾パーセントかが減勢となつた程度で大勢を支配するものではない。しかるに、米海軍の航空母艦二隻喪失は虎の子をなくして航空母艦陣が零にも等しい結果を招來したものである。

米海軍の痛傷は名狀すべからざる深刻なものである。米海軍は、いはゆる珊瑚海々戦の架空の勝利と、このミッドウエー海戦の大勝利を國民に宣傳してゐるやうだが、かつてはマカッサル海戦の大勝利を宣傳して間もなく化の皮を國民からひんむかれたものだが、米國民は珊瑚海々戦やミッドウエーをアメリカの勝利だなどといふ米海軍の宣傳を妄信するやうなお人よしではなく、嚴然たる事實を事實としてこれを認めてゐる。キスカ、アッツ兩島を喪つた米國は唯一と恃む北方進攻路を遮斷され、海空ゲリラ作戦上有力な基地を奪取されるに至り、その國防水域を極度にせばめられたため對日ゲリラ作戦の企圖はこゝに崩壊状態に陥つたわけである。

北太平洋の戦略態勢

太平洋三進攻略は壊滅

北太平洋は、一年の大半氷雪と濃霧に閉され深き冬眠状態をつゞける。

太平洋艦隊を撃滅され、さらに米英濠蘭西南太平洋聯合艦隊を喪失した揚句濠洲を基地に最後の砦を護る虎の子米英聯合艦隊をも撃滅せられてしまった米國は、太平洋を丸裸にされたわけである。

その後、營々と復舊工事を急いでゐるハワイ眞珠港を唯一の根據地とたのみ、米國はいまや寥々たる航空母艦陣と潜水艦による空中、水中のゲリラ戦をもつてする神経戦争以外わが國に挑みかゝる作戦はこゝ當分の間は何一つないといふ哀れなものとなつた。而してそのゲリラ戦を展開すべき進攻略も北太平洋に限定されるかの觀を呈す状態である。

太平洋は廣袤一億七千萬平方キロといふ廣さをもつてゐる。その洋心よりアメリカ寄りの地點にハワイがある。ハワイはサンフランシスコから二千百哩、シヤトルから二千三百九十八

哩、サンディゴから二千二百八十哩、パナマから三千五百九十五哩、アリユーシャン列島ダツチハーバーから二千三十九哩の地點にある。東京からだると三千四百哩の距離がある。

アメリカは、ハワイを東亞侵略の前進根據地にし、ミッドウエー、ウエーキ、ガム等を飛石としてフィリッピンへと中繼基地を固め西太平洋を窺ひ、わが日本を脅威したのである。

南太平洋には、ハワイを起點にジョンストン、キングスマンリー、パルミラ、ハウランド、ペーカー、カントン、エンタペリー、サモア、ツ、イラ、フィジー、ソロモン諸島等その他無数の島が點々と鐵鎖連環をなしニュージールランド、オーストラリアに續いてゐる。

これ等の諸島中、ジョンストン、パルミラ、ハウランド、カントン、ツ、イラ、ソロモン諸島等には飛行基地があり軍事施設もある。カントン、エンタペリーの兩島はイギリス領だが、大東亞戦争開始前イギリスの申出でにより、米英共同でこの島を軍用に使ふ約束を結んだ曰くつきの島である。

アメリカは、武力をもつて東亞に進攻せんとする場合の進攻略三つを研究してゐた。太平洋進攻略といふのはハワイを據點に一直線にミッドウエー、ウエーキ、ガムを経てマニラにその

艦隊主力を移動し日本艦隊を壓倒しやうとするものがその一つである。かの有名な渡洋輪型陣といふ鐵環の陣型で艦隊を作戰目的水域に移動せしむる方法を編み出したのも太平洋を安全に突切るための苦心研究の結晶にほかならぬのであるが、いざ實戰となると渡洋輪型陣も机上作戦以外のものでなかつたことが暴露された。

他の一つは、ハワイから左に南下しバルミラ、カントン、フィジー、ソロモン諸島等を経てオーストラリアに辿りつき、濠洲地中海と言はれた今の大東亞海を西に進んで昭南港（シンガポール）に至り、英國艦隊に合隊、米英聯合して日本に當らうといふものであつたが、これもいまは儚ない夢となつてしまつた。も一つの進攻路こそアメリカに残された北太平洋のアリュウシヤン群島方面から一氣にわが日本に迫らうとする進攻路なのである。ところが前述の如く太平洋は丸裸にされてしまつたのだからアメリカの東亞侵略の野望はその根底から覆滅されるし、恃むイギリスは共同戦線を張らうにも香港は失陥するやら、東亞侵略の最大要衝シンガポールもまた開戦七十日にして忠勇無比なる皇軍により占領せられ、百二十年に亘り根を張つたイギリスの努力は東亞の天地から根こそぎ放逐されるに至り、いまや英國は印度をも放棄せざるを得ない運命に直面しつゝある状態である。

英米の甘言に踊らされたために元も子も無くしてしまつた蘭印の滅亡状態を目のあたりみせつけられた濠洲は、こんな筈ではなかつたと恨みつらみをまぜて英米に救援をもとめ、濠洲の危機を絶叫してみたところが、珊瑚海々戦、東太平洋海戦からソロモン海域の幾多海戦のあの惨敗をみては絶望のドン底に叩きのめされ戦々競々、いまはたゞ奇蹟を恃むばかりである。

右の如く二つの進攻路はすでに斷たれてしまつた上現在まで残された北太平洋進攻コースがアリュウシヤンの尖端アツツ、キスカ島とも失陥、日本軍の領有するところとなつた。

北方進攻路再建を狙ふ

北太平洋のアラスカ半島に連らなり一千哩に亘るアリュウシヤン列島、この列島中最大のウナラスカ島のダツチハーバーには航空基地と潜水艦基地がつくられてあり、艦隊泊地としては相當なものだといはれる。サンフランシスコからもハワイからも同じ二千三十九哩の距離に位置してゐるから、この三點を結ぶと桑港、眞珠灣を底邊とする二等邊三角形ができる。すなはちダツチハーバーはその頂點となるわけだ。

米本土ビュゼットサウンドから千六百四十餘哩あり、アラスカ沿岸のシトカ、コチアクを飛石傳ひに經由すると千九百四十六哩あり、こゝはアメリカ海軍にとり戦略要點で重要な基地となることが判るであらう。

すなはち、ダツチハーバーは、ハワイ眞珠軍港に匹敵する優位の基地だから米海軍は、華府倫敦海軍々縮條約廢棄後全力を擧げて基地に必要な軍事施設を急いだ。同時にこの列島に對しては、第三國の飛行機はもとより、商船といへども近づけない秘密境とした。

ウラナスカ島には、ダツチハーバーのほかにもリユリーク灣とキヤプン灣の二つがあり、いづれも海軍根據地となし得る好適の灣であるからこゝには適當に施設を構築してあるものともみなければなるまい。

アドカ島、キスカ島さらに前進してアリユシヤン列島の最南端から西方二百哩のところにはわが軍占領のアツツ島とその近くにキスカ島がある。

アツツ島の正西方六百五十哩のところにカムチャツカのペトロパウロフスク港がある。このペトロパウロフスク港とわが千島列島北端とは僅々二百哩、目と鼻の間にあり、カムチャツカ半

島から北海道は僅かに六百五十哩の近距離にあることをわれらはこゝに銘言すべきである。

米海軍はシトカ、コチアクを飛石傳ひにアリユシヤン方面に艦隊移動並に空軍移動演習を行ひ對日作戰に萬遺憾なきを期した。わがアツツ、キスカ兩島占領後米國はあわてゝカナダ軍用路の完成を急ぎ、ダツチハーバーに有力な空軍兵力の移動増強を行ひ、こゝを基地に熱田（アツツ）鳴神（キスカ）兩島奪回の機を狙ふ攻撃が執拗反覆される。わが忠勇無双の陸海守備軍は酷寒と闘ひつゝ來襲する米空軍を激撃撃退、鐵壁の護りを固めてゐる。

米國の恃む進攻路は、熱田、鳴神兩島の失陥のため逆に日本の對米進攻路と變り、アメリカはアラスカ、米本土の脅威を身近かに受ける結果となつたといへるであらう。

しかし、アリユシヤン列島の戦略態勢を検討するとき、ソ聯領カムチャツカのペトロパウロフスク港の存在と、四月十八日正午過ぎ京濱地方、その他わが本土空襲に現はれた米國爆撃機ノースアメリカン機來襲の事實が想起されねばならぬ。

米國爆撃機の片道爆撃の奇襲は常識を出でない戦法であり、いまとなつては再攻を企てたところで大勢を動かすに足る大規模の來襲はこゝ當分の間不可能といつてよからう。だが、米爆

撃機が現に支那大陸に、あるひはソ聯に着陸した事實があること、また米國のソ聯抱き込み工作をめぐる米ソ關係を凝視し、現に米國は蔣介石と合作、支那大陸に多數の飛行機を送り對日奇襲作戦を練り虎視眈々と窺ひつゝある實狀をわれ等は銘記しなければならぬ。

ソロモン海戦

米英大艦隊出撃

米英聯合軍は、その後濠洲シドニー軍港を基地にして米、英、濠の残存艦艇中集結し得るものをかき集め、現狀における可能最大最強艦隊を編成し、反撃の企圖をもつて蠢動しあることを察知し、その動向について嚴重監視中であつた帝國海軍部隊は、果然八月七日哨戒隊の報告によりその具體的事實を知つた。

すなはち、米英聯合艦隊は、大輸送船團を護衛し大舉北上しつゝあるのだが、敵艦隊の企圖は果して何であるか、それはソロモン諸島ツラギ方面に迫り、ガタルカナル島救援に向ふのだといふことは直ぐ判つた。

根據地で待機中の〇〇艦隊は、これが撃滅のため直ちに出勤、先づ航空部隊をもつて第一撃を加へることとなつた。

敵米英聯合艦隊は、少くとも戦艦約二隻、航空母艦二隻以上、巡洋艦甲巡、乙巡を合して十四隻以上、驅逐艦十二隻以上、潜水艦三隻以上で編成された大艦隊であることは、輝く大戦果が撃沈破艦艇三十隻に上つた事實で明らかに立證される。

この大艦隊が十數隻の輸送船團を護衛し、大舉ソロモン諸島方面に殺到したのだから、敵ながらその壯觀、すばらしいものがあるが、わが海鷲にとりこの上ない好餌といふべく、海鷲部隊は勇躍基地を進發した。

わが海鷲部隊の第一次襲撃は、先づ雷爆撃機部隊により敢行された。わが海鷲の襲撃と知るや敵戦闘機部隊はけなげにも反撃、味方艦隊掩護に躍起となつて防戦に努めた。わが護衛戦闘機群はこれを邀撃、彼我戦闘機群は入り亂れ秘術を盡して激闘、壯烈なる空中戦を展開したが敵機はたちまちグラマン戦闘機、戦闘機兼爆撃機等混せて五十八機撃ち墜され驅逐艦一隻撃沈、同一隻大破し前哨戦ともいふべき第一會戦はわが軍の一方的勝利に幕を閉じた。

明けて八日晝、わが海鷲爆撃機、雷撃機兩部隊は敵艦隊を捕捉、これに猛撃を加へた。四十隻以上の敵大艦船群はわが雷、爆撃部隊の殺到に夢我夢中の避退行動を起し、全速でジクザク航進を始めたので艦列は算を紊し大混乱に陥りながらも必死となつて防空銃砲火を亂射したので空中は火箭の槍襖、彈幕の墻壁となつた。

わが海鷲群はこの苛烈極まる彈幕を突撃して敵艦艇に殺到、必中捨身の雷、爆撃を敢行して敵艦隊に大損害を與へた。

凄愴苛烈な夜襲戦

八月八日、この日こそ八回目の米英撃滅の大詔奉戴日である。〇〇司令長官統率の精銳艦隊はこの佳き日、ツラギ海峽に集結せる敵米英聯合艦隊撃滅を期し敵陣營に躍り込み凄絶きはまる夜討ちをかけたのである。

ツラギ海峽に避待集結せる敵米英聯合艦隊撃滅の使命をもつわが〇〇艦隊は敵偵察機の眼を晦ますためにあらゆる苦心を拂ひつゝツラギ海峽に迫つた。

〇〇艦隊は敵大艦隊の眞只中に躍り込み奇襲、暗夜の裡に一舉これが撃滅を期する捨身の戦

法に出やうといふのだから、萬一の場合味方の混乱同志撃ちなどを避けるためにも粒よりの精銳少數の艦艇をもつて編成されたものゝやうに見受けられる。

〇〇艦隊の艦列は八日午後〇時頃高速白浪を蹴立て北上中、敵の偵察機は遙か上空からわが艦隊の行動を監視するが如くつき纏ひ容易に離れやうとしない。

執拗にわが艦隊を追跡した敵偵察機は、やがて何處ともなく姿を消した。敵偵察機は逸早く無電の鍵を叩いて見たまゝの偵察状況をこと細かに司令部に報告し意氣揚々と歸還したものであらうか。

この事實は天佑であり、陽動作戦がまんまと效を奏したものだといふべきである。敵は日本艦隊の行動から判断して、おそらく其の基地方面に還るのだらうときめたであらう。何となれば米英聯合艦隊の隻數的兵力量から見て僅々〇隻の艦隊をもつてぶつ突かつてくるやうな彼等の常識にない非常識は、たとへ日本艦隊でも爲し得る筈はないと斷定したに相違ないからである。

『今夜の奇襲成功疑ひなし』

〇〇艦隊幕僚室は必勝の信念に溢れた。艦隊は意氣天を衝き將兵の士氣大いに昂つた。

士氣訓練の相違

艦隊の作戦企圖はその行動により推知できるのだからその行動が秘匿されるか否かは戦闘の勝敗を決定する重要なことであることは言ふまでもない。わが艦隊はあれから日没に至るまで完全に敵の眼を晦ましツラギ海峡へと忍び寄ることができた。まさにこれこそ天佑神助でなくてなんであらう。

すでに偵察、誘導、観測その他重要任務を帯びるわが水上偵察機は爆音勇ましく發艦、夜陰の空を翔んで行つた。

戦機は刻々と迫つて行く。

暗黒に塗り潰された中を白浪を截つて幕進すること〇時、ツラギ海峡深く突入した時

『右〇〇メートルに艦影が見えます』

右舷見張員は叫んだ。敵の哨戒艦である。だが敵哨戒艦は間もなく闇に姿を消した。

敵の見張員は居眠りでもしてゐたのか、日頃の訓練が足りないため視力に欠けてわが艦列を

発見することができなかつたのだらう。でなければ、敵は意表を衝くこの奇襲作戦を夢にも思はない結果、實はわが艦影を見つけるには見つけたがそれは友軍艦艇の轉錨移動とでも誤判断したのかも知れない。

艦艇は碇泊中、夜になると晝間の錨地を移動し、碇泊位置を變へて敵の眼から避けその攻撃目標を晦ますのが常識だからである。

いまや將に敵陣に突入切つて切つて切り巻くらうといふ突撃隊形で幕進中の〇〇艦隊は〇〇司令長官坐乗の旗艦を先頭に隼の如き俊敏の精銳巡洋艦以下〇隻で坎を銜んで暗夜の進撃である。

遙か行くてに行燈を灯したやうに薄ぼんやりと光りが見へた。晝間わが海鷲の攻撃に散々撃ちのめされた敵艦船の餘燼であらう。これこそわが夜襲攻撃部隊の屈強の好目標である。

先行したわが艦載水上偵察機は早くも敵艦隊上空を旋回審さに偵察してゐる。この偵察機のおかげはわが軍の空襲を豫期するものゝやうに役立つたのか對空防禦に注意を奪はれてゐるやうだ。

それは、いかに日本海軍といへどもツラギ海峡の奥深く突入してくるものとは信じられない。ツラギ海峡には米英兩大海軍國の聯合艦隊が碇泊してゐることは日本海軍は知つてゐる筈であり、また艦隊兵力量からすると米英聯合艦隊は壓倒的優勢であるから日本艦隊は到底太刀打ちはできない。それを強いて強行したところで虎穴に入るの無暴で袋の鼠同様である。とかう見るのは彼等の常識であり高を括つてゐたものと解される。

だからこそ哨戒艦が暗夜に艦影を發見したところで適確なる判断が下せるものでない。却つて自分の眼を疑ひ、先入感によつて處理され勝ちであるのは己むを得ない。

それから間もなく左舷〇〇メートルにまた艦影を發見した。敵驅逐艦である。左砲戰準備が整へられた。砲術長は満を持して戰機を待つ。突如!! パツと空中に光弾が炸裂した。強い光りが空中で照明してゐる。

わが友軍偵察機が投下した戰鬪開始合圖の照明彈である。

高速驀進のわが艦列は、各艦いづれも艦首に白浪の飛沫を擧げる長蛇の進撃である。艦列の左舷に白光に閃めく飛沫がひときは鮮やかに幾つも擧がつた。

これぞ敵艦の胴腹めがけて射ち出された魚雷である。無數の魚雷の航跡は闇の波を縫つてあだかも生命あるものゝ如く敵艦へと猛進した。

命中!! 魚雷は見事命中、幾本かの水柱がムク／＼と噴きあがり檣頭の幾倍もの高さに立つた。水柱はやがて怒濤の如く崩れ落ちて艦艇を包んだ。艦艇は爆布の如き飛沫に包まれたまゝ、ドス黒い海面に吸ひ込まれてしまつた。ほんの瞬間のできごとである。荒れ狂ふ魚雷の猛威に大混亂に陥ちた敵陣は赤い火の玉、青い火の玉を射ち、あるひは吊光彈を射つやら、砲門を開いて亂射亂撃めくら射ちの態たらくである。

敵の吊光彈に照らし出されたわが夜襲攻撃隊の艦列は隊伍堂々、敵陣に殺到しつゝ主砲は一齊に咆吼した。轟然たる砲聲は黄褐色の火焰の閃光渦巻きの中に轟いた。

わが必中砲彈の齊射が行はれるたびに、これに應ずることく敵陣營の闇にあちこちからパツ／＼と火焰が閃めきわが的確なる必中砲彈の命中炸烈を報じる發火信號のやうだ。

わが艦上から照射する探照燈の光芒の中に浮彫りのやうに映し出される敵艦の轟沈、爆沈、大火災の光景、またそののたうち廻はる斷末魔の敵艦から撃ち出される發光彈は赤、青の尾を

曳き孤線を描いて空中を流れる光芒の交錯するさまは煙火のやうに美しい。

息詰まる思ひの魚雷攻撃、凄まじい砲戦は約三十六分間に互り敢行され九日午前零時二十分全艦避退の命令が〇〇司令長官から發せられた。

〇〇司令長官は双眼鏡を握り砲煙彈雨の旗艦々橋に立ちて刻々に繰りひろげられて行く戦闘経過を見まもり至妙の統帥を完遂されたのである。

山本司令長官の金言

司令長官が最先端の陣頭に立ちて全軍を指揮し、勇猛果敢なる夜襲戦をも敢行する敢闘精神こそ帝國海軍の連綿たる傳統である。〇〇司令長官はこの輝く傳統を簡明直裁に具現實行したものであつて、この傳統こそ世界無敵海軍の生命である。

〇〇司令長官のこの寡兵を率いて、目に餘る敵大艦隊陣營のふところに躍り込み、思ふ存分撃ち卷くつて敵を完膚なきまでに叩きのめした夜襲戦は世界海戦史を飾る永劫不滅の記録となるであらう。

艦隊司令長官の陣頭指揮についてかういつた挿話がある。

大東亞戦争勃發數ヶ月前のある日、地方長官が聯合艦隊旗艦〇〇を視察した。地方長官連が旗艦〇〇の艦内を一わたり視察見學してから士官室で司令長官山本五十六大將の挨拶があつた。

山本司令長官は自から矢面に立ちて地方長官連の質問に應じられた。

艦橋は敵の攻撃目標となり、飛行機の機銃掃射もこゝを狙ひ集中するといはれる、そんな危険な場所で最も大切な司令長官が指揮されるよりも、もつと安全な司令塔で指揮されるのがよきと思ふ。

一 地方長官はかういつた意味の質問をした。近代の艦隊は編成も非常に大きくなり、航空機、兵器等の著しい進歩發達を見た。従つて太平洋も狭くなつた。かういふ情況にあり、大艦隊を指揮する司令長官は、最も指揮をとり易い便利な位置を占めてゐなければならぬ。といふのは、敵艦隊を發見して對敵措置をとるために分秒を争ふ。敵を先制して攻撃する態勢を整へる。これが早いか遅いかで勝敗を決定してしまふ。だから敵に先んじて攻撃態勢を整へてしまへば、司令長官はたとへ戦死したからといつて、海戦は勝てる。司令長官に代つて幕僚が指

揮をとつても勝利へ導くことができる。

司令長官が最先頭に立つて指揮することはこの山本が發明したのではなく、またさう決めたものでもない。指揮官陣頭指揮はこれわが帝國海軍傳統の戰陣訓である。三笠艦橋に起つて指揮をされた東郷司令長官については己に承知されてゐる通りである。

山本聯合艦隊司令長官は、かういつた意味を極めて明快に説明され、帝國海軍の司令長官は誰でも陣頭指揮をとり、海戦には旗艦々橋に在り先頭に立つて闘ふのが建前であることを斷言された。

司令長官も、參謀長以下幕僚も、艦長も下士官兵も、將兵は皆一連托生、艦と運命を共に敢闘するこの海軍精神から無敵海軍が生れるものだといふことがはつきりと判かつたのである。まことに頼母しい限りである。

ソロモン海戦のあの痛烈極まる夜襲戦における〇〇司令長官の場合、寡兵をもつて大軍に斬り込む夜襲戦を長官自ら陣頭に立つて指揮された實例こそ〇〇司令長官によつて作られた輝かしい不滅の戰史記録であり、同時にかうした作戦そのものが戰史未曾有の新記録として特筆大

書されねばならぬものである。

ソロモン海戦の夜襲は、物の見事に成功を収め一方的勝利に終始し、わが艦隊は攻撃三十六分間にして砲戦を中止凱歌を擧げた。

翌九日早朝、わが航空部隊は、殘存敵艦艇を求めて攻撃、最後の止めを刺すべく出動し、ツラギ海峡周辺の海面掃蕩を行つた。わが必殺の鋭鋒を遁がれシドニー方面に脱出しつゝある英國乙級巡洋艦アキリーズ型を捕捉これを爆撃沈没せしめソロモン海戦の幕は閉じた。

輝く戦果についてわが大本營は次の如く發表した。

〔大本營發表〕（八月十四日午後三時三十分）

八月十四日迄に判明せる「ソロモン」海戦の綜合戦果左の如し。

一、撃沈艦船

米甲巡 ウイチャタ型 一隻（旗艦）

米甲巡 アストリア型 五隻（内一隻旗艦、内一隻轟沈）

英甲巡 オーストラリア型 二隻（内一隻轟沈）

英甲巡 艦型未詳

一隻(轟沈)

英乙巡 アキリーズ型

一隻

米乙巡 オマハ型

一隻

乙巡 艦型未詳

二隻

駆逐艦

九隻

潜水艦

三隻

輸送船

一〇隻

一、撃破艦船

甲巡 艦型未詳

一隻(大破)

駆逐艦

三隻(大破)

輸送船

一隻(大破)

三、撃墜飛行機

戦闘機

四九機

戦闘兼爆撃機

九機

尙本海戦に於ける我方損害

飛行機自爆

二二機

巡洋艦二隻軽微なる損傷を受けたるも戦闘航海に差支なし

ソロモン群島の戦略的價値

ソロモン海戦のこの戦果が示す通り戦闘はわが方の一方的大勝利であることはむろんだが、
壯烈なる自爆を遂げた廿一機のほとんど悉くが體當り必殺戦法による肉弾戦をもつて南海の華
と散つたものであり、また軽微なりとはいへ巡洋艦二隻損傷を受けた事實に徴してこの海戦が
いかに激烈なる死闘であつたかを知ることができる。

ソロモン諸島は地圖を擴げて見れば一目明瞭なる如く、ガタルカナル島、ツラギ島、ワナワ
ナ島、フロリダ島等々大小無数の島嶼から成り、カントン、バルミラ、キングスマンリーフ、
ジョンストン等諸島基地を経てハワイに連らなり、一方サモア諸島ツイラ島、トンガ諸島、
からニュージランドを経て濠洲に至るアメリカ本土、ハワイ、濠洲を結ぶ連絡要衝であるこ

とが判かるであらう。

従つて、米英にとりては、これが興廢こそ直接米英の安危存亡を支配する鍵となる。殊にソロモン諸島を日本の基地たらしめれば、マライ、スマトラ、ジャワ、ニューギニヤ、ニューブリテンを繋ぐ東亞共榮圈を鐵鋼の紐帯となし、トラック、マーシャル、大島島と相俟ちて日本帝國は軍事的經濟的に絶對不敗の戰略態勢を固めることとなる。

さうなると、米濠の連絡路は斷ち切れ、濠洲は孤立無援の状態となり、濠洲は米國の前進基地たり得ないばかりか、濠洲の運命も決定的となるし、またハワイの戰略的價値が著しく減殺されることは明瞭である。狀況によつてはその價値は零にもなる可能性は十分あらう。

その結果については自から明瞭である。すなはち、米國は、持てる國としてその豊富な資源と、有り餘る黄金をもつて尨大なる軍備の再建を完成し、彼等が豪語するごとく一九四四年までに強力なる海軍、空軍を編成し得たとしたところで、それ等のものを十分活用するに必要な肝腎の基地が太平洋のどこにもなくなつてゐるとしたら、それこそ寶の持ち腐れといふ極めて皮肉な結論を見出すであらう。

太平洋が完全に清掃されてしまへば彼等がいかに地駄太踏んだところで、大東亞共榮圈は微動だにしない磐石となるであらう。斯ふ見てくると、ルーズヴェルト大統領が濠洲防衛に躍起となり、ソロモン諸島保持に血みどろとなつて防戦に努めてゐる心情がよく判かる。

濠洲保持が出来るか否かは、米國に直接致命的影響を持ち、米國自體の防衛であり、ソロモン諸島の安危は、すなはち濠洲の死命を制し、ハワイの軍事的價値を減殺することとなるであらうことは前述の通りである。従つてこの見地からしてソロモン諸島は日米兩國にとり關ヶ原的重要據點であるから、これが爭奪戦はさらに激烈を極めるであらう。

第二次ソロモン海戦

空母同士の血戦

大本營發表（八月廿七日午後四時）

ソロモン群島方面帝國海軍部隊は八月廿四日敵米増援艦隊を同群島東方洋上に捕捉、直ちに航空部隊をもつて急襲し、これに大損害を與へ同方面より撃攘せり。

本日まで判明せる新戦果左の如し

米空母新大型一隻轟沈、同中型一隻中破、米戦艦ペンシルバニア型一隻中破、
本海戦に於ける我方の損害

小型空母一隻大破、駆逐艦一隻沈没

(註) 本海戦を第二次ソロモン海戦と呼稱す。

八月七日から三日間に亘る海戦中敵米海軍はソロモン諸島ガタルカナル島に上陸せしめた海兵隊一萬餘(この數字は米國の呼稱)は同海戦にわが海軍部隊の猛攻に艦船四十隻撃沈破せられ、後方兵站線を断ち切られたため折角上陸したものゝ孤立無援の危機に陥ちた。

米海軍は、捨てゝは置けない是が非でもこれが救援をしなければならぬのだ。敵は残存航空母艦をはじめ艦艇をかき集めそれに艦艇二隻を配し機動部隊を編成して八月廿四日ニューヘブライズ島方面から北上、ガタルカナル島基地海兵隊の救援に向つた。

同日午後ソロモン諸島方面偵察中のわが哨戒機は敵機動部隊の北上を發見した。哨戒機からの無電にわが航空部隊は機を失せず出撃、敵機動部隊めがけて殺到した。

航空母艦を發進せるわが海鷲群は敵の機先を制して敵空母群に襲ひかゝり必中雷爆撃を浴びせた。敵空母はなんと新しい大型航空母艦ではないか、意外な獲物があるのにわが海鷲の士氣昂り闘争力は百倍するのであつた。新大型母艦もわが猛攻にたちまち大火災を起し紅蓮の焰を噴きだしやがて猛煙に包まれた。

全速避退航走の艦列に落伍した新大型空母を尻目にわが攻撃隊は米中型空母に躍りかゝり、これにもまた大火災を起さしめた。

味方艦艇の危機に躍起となる米戦闘機群はわが攻撃隊の雷、爆撃を必死となつて妨害する中を物とせす吞舟米戦艦に殺到するのであつた。目指す戦艦こそペンシルバニア型(三三、一〇〇トン)である。わが猛攻は艦列を紊し四分五裂となつた中にペンシルバニア型戦艦は全銃砲火を開いて弾幕を張りわが攻撃隊を包んだが、この時早くわが必中必殺の巨弾は敵艦に命中轟然と炸裂するものであつた。

一方、敵空母から發進せる爆撃機はわが海上部隊に來襲猛威を揮ひ彼我空海において壯烈なる激戦死闘が演じられた。

このとき已に夕闇迫まり、夜闇の幕が兩軍を割つて引き放してしまつた。艦隊の肉薄砲戦と異つて洋上の空戦は、ある限度に達するか、視界がなくなれば戦闘中止となるはやむを得ない。敵米機動部隊がガタルカナル島に向つて北上をつゞければ、わが海軍部隊が得意の夜戦で猛攻撃滅するのであるが敵は凄絶なる死闘に暮れるをもつけの幸ひと、ガタルカナル島友軍海兵隊を見殺しに救援の意圖を捨て、遁走してしまつた。

かくて第二次ソロモン海戦は夜闇とともに幕を閉じたのである。

なほ、第二次ソロモン海戦以後八月廿五日より南太平洋海戦の前日十月廿五日までにソロモン諸島周辺において幾多の血戦死闘が行はれたことは大本營發表の左の大戦果が物語つておる。

南太平洋海戦

大本營發表（昭和十七年十月二十七日午後八時三十分）

（一）帝國海軍は十月二十六日黎明より夜間に亘りサンタクルーズ諸島北方洋上に於て敵有力

艦隊と交戦、敵航空母艦四隻、戦艦一隻、艦型未詳一隻を撃沈、戦艦一隻、巡洋艦三隻、驅逐艦一隻を中破し、敵機二百機以上を撃墜その他により喪失せしめたり。

我方の損害

航空母艦二隻、巡洋艦一隻小破せるも何れも戦闘航海に支障なし。

未歸還機四十機

（註）本海戦を南太平洋海戦と呼稱す。

（二）第一次「ソロモン」海戦以後南太平洋海戦直前迄即八月廿五日より十月廿五日に至る間に於ける「ソロモン」群島方面の帝國海軍部隊の戦果左の如し。

（イ）艦船

撃沈・米航空母艦「ワスプ」、巡洋艦三隻、驅逐艦五隻、潜水艦六隻、輸送船六隻、掃海艇一隻大破、戦艦一隻、航空母艦一隻、巡洋艦一隻、潜水艦一隻、輸送船二隻、掃海艇一隻中破、航空母艦一隻

（ロ）飛行機

撃墜 四〇三機、地上撃破九七機

其の外敵B十七型大型、爆戦機に對し大なる損害を與へたり。

(一)艦船 我方の損害

沈没 巡洋艦二隻、驅逐艦二隻、潜水艦一隻、輸送船五隻

大破 驅逐艦一隻、輸送船三隻、

中破 巡洋艦一隻、驅逐艦二隻、潜水艦一隻、

(二)飛行機

自爆 二十六機

大破 三十一機

未歸還機七十八機

乾坤一擲の敵大攻勢

海戦史未曾有のソロモン群島ツラギ海峡強襲夜戦以來無氣味な沈黙を守つてゐた帝國海軍は六十餘日目の十月廿七日南太平洋海戦と、ソロモン方面海域における輝く大戦果を發表し世界

を震駭瞠目せしめた。

アメリカ西南太平洋艦隊は、有力なる海兵隊を満載せる輸送船團を護衛して八月初旬ソロモン群島に迫りその要衝ガダルカナル島に海兵隊約一萬(米國側の誇稱)上陸せしめて以來これが確保と後方連絡に全力を盡すのであつた。

ルーズヴェルト大統領やその一黨は、敗戦につぐ敗戦の責任を糊塗し、輿論の緩和に心を碎きあの手この手と智慧を絞つた結果デツチあげたのが對日反攻態勢確立計畫である。

米海軍は、保有するあらゆる艦艇のうち大西洋を英海軍に委せ、割き得る全艦艇を太平洋にかきあつめて西南太平洋艦隊を編成した。

この艦隊はノックス海軍長官が自慢のアメリカ海軍が編成し得る最大最強のものでつた。而してゴムリー提督を誅り、これに代へるに空軍の權威前航空戦隊司令官ハルゼー中將を拔擢起用して司令長官とし、艦隊の雁首のすげかへをして此優勢艦隊に多大の期待をかけたのである。

ハルゼー艦隊は、米國朝野の期待に應へるやう濠洲方面の根據地を出動北上した。この艦隊は、少くとも航空母艦三隻以上、戦艦二隻以上(これはわが海軍部隊に撃沈破された隻數)を

基幹とせる有力艦隊であることは確實である。洵にノックス海軍長官が期待をかけ大いに自慢した最大最強のものであるといふその最大の點だけは誇張でもない眞實のやうだ。

かうした優勢艦隊に物をいはせてソロモン群島の戦略要點確保のためガダルカナル島に揚陸しある海兵隊への補給護衛にあたり、かつ日本艦隊を探しもとめて一舉に撃滅し、ソロモン海域の征海征空権を掌握しやうといふ作戦と思はれだ。

米海軍にとりてはこれこそ乾坤一擲、一石二鳥三鳥ともいふべき大作戦である。すなはち、この作戦が成功すればアメリカは米濠を固く結ぶハワイ、ジョンストン、パルミラ、カントン、サモア諸島、サンタークルーズ諸島、フィジー諸島、ソロモン諸島、ニューカレドニア、ニュージールランド等から濠洲へと七千餘裡に亘る強靱なる鐵鋼の紐帯が確保完成される。したがつてこの紐帯は、どの一環をもつてしても、對日反攻の有力な據點となるのである。しかも萬が一戦捷により制空制海権を握らんとする夢が實現すれば、緒戦以來の頽勢は一舉に挽回の緒につき、かれらが誇稱する一九四四年の總反攻の基礎が確立することになる。ルーズヴェルト大統領とそ一黨は、かうしたはかない夢を描いてハルゼー艦隊に期待したのである。

外電の傳ふるところによると、

南太平洋における目下進行中の日米海戦は二ヶ月にわたる日米海戦の總決算である。

と廿五日(アメリカ日附)ワシントンの米政府は得々として期するところあるものゝ如く自信たつぶりの態度をもつて南太平洋海戦を國民に告げた。

蓋を開けてみると、なんと海戦の結果は、ルーズヴェルトが期待したものとはおよそ似てもつかぬ反對のものであつた。しかも、十月二十七日といへばアメリカ海軍記念日だ。この記念日にルーズヴェルト大統領はノックス海軍長官にメツセージを贈り、海軍の功績をたゞへたといふことである。

皮肉なことに、アメリカ國民はこれらの新聞記事に酔はされてゐるところへ、わが海軍からの贈物が米西南太平洋艦隊撃滅であつた。ルーズヴェルト大統領も、ノックス海軍長官も、またアメリカ國民もグワンと一發メリケンをくらつたやうに呆氣にとられたのは笑止の沙汰といふべきである。

アメリカは南太平洋ソロモン海域に第二線を展開しやうとした企圖を破挫せられたばかりか

太平洋にかき集めた艦艇のうち戦艦以下六十三隻を撃沈、十九隻撃破せられ、飛行機に至りては八百機近いものを喪失、再起はきわめて困難の状態に陥ちた。

だが、かれらは敗残艦艇をかき集め、さらに執拗なる反攻企圖に出るであらう。ガダルカナル島を完全に失ふまでは、その海軍力のつゞくかぎり反攻をつゞけることであらう。

第三次ソロモン海戦

初めての戦艦血戦

大本營發表(十一月十八日午後三時三十分)

十二日以来戦鬪續行中の帝國海軍部隊は十三日夜ガダルカナル島敵航空基地を猛撃、飛行場及び其の施設に大損害を與へ更に翌十四日敵機の猛烈なる反撃を排除しつゝ味方輸送中、同日夜間同島の西北方に於て戦艦二隻、大型巡洋艦四隻以上を基幹とする敵増援艦隊に遭遇、之と激戦の結果其の補助部隊の大部を潰滅し戦艦二隻に重大なる損害を與へ之を南方に敗走せしめたり。

現在迄に判明せる十二日以来十四日迄の綜合戦果並に我方の損害左の如し。

一 艦船

撃沈 巡洋艦八隻(内新型三隻内五隻轟沈)、驅逐艦四隻乃至五隻、輸送船一隻
大破 巡洋艦三隻、驅逐艦三隻乃至四隻、輸送船三隻
中破 戦艦二隻

二 飛行機

撃墜 六十三機
撃破 十數機

三 我方の損害

戦艦一隻沈没
同 一隻大破
巡洋艦一隻、驅逐艦三隻沈没、輸送船七隻大破、飛行機卅二機自爆 九機未歸還

(註)十二日以来十四日迄の海戦を第三次ソロモン海戦と呼稱す。

わが大々くは右の如くまたしても世界を震撼せしめた。

第三次ソロモン海戦は、十一月十二日晝夜戦に引きつゞき十三日から十四日にかけてソロモン諸島戦略要衝ガダルカナル島周辺において展開された。

すなはち、十二日輸送船団を護衛する敵有力艦隊の北上、ガダルカナル島方面に向ふを發見せるわが海軍部隊は、大舉出動、まづ航空部隊をもつて雷爆撃を加へ敵新型巡洋艦一隻、乙巡一隻轟撃沈、輸送船三隻大破炎上せしめ、飛行機十九機を撃墜破した。

また、同十二日夜に入るや、わが艦艇部隊は、晝間わが海鷲のため散々撃ち叩かれ四分五裂した敵艦隊が艦列を整へ、やれ／＼と思つたところを襲撃、得意の夜襲戦に砲雷撃を加へた。縦横無盡に馳驅するわが水雷戦隊は、敵のふところ深く躍り込み、必中必殺の魚雷を射ち込めば、わが戦艦および巡洋艦は、これまた、一發必中の巨弾を敵艦に叩きつけ凄愴苛烈な激闘をつゞけ、敵新型巡洋艦二隻、大型巡洋艦二隻、驅逐艦一隻轟撃沈、巡洋艦二隻、驅逐艦三隻大破せしめる大戦果をあげた。

奇手艦艇の敵飛行場砲撃

翌十三日夜、ガダルカナル島に突進肉薄せるわが艦隊は、一齊に砲門を開いて敵ルンガ飛行場に猛烈果敢なる砲撃を加へ、熾烈な巨弾の雨を浴びせた。

カダルカナル島沿岸に突込んだわが艦艇群の主砲は、轟然と一齊に咆哮、南海の夜空を截つて敵飛行場に炸裂する巨弾は格納庫、軍事施設、滑走路等を吹きとばし、諸施設は紛碎炎上し紅蓮の劫火は空を焦がし壯觀凄絶をきはめた。同島所在の敵空軍兵力は甚大なる損害を蒙つた。かくの如く、艦艇群は、挺身ガダルカナル島周辺に迫り、あるひは敵艦隊と遭遇、あるひは陸上施設飛行場等に砲撃をくりかへしたのだが、これらの諸海戦中には、精銳無比なるわが海軍部隊の戦艦あるひは巡洋艦群により砲撃激戦もあり、この種飛行場に對する艦砲射撃を敢行といふやうな戦闘は、世界戦史にその類例をみないばかりか、その豪壯放膽なる作戦と戦果は不滅の殊勳といふべきである。

猛烈なる前哨戦は十二日以来十三日夜戦までつゞいたが、翌十四日わが艦隊は、敵の執拗かつ熾烈なる反覆攻撃を排除しつゞ同日夜に入り、輸送船団を護衛してガダルカナル島に突進肉薄するや、敵は戦艦二隻、新型巡洋艦四隻以上を基幹とする有力なる増援艦隊をもつてわが輸

送船團撃滅の意圖を示し出撃してきた。

この敵有力艦隊は、ガ島西北海上に突如現はれたので、わが艦隊は直ちにこれを邀撃、猛烈果敢なる攻撃に突入した。

暗夜に遭遇せる彼我兩艦隊は突撃、また突撃舷々相摩す近距離に近迫し、息詰まる砲戦、魚雷戦が展開された。

敵戦艦より射出す砲弾はなか／＼熾烈を極めたが、その戦艦こそは米海軍が虎の子と恃む新鋭ノースカロライナ型(三五、〇〇〇トン)アイダホ型(三三、四〇〇トン)である。

先制、わが必中魚雷の攻撃にノースカロライナ型は魚雷二本以上、アイダホ型は魚雷三本以上を喰らつて巨體の胴腹からムク／＼と盛りあがる大水柱の崩れ落ちる飛沫の中に幾度か覆はれ隠見した。

また、わが主砲の巨弾十數發は敵艦に命中、閃々と炸裂する光芒の散る光景がマザ／＼と確認された。

そのうちの一艦のごとき、わが巨弾のため艦橋を吹き飛ばされて大損害を蒙るや、すでにそ

の手、足、目の役目を擔ふ巡洋艦、驅逐艦等の補助部隊は大部分わが艦隊のため撃滅せられその手、足、目をもぎとられ丸はだかとなつたまゝ他の傷ついた戦艦とともに闇にまぎれ辛ふじて南方に敗走してしまつた。

陸軍部隊の揚陸に成功

さしもに執拗かつ頑強に出撃してきた米西南太平洋艦隊も、撃沈破廿六隻の艦艇船舶、撃墜破飛行機七十餘機以上を出し潰滅的打撃を蒙るや、わづかに撃沈破を免がれた敗殘艦艇は、さすがに居たたまれずソロモン群島周邊から遁走、醜い敗殘の姿を消すに至つた。

わが輸送船團はそのうちの七隻大破せられたが、上陸部隊の揚陸は見事成功を収めた。しかも敵の撃滅企圖を撃挫挫折せしめたばかりでなく海戦の結果はあべこべに敵西南太平洋艦隊をぐつと引きつけて撃滅状態に叩きのめしたのである。

わが方の損害中の沈没せる戦艦一隻は、十二日夜戦に挺身敵艦列に突込み獅子奮迅の激戦血闘をつゞけ殊勳をたて、なほも進撃中十三日朝ガダルカナル島方面敵基地空軍百機餘りの大編隊の包圍に陥ち勇戦奮闘の末壯烈なる最期を遂げたもの、また、他の一艦は十四日の夜戦に敵

戦闘艦との血戦激闘中大破となつたが、この戦艦群は常に補助部隊の核心をなして挺身奮戦し、該部隊を有利に誘導、十分なる活動をなさしめたものであつてその奮戦力闘の功績は絶大といはねばならぬ。

今次ソロモン海戦を含む八月七日以来のソロモン群島海域の海戦は、海洋作戦に伴ふ陸、海、空三位一體の近代立體海戦がいかに凄烈死闘の様相を現出せるものであるか、また至遠距離作戦において基地航空兵力に有力艦隊をもつてする敵基地に對し、執拗反覆する敵の猛反撃を排除しつゝ輸送船團を護送、上陸作戦を敢行することの困難かつ犠牲の多いこと、さらにまた、これが補給の至難なるかはガタルカナル島周邊ソロモン海戦により餘すところなく立證された。しかもそれはわれらの胸を強く打つものがあつた。

かゝる作戦は、世界海戦史に未だかつてその類例をみないわが帝國陸海軍により初めて記録されたる雄渾放膽なる千古不滅の大作戦といふべきである。

而して、これが戦局の決するところ、ソロモン群島海域の制空、制海權の歸趨を決定するものであり、日米戦争興廢の鍵たることは敵米國が自稱する通りであるだけに、ソロモン海戦の

意義は極めて重大かつ深刻であるといはねばならぬ。

ソロモン海戦を通じて、敵艦艇船舶百十三隻を撃沈破し、飛行機撃墜せるもの八百五十機以上といふ素晴らしい大戦果を収めたことは、御稜威のもとを善謀勇戦奮闘の將兵の殊勳功績たることは照乎として明らかである。しかも、われ等はこの盡忠報國の敢闘精神の蔭に幾多尊い犠牲が捧げられてゐることを夢忘れてはならない。

また、執拗強靱なる敵米英は強大なる生産力と豊富なる物資に物をいはず新造艦、航空機をもつて陣容をあらため反覆進攻の擧に出るであらうことを銘記すべきである。

ルンガ沖海戦

水雷戦隊萬丈の氣を吐く

アメリカ海軍は、その反攻據點ソロモン群島ガダルカナル島確保に全力を注いでゐるが、さる八月七日以来十一月十四日夜戦に至るソロモン海域における幾多の海戦を通じわが海軍部隊のため、叩かれても、潰されても、殲滅的打撃を蒙りながらも闘志は旺盛、七顛八起執拗に反

覆出撃し、さらに戦意喪失の氣配を見せない。

敵は残存艦艇をかき集め、増援艦艇をも加へ、少くとも戦艦一隻、巡洋艦四隻、駆逐艦十隻以上をもつて編成されたる艦隊を、ソロモン方面海域に游弋せしめ、機會を狙つて反撃に出でやうとした。

十一月三十日灼けつくやうな太陽が南海の波に沈んで間もない頃、この敵有力艦隊はガダルカナル島ルンガ沖に展開して戦闘隊形を整へ、猫が鼠の出てくるのをちつと狙ふが如く、わが海軍部隊の出動を待ち構へてゐた。

この敵情を豫知せるわが海軍水雷戦隊は、壓倒的な有力艦隊の張りめぐらした網の中、虎穴に突入敵の熾烈なる猛砲火の彈幕を冒して敵艦列のふところに躍り込み、戦艦の胴腹に匕首をつきつけ必中魚雷を射ち込んだ。

敵戦艦めがけて發射された魚雷は精ある魔物の如く、眞白い航跡を鮮かに曳いて艦腹を別つた。敵艦はムク／＼と盛りあがる大水柱の崩れ落ちる瀧のやうな飛沫の中に包まれながらも主砲を射ちつゝその巨體は、ドス黒く光る海の中に吸ひ込まれてしまつた。

オーガスタ型甲巡一隻も、十數本のわが魚雷を喰らつてアツといふ間に沈没鮮かな轟沈となつた。

この壯絶凄愴を極めた夜戦の輝く大戦果は、戦艦一隻撃沈、オーガスタ型甲巡一隻轟沈、駆逐艦二隻炎上といつたものであつた。わが方もまた駆逐艦一隻を喪つたことは十二月三日の大本營發表の通りである。

驅逐艦群から成る水雷戦隊が、壓倒的敵優勢艦隊のガツチリ構へる網の中に突入、目にも止まらぬ機敏な強襲、猛烈果敢なる魚雷攻撃によつて敵陣營をかき紊し、戦史に稀有の夜襲戦を展開した水雷戦隊の活動ぶりは劃期的なもので特質大書さるべきである。

大東亞戦争におけるわが水雷戦隊の活躍は、バリ島沖海戦、エンダウ沖海戦等あるが、今次ルンガ沖海戦の如き戦艦を中心とする壓倒的敵艦隊に挑戦、挺身もつて殲滅的大勝を博したことはわが水雷戦隊傳統の眞價を得意の夜戦に十分發揮したものといはねばならぬ。

わが帝國海軍は、ワシントン、ロンドン軍縮條約により五・五・三の劣勢比率を押しつけられて以來建軍の海軍魂に術力と敢闘軍人精神昂揚と、卓拔優秀なる兵術により劣勢を補はんと

する月月火水木金の猛訓練に精進した努力が酬ひられてこゝに實を結んだ風雪幾十年の賜物といふべきである。

ルンガ沖夜戦の殊勳水雷戦隊のあつばれ武者ぶりとその功績は、海戦史に刻みつけられ永劫不滅燦然と輝くであらう。

レンネル島沖海戦

ガダルカナル島ルンガ沖夜戦の昨年十一月卅日以来一億國民待望の軍艦行進曲は六十日ぶりで、昭和十八年二月一日感激と感謝のうちに奏せられ、大本營發表はレンネル島沖海戦の輝く大戦果を次の如く新春の贈物とした。

大本營發表(二月一日十時)帝國海軍航空部隊は、一月廿九日ソロモン群島レンネル島東方に有力なる敵艦隊を發見直ちに進發惡天候を衝きて之を同島北方海面に捕捉し全力を擧げ薄暮奇襲を敢行敵兵力に大打撃を與へたり。

敵は我が猛攻を受くるや倉皇として反轉南東方に遁走せんとせしが、翌三十日更に我が海軍

航空部隊は晝間強襲を決行し、之に大損害を與へ敵の反撃企圖を破挫せり。

本日迄に判明せる戦果及我方の損害左の如し。

戦果 戦艦二隻撃沈、巡洋艦二隻撃沈、戦艦一隻中破、巡洋艦一隻中破、戦闘機三機撃墜
損害 自爆七機、未歸還三機

(註)本海戦をレンネル島沖海戦と呼稱す。

我が海鷲長驅レンネル島沖に敵有力艦隊を捕捉、これに殲滅的大損害を與へた同海戦の輝く大戦果について、海軍大臣嶋田繁太郎大將は二月一日貴衆兩院本會議において戦況を報告し全議員に異常の感銘を與へた。同日兩院は一億國民總意の感謝祝電を山本聯合艦隊司令長官に贈つた。

嶋田海相の戦況報告

ソロモン群島方面において新たなる海戦が起りましたので、こゝにその戦況を説明申上げる。一月廿九日帝國海軍航空部隊はソロモン群島の南端レンネル島の東方海上において戦艦、巡洋艦及び驅逐艦等より成る有力なる敵艦隊を發見、直ちに進撃、折柄の惡天候を衝いて薄暮奇襲

を敢行し忽ちにして敵戦艦一隻及び巡洋艦二隻を撃沈した。敵は我が猛攻により爾餘の艦艇にも相當の損害を受け、倉皇として南方に遁走せんとしたが、わが部隊はあくまでこれを追及し翌卅日有力なる航空部隊をもつて再びこの敵に晝間強襲を決行し、重ねて戦艦一隻を撃沈し、その他にも大なる損害を與へた。

今回の戦闘は敵がソロモン及び東ニューギニア方面におけるわが陸海軍協同の果敢なる行動に對し、反撃を試みんとして起つたものであり、その企圖はこゝに見事に破摧した。

以上二日間に亘るレンネル島沖海戦の戦果は、本日まで判明したるところ戦艦二隻及び巡洋艦三隻を撃沈し、戦艦一隻、大型巡洋艦一隻を中破したほか戦闘機三機を撃墜した。

我方の損害は飛行機において自爆したものの七機、未だ還らざるもの三機を出したのみでその他には損害はない。

こゝに特につけ加へたいことは廿九日の戦闘においてわが攻撃隊の指揮官機は、熾烈なる防禦砲火を冒して敵の戦闘艦に對し、魚雷發射を行つたが發射後被弾のため、基地歸投不可能とみるやまつしぐらに、その戦闘艦の艦橋めがけて撃突自爆し、自ら發射した魚雷に加へ、壯烈

身をもつて敵戦艦撃沈の止めを刺した事實であつて、僚機の目撃にもとづく報告に接し全軍異常の感動を受けたのである。以上をもちまして戦況説明を終わります。

航空決戦期迫る

レンネル島沖海戦は一月廿九日薄暮から夜間にかけてレンネル島とガタルカナル島の間で、戦はれたもの、この戦闘に撃沈の憂き目を免がれた残存艦艇の反轉して南東方面に遁走を企てるのを追撃し、卅日サン・クリストバル島南方海上に捕捉し、血戦激闘の結果敵艦隊に殲滅的打撃を與へ輝く大戦果を收めたる二つの戦闘を總稱したものであることは大本營發表の通りである。

さる十一月三十日のルンガ沖夜戦にわが水雷戦隊に散々叩きのめされた米艦隊は、性懲りもなく執拗なる反撃の闘志を燃やし、再起を企て戦艦、巡洋艦その他艦艇をかきあつめ有力艦隊編成に躍起となつた。ヘルゼー司令長官は八月七日第一次ソロモン海戦以來敗戦につぐ敗戦、半歳に亘りソロモン群島方面に注ぎ込んだ艦船撃沈破戦艦以下百五十隻に近いもの、撃墜破飛行機九百十機以上といふ大犠牲を拂つただけで、彼の擱んだその代償は國內輿論の沸騰、罵々

たる非難あるのみにハルゼー長官はいよ／＼焦慮するばかりで、自信もないのにたゞ夢遊病者のごとく闘志を驅りたてられるまゝにソロモン群島周辺を游弋するのであつた。

昨年末頃からわが海軍航空部隊のソロモン群島、ニューギニア方面における活躍は顯著なる活況を呈し一月に入つてから頓にめだつて活潑となり注目を惹いた。

一月廿九日のことである。ソロモン群島方面索敵中のわが海軍索敵偵察機はレンネル島とガダルカナル島の間を北上中の米戦艦三隻を基幹とし巡洋艦四隻、駆逐艦數隻を隨伴する敵有力艦隊を發見した。

「敵艦隊發見！」の報告に接したわが海軍航空部隊攻撃隊は折柄の悪天候を衝いて勇躍基地を進發した。ソロモン群島方面海域は四季を通じていまが最も氣象の悪るい季節であり、猛烈咫尺を辨せぬスコールの去來はもとより飛行機の強敵積亂雲はたち込めて空を覆い視界は極めて狭少、風速もまた強いので、航空部隊の活動は想像以上の困難である。

索敵機は敵艦隊を捕捉するや雲から雲へと巧みに翔んで敵の眼をかすめ、その行動を監視しつつ敵狀を刻々友軍攻撃隊に知らせ誘導につとめるのであつた。索敵機の誘導にわが攻撃隊は

悪天候と闘ひつゝ敵艦隊を求めて幕進した。敵艦隊はガダルカナル島基地空軍の爆撃圈内航行の安全感も手傳つてゐたらうが、わが索敵機につけられてゐることも知らず、またやがてふりかゝる最悪の運命にも氣付かず發見當時の航路を變へず悠々と北上を續けてゐるではないか。

敵艦隊は薄暮彼等の想像も及ばぬ悪天候を衝いて突進肉薄せるわが攻撃隊の出現は、天から降つたか海から湧いたか文字通り晴天の霹靂に等しい奇襲電撃、いや雷撃であつた。この悪天候こそ天佑神助でなくてなんであらう。敵艦隊は直衛空軍もつけすまる裸で航行中突如雷撃を喰らつたので周章狼狽、戦列を紊して防空銃砲火を一齊に撃ちあげた。魚雷を抱いたわが海鷲群は敵が必死と射つ熾烈の防空彈幕を潜つて一機、また一機敵戦艦めがけて必中魚雷をうち込んだ。

すでに太陽は水平線に落ち、暮れるに早い南海の空は漆黒の暗夜となつた。夜空を截る防禦銃砲弾は火箭の如く飛んで空を焦がす中をわが攻撃機は縦横に縫つて敵艦に躍りかゝつた。必中魚雷は炸裂轟音とともに幾本も大水柱をあげて艦影を包んだ。この時わが指揮官機は魚雷發射後被弾のため、基地まで還る見込みたゞすとみるやまつしぐらその愛機をもつて敵戦艦々橋

めがけて撃突自爆し自から發射した魚雷に加へ、壯烈身をもつて敵戦艦撃沈の止めを刺した。壯烈鬼神も哭く指揮官機の自爆の場面もあつてこの日の戦闘に敵戦艦一隻轟沈、巡洋艦二隻撃沈、その他戦艦巡洋艦に大損害を與へた。

海戦は約數十分に亘つて展開されたのであるが、これだけの大戦果を擧げる血戰激闘を行つただけでも海鷲の勇戦奮闘は驚嘆に價するにわが攻撃隊は死線を越え指揮官機を弔ひつゝ、悪天候の夜空を悠々と飛翔その基地に無事歸投した鮮かな航法ぶりこそ世界に完絶する無敵海鷲の眞髓なのである。

明くれば卅日、前夜の海戦に損傷わづかに身をもつて遁がれた敵殘存艦艇は跋をひきながらよろめくごとく南東方に向け遁走を企てつつあるを追跡中のわが偵察機の報告により、海鷲攻撃隊は曉闇を衝いて早朝基地を進發撃滅の意氣に燃える闘志滿々敵艦艇に殺倒した。

この日も廿九日に劣らぬ悪天候であるが、海鷲群は物ともせず追撃、レンネル島南東洋上に遁走中の敵殘存艦隊を捕捉した。

敵は前日の悲劇に懲りたか、けふはガダルカナル島基地から飛んできたらしい最新鋭を誇る

グラマン戦闘機約廿機が艦艇上空を直衝わが攻撃を阻止せんとした。グラマン戦闘機は時速三百哩の俊鋭でわが攻撃隊の驀進突撃を喰ひ止めんと執拗に喰ひ下がつた。わが攻撃隊はこれを排除して敵艦に突込めば死物狂ひの敵艦は熾烈な對空銃砲火を噴きあげて彈幕をつくる。白晝の決戦であり、廿機の敵戦闘機が必死なつて襲ひかゝる銃撃と艦艇よりする防禦銃砲火を冒して突撃する雷撃はなか／＼難かしいが、體當り差しちがへ戦法の海鷲闘魂の前には敵はひとたまりもない。艦腹にわが魚雷を喰らつた戦艦は巡洋艦一隻とともに大水柱の中に覆はれたまゝ海中深く没入、直衝機グラマン戦闘機三機もまたわが攻撃機の餌食となり南海に叩き墜されてしまつた。

かくて廿九、卅兩日に亘るレンネル島沖海戦は戦艦二隻轟撃沈、巡洋艦三隻撃沈、戦艦、巡洋艦各一隻中破、戦闘機三機撃墜の輝く大戦果のうちに、わが海鷲部隊に凱歌が擧つたのである。わが方もまた指揮官機の敵戦艦々橋に撃突壯烈な自爆をはじめ六機の自爆と未歸還機三機の尊き犠牲を出した。

敵米軍はガダルカナル島基地を強化し、これを前進根據地として失地奪回、進んでわが本土

襲撃の企圖をもつて叩かれても潰されても七顛八起の達磨のごとく再起闘志を捨てない。敵が執拗な反撃進攻を企てればわれまた鐵火と燃える米英撃滅の鬪魂をもつて彼に當るのである。ソロモン群島海域における今次レンネル島沖海戦までに戦はれた六大海戦その他幾多の空戦とこれが戦果は遺憾なく無敵海軍の勇戦敢闘を説明しておる。

米艦隊はソロモン海域をガダルカナル島基地空軍の制空權下と恃みわが帝國海軍航空部隊の威力を輕視下算し、サン・クリストバル島、マライタ島、レンネル島、ツラギ島その他點在する島嶼の間をわがもの顔に游弋し、機會があつたらわが占領地域に出撃しやうと狙つてゐたのである。敵はハワイから濠洲に連らなる紐帶の島嶼に空軍中繼基地をつくり、飛石傳ひに飛行機の輸送、連絡が完成されたと豪語してゐたが、レンネル島沖海戦に敵艦隊が航空母艦群を伴はず、従つて空軍の直衝を配さずまる裸で航行した失態は、おそらく基地空軍の掩護に依存した結果當日悪天候のため飛行機が飛べなかつたためではなからうかと思はれる。

わが索敵機が敵に看破されないで巧みに觸接を保ち友軍攻撃隊の誘導奇襲に成功せしめた殊勳はもとよりだが、奇襲に狼狽したハルゼー司令長官はガダルカナル島基地空軍司令部に向つ

て空軍の助け船を矢の催促したに違ひない。空から降つて湧いたわが海鷲部隊の勇姿をみてあわてふためき、天候が悪るいから飛行機が飛び立てないといふはずはない、日本飛行機が現實に飛び勇猛果敢に雷撃を行つてゐるではないか、司令長官のワシが叩きのめされてゐるこの事實を見殺しにしやうといふのかと、どなりたて通信兵を叱りとばしてゐる光景が眼に見えるやうだ。

あの日の悪天候といふのは彼等米海軍の常識とその術力では飛べない荒天であつたらうが、わが海鷲はかの颱風を截つて飛び悠々敢行した南京渡洋爆撃行以來腕に覺えの傳統の突撃である。これこそわが海鷲にとりては敵機の飛べない絶好の飛行日和といふべきなのだ。だからこそあの輝く大戦果を齎らし敵膽を寒からしめたのである、敵陣營に衝撃を與へたのは昨年末以來わが海軍航空部隊の活躍が著しく活潑となり積極的となつたことで同方面におけるわが航空勢力の増強充實を示した點である。敏感なる濠洲首相カーチンは濠洲危機迫ると先般來頻りに悲鳴をあげ米英に注意を喚起したのであるが折柄わが海軍航空部隊の敵の内庭とも恃むガダルカナル島より南東方面海域に躍り込みその補給兵站線攪亂は、制空圏内だからといつて徒らに

安心して居れないことを彼等に示した。またわが無敵帝國海軍部隊は敵米英の挑戦蠢動するところこれを撃滅せすばやまずどこまでも出撃猛攻を加へる闘志を如實に示した。

今次海戦に敵航母艦の姿を見なかつた點については前述の通りであるが、敵はソロモン方面は基地空軍の掩護にまかせて補給と兵站線確保を期し、航空母艦は損耗を避けこれを機動部隊として他に集結、わが本土襲撃その他奇襲用に當てやうといふ用兵上の遠謀とも見られる。

すでに幾多の海戦で敵米海軍は多數の艦艇を喪失、海上部隊の壊滅的減耗となつたばかりかソロモン、ニューギニヤ方面における壯烈なる空中戦が最近ほとんど連日に亘り展開熾烈を極め敵空軍兵力は漸減の一途をたどり航空決戦の様相を示しつゝある狀況に米英陣營に漲ぐる不安憂色は深刻化しつゝある。

一ヶ年の総合戦果

ソロモン海域の総合戦果

第一次ソロモン海戦以來一月三十日レンネル島沖海戦に至るまでの輝く大戦果とこれが尊き

犠牲は左の通りである。

	撃沈	撃破	計
戦艦	四	三	七
航空母艦	四	四	八
艦型未詳	〇	三	三
巡洋艦	三一	五	三六
驅逐艦	二一	一五	三六
潜水艦	九	一	一〇
掃海艇	一	一	二
計	七〇	三二	一〇二
輸送船	一七	六	二三
飛行機撃墜破		八百五十機以上	
わが方の損害			

一ヶ年の総合戦果

	沈没	損傷	計
戦艦	一	一	二
小型空母	〇	一	一
巡洋艦	三	一	四
駆逐艦	七	三	一〇
潜水艦	一	一	二
計	一二	七	一九
輸送船	五	一二	一七

飛行機、自爆及び未歸還二百六機、大破卅一機

將來戦への示唆

ソロモン海戦の性格

八月七日夜から八日にかけて展開された第一次ソロモン海戦以來十一月十四日夜戦にいまづ

終つた第三次ソロモン海戦まで約百日間の喰ふか喰はれるかの血戦死闘をはじめ南太平洋海戦
 ルンガ沖、レンネル島沖海戦等を通観するとき誰でも思ふことは、何故かうして同一海域でか
 くも日米兩海軍の血戦死闘がくり返へし行はれたかの問題である。

この問題を考へるとき、ソロモン群島が持つ戦略的價値、すなはちソロモン群島の地理を檢
 討すれば、その解答は自から出てくるであらう。

ソロモン群島は、米國の有力なる前進根據地ハワイに、サンタクルーズ諸島、サモア諸島、
 カントン、エンタペリー、パルミラ、ジョンストン等諸島嶼を飛石傳ひに約三千哩を繋ぐ。ま
 た、ソロモン諸島からニューヘブライス諸島フィジー、ニューカレドニア、濠洲へと約二千哩
 すなはち米本土、ハワイ、濠洲を結ぶ強靱なる鐵鋼紐帶の重要かつ有力なる一環を形成してゐ
 ることが明瞭であらう。

しかも、ソロモン群島の位置は、わが大東亞共榮圈に隣接し、舊ビスマルク群島、南洋群島
 とは目と鼻の間に接護してゐる要衝なのである。

大東亞戰爭現段階においてかくも重要なソロモン群島が、なぜ今日まで無關心といふか、

さほど重要視されずに来たのが突如として大東亞戦争に大寫しされて登場するに至つたかといふことは、この際探求理解して置く必要がある。

米英は、蒋介石を使喚煽動して對日反抗せしめ、これにより日本の戦力消耗減勢を狙ひ、數年間支那事變を闘はしめ、その間にオランダを藥籠中のものとし、例の米、英、濠、蘭をもつて對日包圍陣を結成し、マニラとシンガポールを要點とする對日包圍態勢を整へ、ジリジリとその包圍圈を絞り軍事上、經濟上からわが咽喉首を絞めあげたのである。

包圍陣が蛇の如く雉の胴に巻きついてジリジリと絞められては、わが帝國として黙視することはできない。わが帝國は大鵬のごとく大きくはばたいて米英の包圍陣を木葉微塵に粉碎したのである。

米英はフィリッピン、シンガポールを喪ひ、ボルネオ、セレベス、ジャワ、スマトラ、ニューギニア等々その生命線をつぎつぎと喪ひ、その國防線はぐつと後退した結果、この米本土、ハワイ濠洲を結ぶ線にたてこもりこれが死守を全ふせねばならぬ破目となつたのである。

彼等米英としては、かつて豫想もしなかつた退陣であつたればこそ、ソロモン群島の要衝さ

へも今日まで輕視したのであるが、いよいよ對日包圍陣の後退となるや、このソロモン群島ガダルカナル島にあわてゝ強力なる空軍基地をつくり、防備を嚴重にし、これを防禦の消極から攻勢への根據地となして對日攻撃を企圖したのである。電撃的に土俵に追ひ詰められた米國は劍が峰ガダルカナル島に泳へグツと押し返さうとしてゐる形である。

ガダルカナル島基地は米國が持つて對日攻勢基地となり、その可能か否かの點はとに角、これを基地として逐次的に失地奪回ができれば、さらに進んで對日攻勢作戦基地として有力なる根據地たるを失はないのである。

これに反して、この要衝が日本軍の占むるところとなれば、米國の受くる脅威は蓋し想像に餘りあるものがあらう。

米濠連鎖の有力な一環が脱落すれば、米濠は斷ち切れ、濠洲は孤立となること勿論、その結果がどうなるかに至つてはいまさら説明するまでもないであらう。

かういふことは、ハワイについても言へるであらう。さればこそ、米國は、いかなる犠牲を拂ふともソロモン群島の要衝が確保できればそれらの犠牲は安價といへようから、同島の戰略

的價值確保に全力を傾注せねばならないのである。

米國はガダルカナル島に三萬近い、あるひはそれ以上の海兵隊、陸軍部隊を上陸せしめ、空軍基地の防衛に當てゝゐる。而してわが帝國海軍の絶へ間なき連續不斷の攻撃に損耗する兵力の補充、兵器彈藥、糧食の補給に米軍は寧日ない實狀にある。

米軍必死の防衛に對し、わが軍のその補給路遮斷殲滅作戦は、敵に間隙を與へず連續的に行はれるのであつた。こゝにおいてソロモン群島海域の海戦が大小幾回となく約百數十日に亘つて展開されるに至つたわけである。戦ひはいまなほ續けられておる。

近代海戦の相貌

ガダルカナル島航空基地を擁する米軍は、極めて有利な海戦を約束される優位にある。すなはち、米軍は航續距離の長大な哨戒機により、同基地を中心に海上の哨戒ができる。その哨戒區域に進入航行する艦艇は、敵の爆撃の危険にさらされるわけだ。だから、かうした條件下において、敵の哨戒機の眼をかすめて敵地に突込んでいくことのいかに困難であるかは説明するまでもない。

わが海軍部隊は、ソロモン海域に作戦せんとせば常にこの敵の爆撃下に行動しなければならぬのである。そこで攻撃の立場からするとまづ敵航空兵力を撃滅し制空權を確保することが絶対に必要である。制空權爭奪は航空兵力の爭奪によつて決定される。航空兵力をして十二分に威力を發揮せしめるためには航空基地が要る。航空基地は沈没しない陸上基地もあれば、移動基地たる航空母艦もあるが、航空母艦は有力なる艦隊による掩護を得なければ航空艦隊の威力は十分な發揮は望まれないのである。従つて制空權と制海權は特殊的地域でないかぎり、大體不即不離不可分のものであることが動かない常識である。

米軍は、ガダルカナル島の空軍基地確保と、これが強化に必死の努力を注ぎ、對日攻勢移轉を企圖してゐることは前述の通りであり、米軍は航空兵力の補充と増強には特別の努力を拂つておる。彼等は後方兵站線をわが海軍部隊のために攻撃され、補給路遮斷の危険に曝されるため、この補給路確保にも海軍力を使はねばならない。補給路確保のためには飛行機輸送の航空母艦群の護送を強化するはむろん、さらに積極的に補給路を脅かす敵勢力を攻撃し、これが撃滅の必要が起つてくる。米海軍が大西洋を英海軍に委かせ、最少限度の艦艇を残して太平洋に

その海軍兵力の結集し得る最大のものを集結し、強力艦隊を編成するに至つた所以がここにある。

飛行機の輸送補給は空輸の方法もとつてゐるが、特設航空母艦をこれに當ててゐることも明かである。

特設航空母艦は優秀商船を改造したものであるから、商船としては優秀でも、航空母艦としては十分な速力なく本格の航空母艦には劣り、速力の如き精々二十ノット前後とみななければならぬから、燃料を満載し武装を完全にした飛行機だとかうした母艦からは飛び出せない場合が多いといふ缺點がある。だが飛行機輸送には事を缺かない便利がある。

すなはち、貨物船で飛行機を輸送する場合は、解体された部分品として積み込まれ、陸揚地まで輸送し、そこで改めて組立てるといつた手數と時間を要する。ところが特設航空母艦だと積込である飛行機が航海の途中、離艦して目的地まで飛翔し得る航続距離内に到れば、その母艦から飛びたち目的地の飛行場に着陸すればよいのだから輸送時間の節約になる。

かうした實情だとすれば攻撃側からすれば當然、航空機、潜水艦その他あらゆる海軍兵力を

動員してまづ敵兵站線攪亂撃滅作戦を展開するだらといふことが考へられる。

敵は巡洋艦艦隊によるか、時によつては戦艦々隊をもつて輸送船團を、航空艦隊を護衛し、あるひは機動部隊をもつてわが攻撃隊襲撃にやつてくるといふことになる。そこで彼我海軍部隊の奇襲となり、強襲あるひは遭遇となつて、海戦が隨所に展開されるのである。

八月七日夜から八日にかけて起つた第一次ソロモン海戦は海兵隊、陸兵等を満載せる敵輸送船團がわが航空部隊の襲撃により散々な目にあはされた揚句、水上艦艇部隊の強襲、ツラギ海峽殴り込み夜襲戦に終つた有名な海戦である。

八月廿四日午後の第二次ソロモン海戦は、第一次ソロモン海戦で叩かれ、辛ふじて遁走した敵航空母艦と、母艦を中心とする新編艦隊をもつてニューヘブライズ群島方面からソロモン方面に北上するところをソロモン群島東方洋上に捕捉これを邀撃し大打撃を與へたところの彼我航空部隊中心の海戦といへよう。

それから十月廿五日に至る二ヶ月の間に、ソロモン群島海域では大小幾つとなく海戦が隨所に行はれた。九月十五日には米空母ワズプがまつびるまわが勇敢なる潜水艦の大膽極まる魚雷

攻撃を受け大破し、その日の夕刻つひに南海の藻屑となつたほか、敵艦船の撃沈破されたるもの廿九隻、飛行機の撃墜破五百十九機といふ輝く大戦果を擧げるといつた血戦激闘が續けられた。

さらにまた、十月二十六日黎明から夜間にかけてサンタークルーズ諸島北方洋上で行はれた南太平洋海戦は、新編西南太平洋艦隊をヘルゼー中將が率ひて出撃、これを邀撃せんと南下中のわが機動部隊の裏をかいて敵の一機動部隊は左側背から突撃態勢をとつた。逸早く敵の意圖を看破せるわが機動部隊は間髪を容れず轉針するとともに、母艦を發進せる艦上雷爆撃機群は戦闘機隊護衛の下に敵機動部隊に殺倒し、熾烈なる防空銃砲火彈幕を冒して雷撃、爆彈の雨を降らせてこれを撃碎、敵航空母艦四隻、戦艦一隻、艦型未詳一隻撃沈、戦艦一隻、巡洋艦三隻中破、撃墜その他で二百機以上の敵飛行機をやつつけた。

かうした南太平洋海戦は、敵がその補給路擁護をさらに一步進めて積極的攻勢に出で、補給路を脅かす日本海軍部隊を撃破せんとして起つた海戦とみるべきであらう。

基地争奪戦の深刻化

第三次ソロモン海戦、ルンガ沖海戦更にレンネル島沖海戦とくり擴げられたる幾多海戦の相貌を觀察検討してみると艦上機の威力に優る陸上基地航空機の爆撃圈内の作戦がいかに不利にして難事中の至難事であるか、また彼我互格、若しくはそれ以上優勢空軍兵力を撃破するための制空權獲得戦は至難中の難事であり、かつ大なる犠牲を伴ふものであるかが判るであらう。

航空機は戦争の緒戦に敵を制し、常に戦闘の最前線を征き、戦争の使命を制するものでありしかも航空機は攻撃主兵力として近代海戦に登場するに至つたことは大東亞戦争によりまさまざと示教されたのである。

だが、さうかといつて、戦艦が無用であるかといふに、さう妄斷するのはなほ早計であるといはざるを得ない。

基地航空威力圏外の海洋における制海權の争奪、陸軍部隊の輸送、護送船隊等水上艦艇部隊の任務遂行上に残されたる艦隊決戦といふ重要役割がある。水上艦艇を必要とする處、艦艇の王者戦闘艦の嚴然たる存在は否定することはできないであらう。艦隊編成の中には航空母艦群を抱擁してゐるのだから航空機か艦隊かの問題は結局比較輕重問題として研究されるであらう。

米海軍が大艦巨砲主義を一擲して航空母艦第一主義に建艦方針を變更したからといつて、それは差し當つて當面の海戦に空母の必要を痛感し背に腹はかへられぬ實情にあるからであつて戦艦無用の斷案が下されたからではないと見るのが至當ではなからうか。戦艦問題は豫想戦場いかんによつて論じらるべきもので、輕々に速断は許されない今後に残される軍當局の研究題目とならう、しかし大東亞戦争、就中ソロモン海戦の様相は今後の艦艇建造上艦型、艦種等建造方針に一大變革を示唆してゐるといふことは斷言できやう。

航空母艦を消耗品的に大量建造すること、航空母艦自體の防禦力の増大、母艦防衛の直衛専門の防空艦とか、戦闘機群收容の特殊艦等々といつた一得一失はあらうが各種艦艇を金に糸目をつけず建造してその総合による艦隊威力増強を期することに研究が拂はれるであらう。しかし複雑化する艦隊の指揮統帥は益々難かしくなつていくであらうことも考へられる。

かうした問題は今後に残されてゐるが、わが帝國海軍部隊は陸軍部隊と緊密なる協同作戰により敵空爆脅威下にガダルカナル島制壓のためソロモン海域の敵空軍兵力撃滅とその護衛艦隊撃滅作戰を進めたのである。

上陸作戰の原則とその困難性については別項に記述してある通りだが、ガダルカナル島の如くわが作戰基地と千數百哩の海洋を隔て、しかも敵基地航空威力圏内の要地に敵前上陸を行ひこれを制壓せんとする振古未曾有の大作戦であるから殆んど不可能に等しいものである。この不可能を可能ならしめ得るのはわが帝國陸海軍にして初めて爲し得るのである。

ソロモン海域だけに捧げた帝國海軍の尊き犠牲戦艦一隻沈没、同一隻大破、小型航空母艦一隻損傷、巡洋艦三隻、驅逐艦六隻、潜水艦一隻、輸送船五隻沈没、巡洋艦一隻、驅逐艦三隻、潜水艦一隻、輸送船十二隻損傷および飛行機自爆と未歸還二百六機、大破三十一機のことを偲んで誰か肅然襟を正さぬものがあらうか。戦果に至りては戦艦四隻撃沈、同三隻撃破、航空母艦四隻撃沈、同四隻撃破、巡洋艦三十隻、驅逐艦廿一隻、潜水艦九隻、掃海艇一隻、輸送船十七隻撃沈、艦型未詳三隻、巡洋艦五隻、驅逐艦十五隻、潜水艦一隻、掃海艇一隻、輸送船六隻撃破總計艦艇百廿五隻撃沈破、飛行機撃墜破八百五十機以上を算へる。これだけでも一國海軍兵力に匹敵する大量で、すばらしい大戦果にたゞたゞ驚嘆するほかなく一億國民は善謀勇戦の將兵に感謝感激するのである。

ガダルカナル島といふ一孤島の争奪がかくも日米海軍の血戦激闘を百數十日に亘つて戦はしめ、なほ今後も續けられつゝある所以のものは、洵にソロモン群島だけの運命でなく思想戦にハワイ濠洲間の鐵鋼紐の一環が脱落することによつて米國の國防線はさらに後退を意味した太平洋戦局に重大影響を及ぼす危険に直面する要衝だからである。従つて米國はガ島を喪失するとも、ハワイ濠洲を繋ぐ一連の島嶼に第二第三のガダルカナル島を構築し死もの狂ひで防戦に當るであらう。そこに戦争に不可缺の生産戦争の様相がはつきりとしてくる。大東亞戦争を勝ち抜く米英撃滅のためには、米國の生産力に對抗し生産増強はもとより、わが鐵火の精神力と敢闘精神をもつて生産力増強と相俟ちて戦力を増強するため一億國民の鐵石の覺悟と實踐が痛切に要望されるのである。

陸軍一ヶ年間の綜合戦果

大東亞戦争一週年記念日の前日大本營から發表された帝國陸軍の綜合戦果中主要なるもの並に我方の損害は左の通りである。なほ飛行機船舶に關するものは十一月末日、その他の數字は

十月末日迄に判明せるものである。

一、南方及びアリューシャン方面

- (イ)交戦兵力約六十萬 (ロ)遺棄死體約五萬一千 (ハ)俘虜約三十萬三千
- (ニ)鹵獲品 各種火器三千六百二十門 重輕機一萬一千三百挺 其他銃器二十萬六千挺、戰車千四百四十臺、自動車三萬一千七百輛、輸送車輛一萬二千二百輛
- (ホ)飛行機 擊墜七百三十一機、擊破九百九十三機、鹵獲二百三十五機、合計千九百五十九機 (ヘ)擊沈並に大破せる艦船百四隻

二、支那方面

- (イ)交戦兵力約三百六十萬 (ロ)交戦回数約二萬五千回 (ハ)遺棄死體約二十八萬 (ニ)俘虜約十二萬三千 (ホ)鹵獲品 各種兵器八百四十六門、重輕機三千二百挺、其他銃器十五萬九千百挺、自動車百二十九輛、鐵道車輛二百八輛 (ヘ)鹵獲及び擊墜破飛行機百八十機
- 三、我方の損害
- 戰死二萬一千百七十名、戰傷四萬二千五百七十六名、合計六萬三千七百四十六名、飛行機三

一ヶ年間の海軍綜合戦果

十二月二十七日第八十一帝國議會において海軍大臣嶋田繁太郎大將のなせる戦況報告中大東亞戦争一ヶ年間の綜合戦果は左の通りである。

撃沈したるもの

◇戦艦十一隻◇航空母艦十一隻（内水上機母艦一隻）◇巡洋艦四十六隻◇驅逐艦四十八隻◇潜水艦九十三隻

其他の艦艇五十四隻あり、潜水艦以上の撃沈は總計約百十萬トンに達し、戦前敵米英蘭綜合勢力の約三割八分に當る。

大中破したるもの

◇戦艦九隻◇航空母艦四隻◇巡洋艦十九隻◇驅逐艦二十三隻◇潜水艦六十隻

その他の艦艇三十九隻である。商船においては四百一十四隻二百二十七萬トンを撃沈してあ

る。

拿捕したるもの

◇艦艇九隻◇商船五百三隻約二十二萬トン

飛行機においては撃墜撃破を合せて三千八百五十三機に達してゐる。

我方の喪失したるもの

◇戦艦一隻◇航空母艦三隻◇巡洋艦四隻◇驅逐艦十五隻◇潜水艦九隻その他艦艇二十隻

このほか海軍關係船舶六十五隻約二十萬トン並に飛行機五百六十八機である。

大中破したるもの

◇戦艦一隻◇航空母艦二隻◇巡洋艦三隻◇驅逐艦九隻◇潜水艦一隻

その他の艦種十隻である。

大戦果の蔭に戦ふ海軍魂

五月廿七日は第三十七回海軍記念日であります。私共は米英撃滅のために起つたわが國未曾

有の大東亞戦争に大勝利のうちに最初の海軍記念日を迎へますのは誠に感激深い次第であります。私はこの意義深い海軍記念日を迎へまするに當りまして三十七年前皇國の興廢を賭けて戦ひ大勝利を博した日本海々戦を偲びつゝ海軍諸先輩がのこした必勝の海軍魂をうけついで大東亞戦争を勇敢に戦ひつゝある海軍將兵各位が艱難辛苦を少しも苦勞とせず、いかに黙々として戦ひつゝあるか、椽の下の力持ちといふ言葉がありますが、あの感激深い輝かしい大戦果の蔭にかくれてほんとに椽の下の力持ちに甘じて戦ふ極めて地味な任務に盡忠報國の誠をいたして居られる將兵のお話を申し上げ皆さんと共に感謝の意を捧げたいと存じます。

國際情勢が逼迫し戦争はどうしても避けられない事態となりますと、もうその時分には艦隊も、航空部隊もみな極秘のうちに軍港から根據地へと移動して行きます。だから艦隊や航空部隊その他第一線部隊の將兵は萬歳に送られて華々しく出動するといふことは絶対にありません。また敵國を降伏せしめ媾和になりました場合も占領地方面の警備その他の任務で内地歸還は遅れ國民が忘れかける頃漸やく所屬軍港に凱旋するといった情況であります。

しかも戦争中には艦隊がどの方面に活動しゐるのやら、航空部隊はどこに居るやらさつぱり

判らず大本營發表の戦果により僅かにその消息が判かるといふのが普通であります。かうして機密が嚴重に守られるからこそ戦争は勝ち大戦果が擧がるのであります。

わが國の戦争は、四面海に圍まれてゐる國柄なので必ず上陸作戦から始まるのであります。敵前上陸は戦争のうちではなか／＼華々しいものでありますが、それだけに犠牲も多いのであります。日清戦争の花園口、日露戦争の鹽大澳、上海事變のウーソン、七了口、また支那事變のウーソン、杭州灣、バイヤス灣、さらに大東亞戦争におけるマレー作戦のシンゴラ、コタパル、比島作戦のリンガエン、ジャワ作戦のスラバヤ、パタピヤ等上陸作戦はいづれも代表的な上陸作戦であります。

大東亞戦争は内地から一千哩以上の遠い海洋を渡つて行かねばならぬ作戦地でありまして、こゝへ陸軍大部隊が何十隻、何百隻といふ大輸送船團をもつて輸送されます。その輸送船團はいづれも海軍部隊により護送されるのであります。

輸送船團はスパイや敵國に探知されないやう極秘のうちに根據地に集結せられるのであるが何十隻、何百隻といふ多數の船舶が泊地に集まつた光景は實に壯觀なものであります。この船

團に糧食、飲料水、燃料、彈藥などを積み込む荷役がまた大事業であります。

根據地に集結して出動するまでの計畫だけでも、これを擔當する參謀係官等は十日も二週間も不眠不休でやらねばなりません。大輸送船團は船型大小、速力の早い遅いの種々雑多な船舶から成るのであるから、女子供や老人の混つた行列のやうなものであります。だから船團の中で一番足の遅くてか弱い子供とか老人を標準に足なみを揃へる必要があります。そしてこの船列は水平線から水平線に跨がつて幾十哩となく續く大船列となりますから、ちよつと隠しやうもない公々然たるものとなりますのであります。かうした大輸送船團をスパイや敵國に嗅ぎつけられないやう、敵潜水艦や哨戒機にみつからないやうに航海をするのはこれまた大事業なのであります。だから輸送船團が航行する場合前後左右は何百哩となく飛行機で哨戒し、また艦隊が護衛して敵潜水艦の攻撃を警戒しながら目的地へ行きます。若し途中怪しい飛行機や艦船を發見すれば時により船團は航路を變へてこれを避けたり、煙幕を張つて船團を隠します。それでも手にあまるものだとそんな怪飛行機など構はず撃ち墜し、艦船も片付けて行くのであります。

斯様なわけで輸送船團護送は、幼稚園兒童が保姆や附添ひの保護者に守られていく遠足の行列を見る光景を思はせる。護衛艦隊の苦心は保姆や保護者と同じであります。それから上陸地點に對しては別の部隊が、敵に感づかれないやう隱密のうちに上陸地點に上陸準備をします。敵側からすれば敵の上陸しさうな海岸地域には上陸を妨害するために必要なあらゆる手段設備を行います。すなはち海には機械水雷を敷設したり、防材を入れあるひは鐵條網を張つたりする。輸送船團を海岸近くまで進入せしめるためには、それらの危険物を取り除かぬばなりません。この任務は掃海隊により勇敢に行はれます。

掃海艇は驅逐艦に似ており小型で攻撃力も防禦力も極めて少ないものであります。この掃海艇に乗組んで機雷原に乗り入れ敵に知られないやうに眞暗な夜海の清掃を行ひ、測量隊は輸送船團の船が全部進入できるだけの廣さや深さ、その他必要事項を測定します。情況によつては敵彈雨霞と飛んでくる中でかうした掃海作業をするのであります。ちよつとあやまれば機雷に觸れ艦は木葉微塵にふつとんでしまふ危険があり敵に感知されるので少しの油断もできません。

輸送船團は航海も無事終つていよいよ上陸點に錨を入れるのだが、これもまた難事中の難事

であります。上陸作戦が行はれやうといふ日は眞暗い夜が選ばれるのが普通だから、その眞暗闇の夜、情況も判らない不案内の敵地の灣内に何十隻、何百隻といふ集團をなして進入するのだからその困難は想像以上であります。これをうまくやり抜くためには水先案内となる誘導隊が必要であります。この道しるべの役割を果す將兵は敵灣内深く忍び寄るのですが、もし敵の攻撃を受けても敵に構はず輸送船團を混亂しないやうにうまく誘導しなければなりません。これら勇士たちは決死隊といふやうな生やさしいものでなくむしろ必死隊といった方が適切だと思はれる重要かつ危険な任務であります。これがうまく行くか否かで輸送船團が敵の攻撃に逢つたり、大混亂に陥り思はぬ大きな犠牲が出るといふ危険があります。

支那事變は緒戦において蒋介石の海軍が殲滅されたので海上の危険は殆んどなかつたが、今次大東亞戦争は米英といふ世界に名だたる二大海軍國を相手の戦争であり、しかも作戦地がわが本土から一千哩以上もの遠隔の地でありましたので海上の危険が多く従つて海軍の苦心は並々ならぬものがあつたのであります。

わが輸送船團を狙つて敵艦隊の出撃して來た例は英東洋艦隊、また米英蘭西南太平洋聯合艦

隊のジャワ海出撃その他ありますが、英東洋艦隊はわが輸送船團攻撃どころかプリンズ・オプウェルズとレパルスはわが海軍航空部隊の勇戦奮闘にマレー沖で撃滅せられ、英米蘭西南太平洋聯合艦隊はわがジャワ攻略軍を載せた輸送船團の攻撃にかゝつたのであります。わが護衛艦隊は敵艦隊の出撃を事前に知り輸送船團を安全水域に避退せしめて置いて敵艦隊主力を撃滅し悠々と輸送船團をスラバヤ上陸地點に送りつけたのであります。これはご存じの二月廿七八日に行はれましたスラバヤ沖海戦であり、遁走を企てた残敵はバタビヤ沖でわが輸送船團に襲ひかゝつたが結局わが護衛艦隊のために殲滅されてしまひました。これは三月一日のバタビヤ沖海戦であります。

かうした護送の任に當る海軍部隊は護送の途中に邪魔物が出れば斷乎これを撃滅排除して任務を達成します。

また哨戒と申しまして敵空軍動靜や敵艦隊の行動、根據地等を探る重要な任務があります。哨戒は飛行機や潜水艦その他の方法で行はれます。飛行機は數百哩といふあるひはそれ以上遠方から廣い海面に亘り短時間で探ることができ極めて便利であるが、天候に左右されたり夜は

やるにはやるが、哨戒困難といふ不便もありますが、潜水艦は速力の點で飛行機には及ばぬが姿を隠し隠密のうちに敵地深く進入し、あるひは風雨に拘らず何日でも同一地域で頑張れる利點があります。だから晝は水中に潜入して危険を避け、夜浮き上がり縦横に活動します。従つて潜水艦乗員は三十日も五十日も陽の目を見なかつたり、湯にも入らなければ顔も洗へないといつた生活の苦勞は時に戦争以上だといはれます。この艦内生活の勞苦と闘いながら哨戒任務に當るのであります。

マレー沖海戦の端緒は哨戒中の潜水艦が英東洋艦隊の出動發見により作られ、アメリカ航空母艦レキシントンを轟沈せしめたのも矢張り哨戒潜水艦の發見によるもので潜水艦の殊勳であります。レキシントンの基地出動から捕捉轟沈までは相當の日數を要してゐるやうであります。これを捕捉するために協力した海上部隊の苦心が思ひやられます。

レキシントンに直接手を下し魚雷を見舞つて轟沈せしめた潜水艦の殊勳はすばらしいものでありますが、同じ潜水艦で戦ふ機會に恵まれず地味な哨戒見張りを擔當する潜水艦乗組員の苦心と、かくれたる功績もまた見逃せない殊勳といはねばなりません。

大東亞戦争で最も華々しく活動し、また輝く大戦果を挙げました海軍航空部隊のことはすでに皆さんご承知の通りであります。同じ航空部隊でも直接戦闘に當らない飛行機の整備を擔當する地上整備員や勤務員、飛行基地を護る防備隊、根據地隊等がありまして、その任務がそれ／＼完全に遂行されてあの大戦果が擧つたことを知らねばなりません。

飛行基地は第一線から新占領地へと前進して行きますから常に敵弾の下でこれら整備將兵、防備隊、根據地隊は戦友海鷲が存分活躍できるやうに不眠不休で發動機の工合を調節したり修理をし、警備の任務に精進しております。爆撃、雷撃あるひは空中戦闘が實に華々しく戦果も大きいだけにその蔭にあつて黙々と地味な任務に精進するこれら將兵に對し自然と頭が下がるのであります。

潜水艦基地や補給部隊、根據地隊などに勤務する將兵の勞苦と功績は戦線に劣らぬものがあると思ひます。また傷病兵の收容、手當、輸送等に當る病院船、野戦病院、輸送船配屬將兵等また、艦艇、兵器、彈藥をつくる科學陣の戦士もむろん同様であります。

かうして見ますと世界の歴史をつくる未曾有の大東亞戦争に米英を叩きつけ今日の如き必勝

不敗の態勢を整へるに到つた大戦果の蔭にかやうな椽の下の力持ちとなつて黙々とその任務と本分に精進する各部分が非常に多いことがはつきりとよく判るのであります。

すなはち炎熱、酷寒あるひは疾風怒濤と闘ひつゝ見張りをつゞける哨戒も、蒸し釜のやうな機関室で戦闘がどう闘はれてゐるかさへも知らずに働く機関科將兵もその他あらゆる部面の任務が各々完全に遂行されその総合されたところにハワイ海戦、マレー沖海戦をはじめ今日までの大戦果となつて實を結んだものと確信するものであります。

ハワイ攻撃隊のあの壯烈なる撃滅戦に活動せる航空部隊指揮官も、マレー沖海戦の殊勲者も印度洋作戦、珊瑚海々戦の殊勲者も、またレキシントン轟沈の潜水艦々長も、壯烈鬼神を哭かしむる體當り機の勇士も、また椽の下の力持ち的勇士等もわが帝國海軍は司令長官以下全員が一丸となつて同じ海軍魂をもつて戦ふといふ精神のもとに戦ふその總力の和が海軍の戦果を齎らすに至つたことがよくわかるのであります。

大東亞戦争は米英を撃滅するまで戦はれるのでありまして、従つて戦争はこれからであります。國家總力戦體制下の家庭にある皆さんは椽の下の力持ちとなつて黙々と自己の本分を盡す

海軍將兵の方々と同じ立場にあり、月月火水木金金、土曜もなく日曜もなく働いておられる家庭の戦士であります。皆さんがその本分を完全に盡されることはすなはち總力戦體制の強化となり、戦力向上となるのでありますから、大東亞戦争下に初めて迎へる海軍記念日をしつかりと心に銘記し感激を新に大東亞戦争完遂のため第一線の兵隊さんに負けないやうさらに一層努力されんことを切望して私のお話を終ります。

附記 右は昭和十七年五月廿六日朝九時戦時家庭の時間に東京放送局から放送したものである。

空軍か艦隊か

ドイツは潜水艦を主戦に特設巡洋艦、主力艦とあらゆる海軍兵力を總動員して通商破壊作戦に全力を傾倒したが、イギリスの對策護送法が相當に奏功し、さらに研究の結果効果の多い哨戒へと發展したため通商破壊戦の效力は一時減殺されるに至つた。通商破壊戦に、主力艦を動員する獨創的な新兵術は、ドイツの窮餘の一策で英米を恐怖せしめたがそれにしては危険が大

きいので研究の餘地は十分あつたやうである。

デンマルク海峡におけるドイツ主力艦ビスマルク號の悲劇は餘りにも犠牲が大きすぎた。對英三割にも充たない劣勢海軍力をもつてする通商破壊戦は、かうした結論に到達することは已むを得ないことといはねばなるまい。

ドイツチランド、グラフ・シュペー兩艦が大西洋を自由自在にあれば廻つた際は大向ふの喝采を博した。シャルンホルスト、グナイゼナウなどドイツ海軍の誇りとする快速戦艦が大西洋に出動して通商破壊に従事した際なぞどんなものかしらとひそかに心配するものもあれば、好意をもつてみるものは、主力艦を通商破壊に使へば護送も主力艦をもつてこれに對抗することになる。だからドイツは英主力艦をおびきだし、潜水艦でこれをやつつける作戦だらうと解釋したりしたものである。

ノールウェー作戦以來水上艦艇が極端に減つてしまつたドイツは、いよくもつて潜水艦による通商破壊と飛行機にたよるほかなくなつた。

かういふ點からしても、スエズ運河地帯中心の西亞攻略作戦の意義といふものは重大性をも

つわけである。

ところで、クレタ島攻略は、イタリア海軍の協力はあるにはあつたが、ドイツ空軍が結局においてこれを完成する主役を演じたことは隠れもない事實である。

ドイツは海軍力をほとんど用ひずして、空軍のみで英東地中海艦隊を壓倒的に制壓し、エーゲ海の制海權と制空權の二つともこれを掌握した。

空軍か艦隊か、一體どちらが強いか、ドイツ空軍のやうだつたら艦隊はむしろなくても済むのではないかとの印象を受ける。だが特殊地域における稀な例外はあるにしても空軍だけで戦局を結ぶことは少くともいろいろの實例に徴してみてもまづ不可能的困難なことである。

クレタ島攻略戦は、ドイツの獨創的滑空機輸送に物をいはせて敵の意表に出たところがやまで、輸送船に代ふるに滑空機及び落下傘部隊輸送機をもつてこれに當てただけでほとんど海軍力をかりずに地上部隊が戦局を結んだわけである。

かうした例はあるが空軍と艦隊の優劣可否はまだ結論づけることは早計である。艦隊だけでも、空軍だけでも十分な威力は發揮されない。空軍と艦隊と相互に唇齒輔車の實を發揮して初

めて海軍力の威力を十分に示すことができる。だから空軍にしる艦隊にしる何れを勝れりと断定することは無理なことである。空軍は艦隊の眼となり、翼となり、爆弾を抱いて遠く翔ぶことにより大砲の射程が飛行機の航続距離、或はその半径まで延びることとなるから眞に飛行機の威力が発揮されるのである。艦隊には航空艦隊が包含させてゐることを忘れてはいけない。艦隊といつても、主力艦ばかりでは手足となり耳目となる補助艦部隊がなければ、裸體同様でほんとの海戦はできない。戦闘艦、航空母艦、巡洋艦、駆逐艦、潜水艦等をもつて均勢のつれた艦隊が編成され、それに補給、工作部隊等必要なるものが全部揃つて初めて遠距離海面において決戦を行ひ得る。敵を撃滅し制空制海権を掌握して上陸作戦を行ひ敵の戦意を喪失せしめ戦局を結ぶのであつて、決戦は特殊海域を除くほか戦艦を中心とする均勢艦隊によりなされるであらうことはなほ當分動かないであらう。

航空機の飛躍的發達により、航空兵力が主戦兵力となり大東亞戦争に登場、その偉容を示しておる實狀に徴して、今後の海戦が基地航空隊行動半徑内にもとめられる傾向を示し、移動基地たる航空母艦が基地航空隊と共に重要視されることは大東亞戦争の教訓が示す通りである。

海軍航空と獨立空軍問題

獨立空軍をもつて陸、海、空の三軍とする國は、ドイツをはじめイタリアもさうである。イギリスは戦前まで獨立空軍制をとつてゐたが經驗の結果海空軍の絶對必要を痛感したため空軍獨立制を廢し、海空軍を持つこととなつた。まだ獨立空軍から完全に分離しきらないところでは今次の獨英戦争が始まつた。イギリスは獨立空軍の可否についてはすでに試験済みである。陸、海軍に所屬する特有の空軍完成によつて成果を收めんとしてゐる。

獨立空軍制をとらぬ列強は日本、米國、および英國の三大強國のみである。英國は兎に角、日、米兩國は一億七千萬平方キロの太平洋を挟んで同じ條件の下に相對峙する間柄だけにその意圖するところは大體同じとみてよからう。國境を接攘し、戦闘機でもすぐ敵國上空が飛べるとか、海上にしても陸地沿岸作戦に参加隨伴できるやうな環境にある國家の空軍と、大洋を主作戦場とする國家の空軍とに大きな相違點のあることは實にやむを得ないことである。獨英戦争において盟邦ドイツが海空軍が有つたならと思はれる機會が屢々あつたやうである。

制空權は戦闘機によつて獲得せられるものと言ひ得るが、爆撃機でもつて敵の空軍根據地を爆撃しこれを殲滅してその根源を斷つこともむろん必要なことは言を俟たない。

戦闘機の戦闘訓練は陸軍機も海軍機も同じだが、海軍機は海上訓練だけ陸軍機よりもよけいに訓練がいる。航空母艦の飛行甲板發着操作はなか／＼難かしい。これだけの訓練でも並大抵のものでない。飛行甲板といへば精々五、六百坪か千五、六百坪位の廣さだ。十五、六間巾位で長さ百五十間位もあらうかといふ長方形の甲板に空中から着艦する。その際、母艦はその母艦が持つ速力一杯で航走してゐるのだから甲板は安定してゐない。前後左右にかなりの動搖があることもちろんである。そうした條件の下に發、着艦するのだから想像してみてもいかに難事であるかがわかる。

飛行機が母艦を飛び出してからどうなるかといへば、母艦は飛行機が全部飛び出してしまふと適當の後方に退つて敵の潜水艦襲撃を避ける。數百哩敵地海面に進撃し、偵察に、哨戒に或は戦闘にそれ／＼任務を果して母艦に還へるのだが、地上基地と異つて母艦は艦隊とともに高速でたへず運動中であるとみななければならぬほど移動が甚しい。任務を終つた飛行機はその母

艦を探しもとめて還るのだが、航空母艦はその形は大きいやうでも大洋中に浮いてゐるところはほんの一黒點に過ぎない。光線の情況によつては波の光の中にかくれてしまうこともしば／＼ある。コンパスと海圖をたよりに飛行、その間、無電の鍵も叩かねばならぬ。

雷爆撃機の場合だと、そのほかに爆撃目標の敵艦は高速で馳驅し或はヂクザクに快走する、それを捕捉爆撃するといつた難かしい技術がいる。飛行機そのものゝ性能に高級性を要求するはむろんだが、操縦員に高度の技術を要求されるのだから海軍航空に特殊性を持たさねばならぬ。また戰場水域も廣袤幾千哩に亘るのだから艦隊長官は麾下航空兵力運用は間髪をいれぬ神速でなければならぬ。従つて艦隊司令長官は航空部隊をその掌中に握つて居らねば戦機を失する危険があるこゝに海軍航空兵力の絶對的特殊性が要求される。

米國は獨立空軍問題が起り陸、海軍當局と政府との間で論議が闘はされた時、陸軍省は空軍を獨立せしめることは總司令長官たる大統領の部隊指揮系統との間に非軍事的な航空省を置くこととなり、陸軍の戦闘力を減殺するものであり、米陸軍が受ける不利益は政府の期待する利益よりも大きい、と獨立空軍制に強硬な反對意見を表明したばかりでなく基地空軍をも艦隊司

令長官の下に入れるべしと論議されたことは米空軍政策上注目し値する問題であつた。

米國は戦争挑発者だ

大東亞戦争はかくして起つた

大東亞戦争は連戦連勝の内に決戦第三年を迎へた。世界戦争挑発者チャーチル英首相、ルーズヴェルト米大統領の二人男は常に世界制覇の妄想にあらゆる謀略を弄した。

わが國は、東亞全局の平和を熱願するあまり、あくまで平和的妥結に努力し、隱忍と自重をもつて世界平和の維持、人類慘禍の防止のため、米國の反省を促したのであるが、ルーズヴェルト大統領とその一黨は、何等反省することないばかりか、日米交渉中にも拘らず、米國はすでに宣戦布告なき戦争、經濟斷交による武力戦に比すべき挑戦をもつてわが方に臨み、計畫的攻撃策をも進め、わが帝國の存立は、まさに危殆に陥らむとする重大關頭にたち到つた。

すなはち、米國政府は、支那から我が陸海軍の無條件全面撤兵、南京政府の否認、日獨伊三國條約の破棄を強要し、わが帝國をしてのつびきならぬ戦争への窄井に追ひ込んだ。

ルーズヴェルト大統領は、明らかに大東亞戦争挑発者である。かれ大統領は潜水艦あるひは飛行機を翔ばしてわが内南洋パラオ、臺灣、はじめわが近海を偵察せしめ、米太平洋艦隊司令長官キンメル大將に對し米作戦部は重要密令を發して對日作戦はすでに第一期戦に入つてゐたのである。この間の消息はハワイ敗戦責任者キンメル大將査問委員會のロバーツ報告書に明記されており、世界公知の事實である。

日露戦争以來日本と米國は、一億七千平方キロの太平洋を挟んで、日米戦はざるべからざる宿命にあつた。わが帝國海軍は米國の世界政策に對抗し西太平洋の國防安固をはかるため増勢、内容充實が行はねばならなかつたが、その對照はむろん米國海軍に向けられた。

大正十二年ワシントンにおいて締結されたる華府海軍々備制限條約の五・五・三の劣勢比率を米英共謀によつて押しつけられて、帝國海軍はいよくもつて臥薪嘗膽の決意を固めるにいたつた。昭和五年ロンドン條約成立するに及んで帝國海軍は、まさに滔々たる自由主義的時流に遭遇、受難時代ともいふべき危機に逢着したがよくこれを切り抜け難局は遂ひに打開された。

滿洲事變、上海事變、五・一五事件、二・二六事件その他いろいろの事件は直接、間接に反

響し、政治上、經濟上に飛躍的現象發展を齎らした。對外的には國際聯盟脱退、華府、倫敦海軍々縮條約の廢棄、支那事變、歐洲戰爭、日獨伊三國同盟、日ソ中立條約、日、佛印條約、日泰條約等々つきつきと條約が締結されて行き、世界は擧げて日獨伊を中心の樞軸國家と米英ソ聯を中心とする自由主義國家群と共產主義國家の不自然なる苟合群に二大別され世界戰爭へと發展した。中立を標榜しておる國家は極めて少なくその態度が注目されるめぼしいものは歐洲のスペイン、ポルトガル、西亞のトルコ、南米のアルゼンチン、チリその他寥々たるものでありその動向はいづれも世界情勢につれて決しられるものとみられる。

ル大統領參戰街道を走る

日米戰爭は起るだらうか？ 日本とアメリカは戦はねばならぬ何か避け難い要素があるだらうか？ ヨーロッパ戰爭と、アメリカの援英積極的態度を仔細に視てみると日米戰爭は不可避だと思ふがどうかね。と寄るとさわると日米問題が話題となつてから久しいことである。

日米戰爭は必ず起る。と見るのも一つの觀方なら、日米戰爭は起らないと見るのもまた一つ

の觀方であるかも知れない。

だが、アメリカの援英武器貸與法がまともに實施されつゝある際、昭和十五年五月廿七日ル大統領の爐邊談話の無制限なる國家非常時宣言とアメリカ國防を最大限度に強化する強硬なる宣言を見ると、ヒットラー主義の進出を武力をもつて阻止しないと西半球はドイツの武器の射程内に入り民主主義援助計畫は破壊されてしまうから、我々は米國攻撃の基地として利用され得るいかなる地球の一角からもヒットラー主義を排除すると明瞭に決意を示した點を綜合検討すると戰爭必至感が多分に示唆される。

一方、ドイツ海軍長官レーダー提督はヒットラー總統のかつて言明した對米方策をさらに確認するため

- 一、ドイツは戰時禁制品を戰爭地域に運輸せんとする米艦艇を實力で排除する。
- 一、米國が哨戒制を起用すれば、ドイツは實力でこの敵對行爲を去勢する權利がある。
- 一、無許可で航行する中立船舶には敵性ありと認め無警告撃沈する。

と右三點を強調した。アメリカがこのドイツの警告を無視して援英強化をすれば米獨の衝突

は免がれないであらう。

米獨が衝突開戦となればどうなるか。それはいふまでもなく日獨伊三國條約が物をいふて、日本は條約の條章に照らして起つこととなれば、こゝに日米戦争が起る可能性がある。

日本帝國は、三國條約は歐洲の戦火が太平洋に及ぼさぬやうにしたいといふ趣旨にもとづいて結ばれたものであることを強調し、アメリカ合衆國の善處を要望してゐるのだが、アメリカの三國同盟はアメリカに挑戦するものなりとする解釋が是正されないかぎり、アメリカは哨戒護送を廣範圍の水域に進めるであらう。而してすでにアメリカはアイスランドに進駐しイギリスとともに哨戒護送と警備の役に當つてゐる。しかも九月四日アイスランド島附近の海面において起つた米國汽船グリーア號がドイツ潜水艦との交戦事件をはじめ九月八日米貨物船スチール・シーフェアラー號が紅海で謎の爆沈事件、パナマ國籍にある米船舶會社運用中の汽船セツサ號が八月十七日アイスランド西南方三百哩の洋上で魚雷を受け沈没した事件をとりあげてル大統領は九月十一日ラジオ放送演説で對獨實力防衛の強硬聲明を行つて

『余は米國防衛にとり緊要なる區域に對し樞軸國潜水艦、奇襲艦乃至飛行機が襲ひ來る場合に

は米海軍は何時たりとも率先わが方より發砲すべしとの命令を發した』

と問題の發砲命令を發して猛然とドイツに挑みかゝつた。

また獨ソ戦開始とともに、アメリカは援ソ態度を明確にし、直ちにこれを實行に移した。すなはちル大統領はソ聯がA B C D陣容に頼がり込んだ代償に石油と軍需資材をソ聯に送り、スターリン首相の歡心を買つたのである。しかも、ル大統領の態度は、對日石油禁止はアメリカ自身の必要上に出たものだとして理由づけた舌の根の乾かぬうちに、ソ聯に石油を賣つた。その石油を輸送する油槽船は極めて非友誼的な方法をもつて浦鹽港に航行したのである。

斯くのごとく、ル大統領の傲慢不遜の態度は樞軸國民を刺激しその激昂を買つてゐる實情で獨米衝突は必至、いまやたゞ時の問題が残されてゐる程度に緊迫してゐる。而してアメリカの参戦武力行使は、ほんのわずかな例外を除いて日米戦争を誘發するであらう。しかもル大統領は世界平和を口にしながら國內孤立派その他の反對を尻目に世界戦争挑發者たらんと着々と準備を整へ参戦街道をつつ走しつてゐる。

東亞共榮圈建設の妨害

日本とアメリカは戦争をしなければならぬやうな争ひの種は一つもない。お互に仲よくして行ける國柄だといふものがある。

こんな言葉は外交辭令の甚しいもの、一つである。これからの戦争は、軍事、經濟、外交すべてを綜合した國家總力戦であり、宣戦布告なき不斷の戦争である。だから、この意味で日米はもうとうから闘つてゐる。すなはち日米戦争ははじまつてゐる。第二期症狀寸前の實狀にあることを忘れてはならない。

アメリカ合衆國は昭和十四年七月、日米通商航海條約の廢棄を通告し、日米經濟戦争に先づ第一弾を叩きつけた。十五年一月廿六日通商航海條約廢棄の効力發生とともに日米間は通商無條約國となつた。

その後アメリカは輸出統制を強化し、屑鐵、工作機械、石油その他わが國の必需物資の對日輸出を禁止し、若しくは制限を加へるとともに、わが國からの輸入物資に苛酷な制限を行ひ、

事實上手も足も出せない状態に追ひ詰めた。

これより先、東亞共榮圈確立をめざし新秩序建設のわが不動の國策に對し、昭和十二年七月以來アメリカは援蔣、對日敵性を發揮しつゞけてきた。また、わが國の南方經濟發展に對してもことごとく妨害の態度をもつて臨むといふ實狀である。

軍事的の方面にみれば演習に名をかりて、アメリカ主力艦隊をハワイに進駐し、また三百五萬トンをもつて太平、大西兩洋艦隊を編成せんとする尨大なる建艦計畫スターク案なるものを實行に移して、わが國に無言の威壓を加へ恫喝的態度を示してきた。

これだけの事實をみただけでも、わが國は對岸の火災視し無關心たり得ないのである。これに對し重大なる關心をもつて、それ〴〵局に當る責任方面では萬全の對策を施し、いつでもいかなる事態にも受けて立ち、これを克服し得る自信の下に善處したのである。

米海軍建艦計畫の内容

アメリカ合衆國海軍はその政策に「世界第一の海軍を建設し、大西、太平兩洋に於て優越を

維持し、以て國策遂行の支援たらしむるにあり」とある通り、名實共に世界第一海軍をめざし七百餘隻三百五萬トン建造計畫をたて着々と進行したのである。而して國務長官ジョン・ヘイの發案になる「門戸開放、機會均等主義」をふりかざして東亞に臨み、われには支那大陸から手を引けと恫喝的態度に出で米國は氣まゝ勝手をふるまつたのである。

兇器七百餘隻三百五萬トンのスターク建艦計畫は、どんなふうにも計畫されたものか参考に内容を覗いてみよう。

一九三三年（昭和八年）現ルーズヴェルト大統領が就任すると第一に着手したのが、産業復興費から二億三千八百萬ドルを割いて緊急建艦費に當て、十五萬餘トン建造計畫を決定した。即ち航空母艦二隻、甲級巡洋艦一隻、乙級巡洋艦三隻、嚮導驅逐艦四隻、驅逐艦十六隻潜水艦四隻計卅隻で、これを三ヶ年間に竣工することとした。

それがまだ緒に着いたかどうかと思はれる翌三四年第一次ヴァインソン案なるものを決定し五ヶ年間に八億ドル百二隻廿萬トンを建造しやうといふのである。

これは一九四二年までに主力艦十五隻、五十二萬五千トン、航空母艦六隻十三萬五千トン甲

級巡洋艦十八隻十八萬トン、乙級巡洋艦十四萬三千トン、驅逐艦十九萬トン、潜水艦六萬八千二百九十八トン合計百二十四萬一千二百九十八トンに達せしめ艦齡内のものでワシントン及ロンドン條約規定限度量一杯を充さうといふのである。

一九三五年末わが帝國海軍が軍縮會議脱退を通告すると、アメリカ海軍はそれを口實に軍縮條約のエスカレーター條項を適用し、建艦計畫をたて、巡洋艦二萬二百七十トン、驅逐艦四萬トン、潜水艦一萬五千五百九十八トン合計七萬五千八百六十八トンの追加をなし、條約保有量を百三十一萬七千六百六十トンに引上げた。

さらに、一九三七年には補助艦艇の建造計畫をたて、大型航空母艦一隻、驅逐艦一隻、潜水母艦一隻、給油艦一隻、掃海艇一隻、航洋曳船一隻、計六隻を建造することとした。

このエスカレーター條項適用の計畫が成立した翌一九三八年七月支那事變が勃發した。すると、それつとばかりに又しても新規建艦計畫をたてた。これが第二次ヴァインソン案といふやつで條約量を二割増しに増強する案で主力艦三隻十三萬五千トン、航空母艦二隻四萬トン、巡洋艦八隻六萬八千七百五十四トン、驅逐艦三萬八千トン、潜水艦一萬三千六百五十八トン、合計

四十六隻廿九萬五千四百二十トン、とほかに補助艦艇廿六隻十三萬四千トンを計畫した。

以上の建艦計畫が全部實現すれば艦齡内の新鋭艦だけで實に百五十五萬七千餘トンになるが海軍機三千機もこれ等の計畫の中に盛りこまれてゐる。そのほか、主力艦の單艦トン數をル大統領の裁量で四萬五千トンまでなし得るよう大統領に權限を與へたことは驚異的である。

さらに一九四〇年一月二割五分増強の第三次ヴィンソン案が矢繼早に議會に提出され、アメリカ海軍擴張熱はいやが上に煽られ停止するところを知らぬありさまを呈したが、やゝもするとアメリカ海軍計畫は計畫倒れの嫌ひあり正直に實施されない傾向があつたため、百の計畫よりも一の實行に力點を置くこととなり、十三億ドルの豫算とその建艦計畫内容を大修正し總額六億五千二百萬ドルに削減し、戦闘艦艇を約一割増強とし約廿一隻十六萬七千トン、特務艦艇七萬五千トン、飛行機四千五百機、飛行船十二隻とし、これが極力實行を期することとした。そして今までの宣傳的態度を改め實行主義に建造行程を促進する方針をとつた。

これだけ實現すれば一應安心とアメリカ海軍當局を喜ばせたのもほんのつかの間、ドイツのオランダ、ベルギー攻略作戦は數日にして完成し、その先頭部隊はマジノ線要塞の西北延長線

を突破してドウヴァー海峡沿岸に押し出し、對岸のイギリスを脅かしドイツ軍は一氣にドウヴァー海峡を渡つて英本土に殺倒し兼ねまじき形勢を示した。また一方フランス國境に迫つたドイツ軍機械化部隊は空軍協力のもとにマジノ線を突破して首都パリを陥し獨佛單獨媾和となり大西洋方面がいよゝゝ重大化した。

乗員の補充はどうするか

この事實はル大統領及びアメリカ國民を極度に脅かした。海軍作戰部長ハロルド・スターク大將は居たたまれず、ドイツが電撃作戦で脅かすなら、こちらはあり餘る黄金と鐵の威力を示してやれとばかり一舉に七割七分増強、戦闘艦艇百三十二萬五千トン補助艦艇十萬トンを計畫した。これが豫算はなんと四十六億ドル、これを當時の日本金に換算すると約百六十四億圓である。公表された帝國海軍豫算に比べたらざつと十五、六倍にはならう。これを五ヶ年か七ヶ年に使ひこなさうといふ。案の内容は主力艦約七隻卅八萬五千トン、航空母艦七隻二十萬トン巡洋艦三十三隻四十二萬トン、驅逐艦三十隻二十五萬トン潜水艦四十九隻七萬七千トン計百三十二

萬五千トン、これに潜水母艦、飛行艇母艦、防備艦艇等補助艦十萬トンである。

これが完成の暁は、一體どれだけの艦艇になるかといふと、主力艦二十五隻、百四萬五千トン、航空母艦十八隻四十五萬四千五百トン、巡洋艦八十五隻八十九萬九千五百餘トン、驅逐艦三百五十八隻約四十八萬八千トン、潜水艦百八十五隻、十七萬二千九百餘トン、總計六百七十一隻約三百五萬トンになる。飛行機一萬二千機、このスターク案の外に飛行機二千四百機が計畫されてゐる。なんと驚いたらう、とスターク大將は北叟笑むだらう。

これだけの老大な計畫がすらくと進行したら驚異的なものである。一九四六年（昭和廿一年）末か七年までに完成することに計畫された。

軍艦は金にあかしていくらでも建造できるが乗組員をどうする氣かと聞くまでもなくスターク案實現に併行して要員の充足に努め、すでに豫備兵の登録を終り現役兵二十四萬人を目標に海軍志願採用人員を十倍にし、兵學校生徒採用人員も二倍以上に増し千二百とするなど如才なく計畫を合理化しこれが實現を期してゐる。

だが併しそれは單に員數を充すといふだけのものであつて、質の點になるとなかく困難で

ある。たとへば主力艦の艦長なら少くとも二十三四年、砲術長、水雷長といつた幹部士官だと十七、八年はかゝる。兵員でも三年目でないと完成されたものにはならない。軍艦なら資材と金さへあれば造れるが、人的要員はいくら金を積んでも急場の間に合はない、そこにだぶつくドルのアメリカにも大きな悩みがあるわけである。

こんな驚くべき建艦計畫も大東亞戦争と同時に大變更が加へられたことむろんである。ハワイ海戦ほか幾多の海戦で戦艦以下二百六十餘隻の撃沈破、戦前兵力の三割八分を喪ひ、これに伴ふ兵員も幾萬と死傷者を出したのだから米海軍は、第二流海軍國に顛落してしまつた。艦艇の補充はドルと鐵で建造できるとしても艦長以下乗員將兵の養成補充はおいそれとできない苦惱の重大問題とならう。

工場運営に脆弱性暴露

苦惱の種といへば軍需工場のストライキなどよりもつと深刻なる打撃を蒙ることは軍需工業の原料資材の輸送難といふことであらう。といふのはアメリカは、ふだん石油で浸つてゐるこ

どき國柄でありながら戦争になると石油が不足を告げるといつた脆弱性を暴露した。これはまるで嘘のやうでちよつと信じられない話だが、アメリカ政府は太平、大西兩洋の危険逼迫状態が起るとガソリン二割五分増産計畫をたてるとともに一方節約を提唱し消費規制を實施非常時態勢を實踐し出したのである。

大體工場經營からいへば、原、材料を一ヶ月或は半ヶ年分何年分といつたふう貯藏し、これを適當に製造消化して行くのが常識なんだが、アメリカの各工場の現状は原、材料を倉庫に貯藏しこれを順次消化する仕組のものは少く極端にいふと毎時間的に輸送してくるものをそのまま機械にかけて片端から消化して行く。しかも原、材料輸送機關は、汽車輸送もむろんあるであらうが貨物自動車にこれに當つてゐる。そして工場内に働く労働者はほとんどみな自から操縦する自動車でもつて遠隔の地から工場地帯に通勤する仕組となつてゐる。だから、ガソリンが不足して自働車が動かなくなると、それら大多數の労働者をはじめ通勤者は足をとられてしまひ動きがとれぬ立往生といふことになる。工員なく労働者なき工場は機械が止まる、よし機械は運轉しても輸送車が同じく止まるのだから原、材料なき工場は結局機械のから廻り以外

ない。黄金の洪水と物資に恵まれた持てる國アメリカもかうした大缺陷のある脆弱性にはほとく苦慮の態である。ルーズヴェルト大統領は獨裁權を強化し、對日敵愾心を煽りたて國民總力結集に大童となり焦慮してゐる。

米艦隊の恫喝的移動

對日強硬派の重鎮ノックス海軍長官をはじめスターク作戰部長、キンメル合衆國聯合艦隊司令長官、ハートアジア艦隊司令長官等で海軍を固め、滿洲事變當時の米國務長官でおなじみのスチムソン陸軍長官、これだけの顔觸れでルーズヴェルト大統領とハル國務長官が采配をふるのだから只ではすまないといふものだ。

はじめ大西洋艦隊を太平洋回航集結して日本の顔色をみたが帝國海軍は黙して動かないのでこんどは太平洋で演習をやり、演習終了の際全艦隊がハワイに集結する仕組みにした。そして合衆國聯合艦隊は豫定のごとくハワイに集結を完了してこれでもかと來た。

わが帝國海軍はなほ、この時少しも騒がず、眞珠灣を洗ふ海潮につながる水域に在るわが聯

合艦隊は黙々として猛訓練をつゞけてゐる。アメリカの肚は見へ透いてゐるのだ。

アメリカ國務省は、わが帝國の南京政府承認に對し面當の態度をもつて南京政府を否認する聲明を行つた。しかし、わが方は豫期した通りであるから別に驚きはしない。米政府はいづれはその合衆國聯合艦隊に物をいはせる第二段の何か手をうつのでないかと思はれた。

そんな恫喝的のいやがらせがあつても決して驚かないだけの國民の肚はとづくにできてゐる筈である。

ところが、ヨーロッパに突如世界戦争の火の手があがつたためアメリカの計畫は水の泡と消へた。大西洋の對岸に火がついたのはル大統領の見解でいふならアメリカの頭に火がついたも同じである。じつとしてはゐられない、すぐにも艦隊を大西洋に回航したい氣持なんだから西太平洋を游弋するわが聯合艦隊の嚴然たる存在はつひにアメリカ合衆國聯合艦隊主力をしてハワイ水域に釘付けにしてしまつた。

顧みて他をいはんとするアメリカは、妄想の影に驚いて太平洋に散在する軍事基地に對し狂氣じみた増強を行つてわが國に挑んだ。

蒋介石を煽動しこれに飛行機その他軍需品を送つて抗日戦に油を注ぐなぞ軍事に經濟にいち敵性を露骨に發揮した。敵性どころか日米戦争はすでに二期戦に入つてゐるではないか。ル大統領のいわゆる「宣戦なき戦争」はいまや一觸即發、マッチ一本でも爆發の導火線となり得るほど機は熟してゐる。

米海軍の太平洋配置狀況

フィリッピンの防備狀況

カビテ軍港を根據とする海軍兵力

巡洋艦 三

驅逐艦 一五

潜水艦 二〇

水上機母艦 五

大型飛行艇飛行機 一五〇

米海軍の太平洋配置狀況

陸軍兵力

正規軍と土民軍を合せ二ヶ師團(約二萬)それに豫備軍十一萬
飛行機 五〇〇機(半年後には一千機にする計畫)

ハワイ

海軍兵力

主力艦

八

巡洋艦

二〇

航空母艦

二

驅逐艦

六〇

潜水艦

二〇

大型飛行艇

一〇〇

ガム、アラスカ、アリユーション、ミッドウエー、ジョンストン、パルミラ、ウエーク、ベ
ーカー等に防備を施し、或は空軍基地を作り軍需品貯藏倉庫等軍事施設を構築し、又相當の兵

力を駐屯せしめて毒牙を研いたのである。

ル大統領悲鳴をあげる

前世界大戦において、ドイツは海上作戦の主力を通商破壊作戦に注ぎ聯合國側をして悲鳴を
あげしめ、つひにアメリカを参戦にまで導入した。

開戦當初は、潜水艦はたつた廿七隻に過ぎなかつたが、五ヶ年間に二百隻近く建造し、乗員
も海兵を急速に潜水艦乗りに養成して間に合せた。二百二十三隻中九隻は出動したまゝ、つひに
基地に還らず悲壯な運命に陥ちたが、大西洋を縦横自在に馳驅その行動半徑一萬哩に及ぶU五
七號の如きアメリカ沿岸を荒し廻りアメリカ國民を震ひあがせたのである。

エムデン號その他潜水艦の餌食となり海底に沈んだ輸送船、客船はイギリス船だけでも九百
三萬一千八百二十八トン、中立國船が六百二萬一千九百五十八トン合計實に一千五百五萬三千
七百八十六トンに達した。

今次ヨーロッパ戦では、ドイツ海軍は對英三割五分を目標に再軍備をはじめたばかりのこ

ろで開戦となつたので海軍兵力は極めて微々たるもの、潜水艦も前大戦より十隻も少なく精々十五隻位だつたと思はれる。

主力艦はデンマルク海峡で英艦隊の袋叩きにあつて悲壯な最期を遂げた最新式のビスマルク號とテイルピッツ、シャルンホルストの三隻を加へて七隻、甲級巡洋艦二隻、乙級巡洋艦四隻、驅逐艦三十隻内外、潜水艦約十五隻、これだけでは十分な通商破壊は期待できないが、それかといつてイギリス艦隊と決戦をやるわけにゆかない兵力だから、この兵力を總動員して優勢なる空軍と協力し、イギリスを逆に封鎖して通商破壊に百パーセント戦果を期待する作戦以外戦法はないところにドイツの脆弱性が多分にある。

しかし、ドイツはそれをやり抜くほかない。潜水艦建造に馬力をかけ二日に一隻の能力を發揮し一九四一年の春季攻勢には二百隻を數へるまでに陣容整備に努めた。しかも北歐作戦でノールウエー沿岸、白、蘭攻略とフランス制壓でドーヴァ海峡に面する幾多の基地を獲得しこれ等基地を自由に作戦基地として使ふことができたのだから鬼に金棒だ。

一九三九年九月開戦して十一月まで三ヶ月間にドイツの潜水艦、機械水雷にかゝつて沈没し

たもの百三十一隻四十八萬三千九百トンに達した、と當時イギリス政府は發表したが、その後イギリス商船の被害數は漸次高まり一九四一年四月の如きたつた一ヶ月で百二十萬トンを超へ開戦以來實に一千萬トン以上(ドイツの發表によると千百萬トン)となりドイツの通商破壊作戦はいよゝゝ高潮に達した。

ドイツのために撃沈される汽船は英米兩國が建造する商船の二倍以上になるとルーズヴェルト大統領をして痛嘆せしめたのも道理、イギリスの建造能力とアメリカから補充を受ける船腹一ヶ月二十萬トンとみても五十萬トン撃沈されるとしたならば月額二十萬トン宛減つて行くのだからイギリスの痛手でありアメリカ海軍は哨戒護送をさらに強化せざるを得ないであらう。

武器貸與の狙ひどころ

アメリカはイギリスを援けるために武器貸與法をつくり、これが實効を期しル大統領は七十億ドルの豫算を議會に提案して、これが通過に成功した。七十億ドルの他に十三億ドルの豫算が武器貸與法に附隨して成立してゐるから結局八十三億ドルをもつてイギリスに起死回生の最

後の注射を打たふといふのだ。

かういふとアメリカの對英親切は立派に見へるが、それは實は表面のことアメリカ合衆國は自由主義國家防衛の兵器廠たらんと、まことに氣前のいゝことまで宣傳したものゝイギリスがドイツに勝てるものとは本心では思つてゐまい。アメリカはイギリスに武器彈藥艦船等を貸してイギリスを援け虫のすかないドイツをイギリスの手をかりてうんと消耗させればそれで目的は達せられる。あわよくばドイツをやつつける、さうなればもつけの幸ひといふものである。これは、蔣介石を援助することにより、日本をうんと消耗させ、軍事的經濟的に國力を弱らせ、當分再起の望みなきままでにして置けば後はどうにでもなる。アメリカは日本を現状以上に強くすることは好まない、枕を高く眠ることができないから困るといふのがアメリカの偽らざる肚底であるとみるべきである。

アメリカは日本の疲弊困憊したところをみすまして、その間に例の作戰部長スターク大將の提案にかゝるスターク案海軍擴張計畫三百五萬トン建造を完成し太平、大西兩洋艦隊編成を夢み、かつこの世界第一海軍力に物をいはせ、太平洋を管制しもつて日本を制壓しやうとする方

寸であることは見へ透いてゐる。この建艦を完成するまでイギリスを持ちこたへさせなければならぬのだ。

對英武器貸與法をいま改めて検討するまでもなく、アメリカはイギリスの敗退を前程として、すべての對策を施してゐる。武器貸與法に伴ふ合計八十三億ドルの豫算は、前大戰にはすべて公債に仰いだものを、今回はアメリカ政府として支出してこれをイギリス及びソ聯蔣介石等に貸す仕組になつてゐる。募債に應じた國民の金は焦げついたまゝ償還されなければ貸し損となつたが、アメリカ政府として貸した武器、彈藥、艦船食糧等の代償はイギリス政府に償還させる権利をもつてゐる。豫想通りイギリスがドイツのために敗退し國家は滅亡しても、抵當物件として貸金のかたに取り得るものはいくらもある。老なる艦隊もあれば、太平、大西兩洋その他至るところに散在する島嶼等が澤山あり、イギリスの屬領植民地もあるから、これ等のうち適當なものをアメリカがそのまゝ頂戴することができるからアメリカは思ひきつて貸してもまだ／＼安心なもの、決して貸し倒れにはならない。

英米間には、この點手廻しよくすでに默契ができてゐると傳へられてゐる。シンガポール軍

港のアメリカ供與とかカントン、エンタペリー、ボルネオ濠洲方面等の基地使用などはいつでもできる問題である。だが英國も内心アメリカの態度には心よからず思ひ警戒の色さへ窺はれる事實があるが當然のことである。

米の煽動に蔣抗日に踊る

かうした勘定高い底意のアメリカは口には自由主義國最後の砦となり、兵器廠たることに甘んずるといふ魂膽は見へ透いてゐる。それは全く世を欺くお世辭とみるが適當である。この意味において、アメリカは蔣介石援助に積極性をみせ最近五千萬ドルの借款に應じたが、これなどは日本の支那方面艦隊の封鎖強化により、たゞ精神的援助の効果はいくらか見込み得るかも知れないが事實上からすると借款ができたといふ名のものに過ぎない。しかしアメリカにすれば、實質はどうあれ、日本を多少でも消耗させることができ抗日が一日でも長引けばそれで目的が達しられるといふ姑息極まるものだから笑止の沙汰である。アメリカが蔣介石に對し飛行機や他の武器を貸し與へるだけで支那人を踊らしこれを日本にぶつつからせ、イギリ

ス人ソ聯人をもつて獨伊にあたらせ、他人の禪で相撲をとる老獪なルーズヴェルト大統領の謀略こそ唾棄すべきわれ等の忘れ難き關心事といはねばならぬ。

アメリカはイギリスの大艦隊といふより大英帝國そのものを抵當に武器貸與法を作つたが、いままでのやうに前大戦において借りた借金を踏み倒した國にはもう金は貸さぬといふジョンソン法があるかぎり、また、すべて現金自國船輸送といふ法律があるかぎり、これ等の法律に縛られて武器貸與法は圓滑に運用できないので、ル大統領は、この法律をイギリスのため特に改正をし、また廢止してイギリス援助を積極強化することとし、またその後中立法の改正を計畫し商船武装を實施しつゝある。

かうして、イギリスを援けることにしないと現金主義だの、賣つた貨物は自分の船で運搬しろといつては居られない。英ソの事態はせつばつまつてきたのである。すなはち、イギリスの在米資金は、いまは使ひ果して残るものがないから現金主義ではイギリスは一發の砲彈も買へないのである。また、イギリス船舶で運搬しろといつたところで、イギリス船舶はドイツ潜水艦の好餌となり、飛行機の爆撃等で一ヶ月百萬トン以上も大西洋の藻屑と消へ通商航路は脅かさ

れ通しだ。これではイギリスだけに任して置けないのである。かくてこれ等の實狀はルーズヴェルト大統領をしてアメリカの中立水域を擴張せしめたり、輸送船團護送から哨戒にと飛躍するに至らしめた。

ヒ總統とル大統領宣言戰

アメリカはその沿岸三百哩をもつて中立水域としたが、その後一舉に一千哩に擴げたかと思ふと、またさらにこれを二千哩にまで擴張した。このほか、大平洋からする航路を印度洋からスエズ運河に通ずる紅海にまで中立水域をおし擴めるといふ、全く得手勝手といふか傍若無人の態度をもつて樞軸國に挑戦したのである。

哨戒水域二千哩といへば二十五度線、すなはち、グリーンランドからポルトガル領アゾレス島に結ぶ線になるからその線からイギリス海岸までは二百哩そこ／＼に縮められるからイギリスの負擔はうんと輕減されることになる。

ドイツにとつては、この横紙破りのル大統領こそ小面にくひ存在であらう。しかし、ル大統

領の中立水域擴張宣言に對しドイツは左様でござるかと思つ込んでゐない。ヒットラー總統は敢然とル大統領に應酬し、ドイツはいかなる國籍の船舶であらうが、いやくも交戦水域に立ち入る船舶は寸毫も遠慮會釋するところなくこれを無差別撃沈するであらう、と斷乎たる宣言をした。

さらに、レーダー海軍長官はイギリスの誇りとする巡洋戰艦フード(四二、〇〇〇トン)をその最新鋭艦ビスマルク號により撃沈した輝しき戦果を記念する如くアメリカの哨戒護送に對しては實力をもつてこれを排除せんと力強い聲明を行つてヒ總統の宣言を補足した

米アイスランドへ進駐

アメリカの援英哨戒、護送はいよ／＼強化されるに至り參戰の一步前にあるものとみられてゐた際ルーズヴェルト大統領は八月七日議會に對する特別教書をもつて米海軍部隊が七日正午アイスランドに上陸した旨發表した。

ル大統領は教書のうちでアイスランドがドイツのために占領されたら大變だから、同島首相ヨナツソン氏との間に、諒解の下にアメリカが占領したのだといかにも白々しい説明を加へて

ある。アイスランドがドイツに占領されたとしたら、グリーンランド島および同島沖合の島嶼を含む同方面の米大陸に對する脅威と北大西洋上のあらゆる物資輸送に對する脅威と、それに米國の對英軍需品輸送確保に對する脅威等この三點を強調してゐる。

理由はどうにでもつくがアメリカの列擧するところの三脅威なるものはアメリカが故意に抱く幻影であるか、裏面に深く企圖する謀略が多分に包藏されてゐるものと見るべきである。將來は英守備軍と交代して同島の防備を保證せんとする意向を示してゐるが、イギリスは米軍隊のアイスランド島保證占領には釋然たらざるものがあるのではないか、米軍隊に委せて交代引揚ぐべきはずの英國守備隊はアイスランドを撤退しやうとしない。アイスランド島をアメリカに保證占領されたまゝ永久占領をされるのが不満であることは明瞭である。

日佛共同防衛協定成立

わが帝國と佛領印度支那との關係は昭和十五年八月三十日松岡、アンリー協定が締結され佛政府は帝國の支那事變完遂ならびに東亞新秩序建設に資するため必要とする軍事上の便宜供與

を約した、この協定にもとづき同年九月二十三日佛印北部に皇軍の平和的進駐が行はれた。

その後泰、佛印の國境紛争調停成立にもなひ帝國政府がこれを保障すると同時に、日佛間に佛領印度支那に關する政治的的了解を遂げ、さらに進んで日佛間に全面的經濟協定を實現し政治、經濟、軍事と各方面に亘り緊密の度を加へた。

ところが獨ソ戦争開始後世界情勢は著しく變化し英、米とその一黨蘭濠蔣等により東洋方面に加へる壓力とドゴール派の策謀はいよ／＼露骨となり、このまゝ推移する時は佛領印度支那の安全さへも脅威され、引ひては帝國の自衛上にもその影響の及ばん形勢にあるので日佛共同防衛の見地から兩國政府間に折衝が行はれた結果七月二十一日兩國政府間に佛印共同防衛について議定書が作成され同二十九日ヴィシーにおいて調印が行はれた。この共同防衛の取極めにもとづき帝國政府は陸海軍精銳を佛印に増派し、わが國は佛本國及び佛印當局と共同していよいよ具體的に佛印の防衛に當ることとなつたのである。

佛領印度支那は東亞共榮圏の一環としてわが國とは經濟的に密接不離の友好的關係にあるところ英米の音頭とりで蔣介石、英領ビルマ、英領マレー、蘭領印度等敵性國家群により完全な

る包圍を受け重大危機に直面したのでこの壓迫脅威を排除し戰禍を未然に防遏するため今回の佛印増派となつたのであるが英米はA、B、C、D陣營を以て資産凍結、協定停止を行ひイギリスは日英、日印、日緬通商條約廢棄を通告するなど、その他あらゆる經濟壓迫の手を強化し東亞共榮圈確立を妨害してわが自衛上に多大の脅威を與へるに至つた。しかしわが帝國の既定大方針は確乎不動にしてわが行動がそれ等A、B、C、D陣營によつて些かでも牽制されるものではないことをわれ等は確信して疑はなかつたのである。

國民政府檜舞臺に立つ

國民政府は、汪精衛氏を主席とし、十五年三月卅日南京に還都して新政府を組織して以來内治外交各方面にわたり近代國家としての威容を整備しつゝあるが、帝國政府はこれと提携して東亞新秩序建設のため全面的に支援することとなり、十五年十一月日華基本條約を締結並に日滿華三國共同宣言を發表してこれが育成強化に努力して來た。その後特に汪主席の訪日を契機に、日華兩國はいよ／＼緊密度を加へるに至つた。さらに兩國の間に三億圓の借款が成立した。

このときに當り、ドイツ、イタリヤ、ルーマニア、スロヴァキヤ並にクロアチアの歐洲五ヶ國から正式承認を受くることとなり八月一日獨伊兩國政府は南京政府承認の宣言を行つた。ルーマニヤ、スロヴァキヤ、並にクロアチアの政府は駐日楮民誼大使に對し正式承認の手續をとつた。續いてスペイン政府ハンガリーおよびブルガリア政府も、ともに獨伊樞軸國家と歩調を合せて南京政府の正式承認を行つてその旨を公表した。

かくて、南京政府は十ヶ國より正式承認を受けいよ／＼國際的舞臺に乗りだしたのである。

英米巨頭の大西洋上會談

アイスランドに進駐を斷行し參戰街道を驀進中ルーズヴェルト大統領は、獨ソ戰爭が徹頭徹尾ソ聯側に不利なのに焦慮し、最悪の場合でもソ聯をして獨軍の進撃を喰ひ止め年を越さしめる必要がある。これが成功するときはドイツの英本土攻撃は明年三月ごろまでは延ばし得る。あわよくば獨軍をしてナポレオン軍の二の舞ひを演ぜしめることも絶望ではないとはなはだ虫のよい夢を描いてチャーチル英首相と相談をし、ソ聯に對しては無條件で武器彈藥はもとより

軍需品を送りソ聯の抗戦力培養に努めドイツの消耗を企圖した。だが、それだけではなほ安心が行かないので反ドイツ國家を糾合するとともに中立的立場をとる群小國家を英米陣營に抱きこみこれを打倒樞軸の道具に使はうといふ魂膽で、これが具體的問題について膝をつきあはせて相談しやうと極秘裡に計畫を進めた。

ル大統領は、八月三日愛用のヨットボトマツク號に乗つて大西洋上を何處へともなく航海に出たことが報道された。今回の旅行はいつもの週末旅行とちがつて新聞記者の同乗も一切許されず、嚴重な警戒のうちに行方を晦ました。一方、チャーチル英首相もまた、出席すべき會議に顔を現はさずその消息を斷つたので、ル大統領の行動と照らし合せ兩巨頭は大西洋上どこかで秘密裡に會見するのではないかと噂されるに至つた。事實は大西洋上英戰艦プリンス・オブ・ウエルス號で會見した。

果して八月十四日米政府當局は

『ルーズヴェルト大統領とチャーチル英首相は公海上で會談の結果、世界の文明の危機はナチス政府およびそれと聯携せるその他の政府が開始した軍事的な世界制覇政策から發生したもので

あると思惟し、ナチス政治の崩壊後における世界平和の目標に關し英米兩國の八項目の共同宣言を發表することに意見の一致をみた』

と前提し次の如き八項に亘る英米共同宣言をワシントンの大統領官邸において發表した。この共同宣言はロンドンおよびオッタワにおいて英、カナダ兩國政府當局からもそれぞれ發表された。しかし、當然協議されたとみられる軍事上の協力問題には一言も觸れることなく只八項目にのみ限つて宣傳効果を狙つてゐる。

英米共同宣言

- 一、英米兩國は領土その他について擴張を求めず。
- 二、英米兩國は關係國民の自由意思に反する領土的變改を行はず。
- 三、英米兩國は大戦により政府ならびに主權を奪はれたすべての國民に對し彼等の意思に従つて政府を構成し主權と獨立を回復するの權利を尊重する。
- 四、英米兩國は現存の諸義務を尊重しつゝ戰勝國たると戰敗國たるとを問はず且つ國の大小にかゝはらず平等の條件の下にその經濟的繁榮のため世界的な通商および原料資源の享

受を促進するやうに努力する。

五、英米兩國はすべての國が經濟の分野において労働水準の改善、經濟的發展及び社會安定の確保を目的として全的に協力することを希望し促進を圖る。

六、英米兩國はナチスの獨裁を全く破壊した後すべての國家に對し彼等が自己の領土内で安全に生活し得る方法を與へかつすべての土地においてすべての人間が恐怖と缺乏から解放されて希望と自由の中にその生活を伸張し得るが如き平和の確立されんことを欲する七、かゝる平和はすべての人類をして何等妨害を受けることなく世界の公海を自由に航海せしむべきものとす。すなはち海洋の自由を確保するものでなければならぬ。

八、英米兩國は、現實的ならびに精神的理由の下に世界各國は武力行使を拋棄しなければならぬと信ずる。而して陸海空軍が侵略者によつて使用される限り將來の平和は維持されぬから恒久的かつ一般的安全保障體制樹立を前にしてまづ侵略者側の軍備縮少は不可缺である。従つて平和愛好國家をして軍備の負擔を輕減せしめるための一切の手段を助長することに努める。

以上の八項目は第六項のナチス政權打倒に要點を集結してゐるが英米國民に對する國內宣傳

等を狙つてゐることも見逃せない。しかし英米いづれの國民もこの共同宣言には失望してゐるし、ドイツ被征服國煽動と中立的群小國家糾合にはどれだけの効果があるか疑問とされてゐる。

ドイツの反問八ヶ條

英米共同宣言に對しドイツのシュミット情報部長は八項目に亘り反問を發し英米の宣傳戰術の假面を剥いだ

- 一、英米兩首腦は全體主義國家たると民主々義國家たるとを問はず各國平等に海洋の自由を認め海洋支配權を拋棄する意圖ありや
- 二、これまで獲得した根據地をすべて吐き出す意思ありや
- 三、ルーズヴェルト閣下よ貴下は兩洋艦隊を擁して日本を包圍せんとする企圖を拋棄する考へありや
- 四、原料資源の獨占を拋棄する意圖ありや
- 五、貴下はモンロー主義を拋棄する考へありや
- 六、貴下は各國民に植民地を讓渡する意思ありや

- 七、貴下は封鎖戦を抛棄する意思ありや
- 八、貴下は赤化主義の脅威を如何に考へてゐるか

アメリカの對日敵性露骨

日本の發展を全面的否定

大東亞共榮圈の確立は大日本帝國不動の國策である。この國策を妨害阻止せんとするアメリカはその國策において日本とは根本的に相容れない對蹠的存在である。すなはち、モンロー主義、門戶開放主義、米國第一至上主義を綜合したものをもつてその國策とし、米國海軍は、その國策及び商業貿易を顯現支援し、かつ合衆國の本土と海外領土とを防護する目的をもつて世界第一海軍を創設し完全にこれを維持運用して行かうといふにある。世界第一海軍といふ目標は最近の世界情勢に鑑みて大西、太平洋同時作戦に必要な兩洋艦隊建設なる目標に置き替へ、いはゆるスターク作戦部長の提唱にかゝる三百五萬トン建造のスターク案の實施となつた。表現の言葉使ひは如何であらうとも、アメリカの本心は世界制覇の野望に燃えてゐること

はいまや隠し終せぬ公知の事實である。これはルーズヴェルト大統領の側近者ノックス海軍長官が極めて率直に『英米による百年の世界支配』を企圖してゐる旨を豪語した。これが大統領の世界政策がノックス海軍長官によつて大膽に裏書されたもので、語るにおちた内面曝露といふべきものである。

大統領は帝國主義的世界政策を遂行するのに大日本帝國の東亞に儼然たる存在は邪魔でしかたがない。だから、日本が現状以上に國力を増進し強國となることはアメリカにとり好ましからざる現象といはねばならぬ。随つて日本が東亞共榮圈を確立し、これが盟主となることは、大統領の意圖に反することはこゝに説明するまでもないことである。そこで大統領は日本帝國の國家存立自衛上絶対に必要な最少限度の發展に對しても、こと苟しくも發展となる要素に對してはことごとく妨害的態度をもつて臨み、甚しきに至つては、侵略者の名をもつて政治的、經濟的、軍事的に、あらゆる部面から威嚇し、或は恫喝的にわれに臨んだのである。

アメリカ合衆國の對日敵性は、その國策に基礎づけられてゐるものと判断せざるを得ないのである。果してさうだとすれば、日本とアメリカ合衆國は太平洋を挟んで結局相容れない宿命

の間柄に置かれた國家といはねばならぬ。

重慶を楯とする米の苦肉

アメリカ合衆國の對日敵性はわが大東亞共榮圈確立妨害にあること、この一言に盡きると思ふ。これを具體的に挙げ指摘するならば事例は枚擧に遑がないが、その主なるものを挙げれば、蔣介石を援助し、わが支那事變處理を眞向から妨害してゐる事實こそ敵性の主要を占めてゐる。ル大統領は直接手を下さないといへ蔣介石の重慶政府に五千萬ドルの借款を供與し、多數の飛行機、武器彈藥、軍需資材等を貸與して物質的援助をもつて蔣介石の抗戦力の補強を畫策した。ル大統領は九月十五日議會に教書を送り、武器貸與法に基く重慶援助のためトラック、貨物船、および滇緬ルート用の舗裝資材および雲南鐵道裝備資材を重慶に送つた。また重慶空軍増強のため戦闘機の製作も過去三ヶ月の間に完了した、と報告してゐる。

さらに進んでル大統領はスチムソン陸軍長官の管下に在るジョン・マグルーダー代將を團長とし優秀なる將校をスタッフとする軍事使節團を重慶に送つて對日抗戦指導を行つた。この軍事使節團の使命についてはル大統領は何等躊躇することなく左の諸點を闡明した。

一、支那の軍事的事情並びに蔣政權の必要とする軍需品並びに一般物資について調査する、而してこれが種類、數量について研究立案すること。

一、支那およびアメリカの利益に効果あり、かつ世界における武力占領に對する抵抗をできるだけ効果あらしめるため武器貸與法に基く對蔣援助を行ふに必要な條件につき示唆勸告を與へること。而して以上の總ての物資はアメリカで獲得収集しこれが受渡につき援助を與へる。

それのみならず、日本に對しては通商航海條約を廢棄し或は資産凍結をもつて經濟封鎖の強化を行つたこと等、わが支那事變處理を妨害する露骨な敵性發揮である。否アメリカ合衆國の現に實行しつゝある援蔣行爲は敵性なぞといふなまやさしいものでなく、蔣介石軍隊を傀儡とし、現實に日本にぶつつかつてゐる。わが國は昭和十二年七月七日以來征戰五年に亘り國家總力を擧げて蔣介石の假面をかぶるアメリカ合衆國と血みどろの戦争を闘ひつゞけてゐるではないか。この明瞭なる事實はわれ等一億國民の斷じて見道がし得ない重大問題と言はざるを得ない。

また、太平洋における軍事基地増設強化はもとより、スターク案による三百五萬トン大西、太平洋兩洋艦隊編成を目標とする大建艦計畫の實行等は、わが日本帝國に脅威を與へる敵性であり、アメリカ合衆國を盟主とするA、B、C、D、Sの包圍陣結成強化も總て露骨なる敵性發揮と斷言せざるを得ない。

米英の口車で亡國の數々

斯く觀察する時、支那事變を處理し大東亞共榮國を確立するために障礙となるべきものはわが帝國不動の國策遂行上斷乎これを排除して邁進せねばならぬことがはつきりと看取できるであらう。

しかしながら、國家存立自衛上絶対に必要なる大東亞共榮國確立のためにも、なほ平和的友好を旨とし佛印と共同防衛並びに經濟協定を結び、泰國ともまた經濟的に結んで共存共榮を圖つたのである。

然るに、蘭領東印度總督は、わが全權大使芳澤謙吉氏の禮を篤くして提示せる熱烈なる要望に對して非友誼的態度をもつて應酬したるのみならず、わが經濟使節小林一三氏との間に締結

した經濟協定をもこれを停止し、かつ資産凍結を行つてわが國との經濟斷交を行つた。しかも、在留邦人三千人に對し壓迫を加へるなど、對日挑戰の舉措は目にあまるものがあつた。この蘭印の不遜極まる態度こそは、われ等日本國民の斷じて黙視すること能はざるところである。

平和に對する熱烈なる愛好を自負するわが國の平和的南方經濟進出を阻止せんとするためにA、B、C、D包圍陣はなるほど有効にその機能を發揮するかも知れない。だが蘭印當局がアメリカ合衆國の指導煽動に踊らされる結果何ものを期待できるであらうかと云へば、蘭印の繁榮でもなければ、A、B、C、D、の共榮でもない蘭印の滅亡以外の何ものでもないことをやがて身をもつて知るであらう。現に十月マニラにおいて開かれたイギリス極東軍司令官ポ・バム大將を中心とするランカスター尙書ダフ・フーパー、ル大統領の特派使節マグルダー代將等を加へたマニラ軍事會談に徴しても、米英は、蘭印に萬一異變が起つても、武力的に蘭印を保護してやらうといふ言質を與へないため、蘭印當局はひそかに不滿の意を漏らしその前途を氣遣つたのである。

大東亞共榮國確立は、大日本帝國の不動の國策たることは、わが政府當局屢次の聲明で極め

て明瞭である。随つてこの確乎不動の國策遂行に當り前面に横はる如何なる障害も斷乎としてこれを排除して邁進することは、わが既定方針であるから、蘭印當局はいまにして英米の使喚に踊る英米依存の迷夢から醒めない限り、大日本帝國は大東亞共榮圈確立のため自衛權を發動し有效適切なる手段を講ずるであらうことはもはや一點の疑ふ餘地はないと信じられる。

老獪イギリスの甘言口に乗つたがために亡國の憂き目をみた國家は數知れぬほどある。ポーランドをはじめ、オランダ、ベルギー、フランス、ユーゴスラヴィア、ギリシャ等生々しい實例を何んとみるか、蘭印もまた英米の使喚に踊り、いまや英米の楯となり愚かにも自滅の一途を辿らんとしつゝあるに至つては笑止の沙汰といふべきである。平和的手段が阻止される結果どうなるかについて答案は極めて簡單明瞭である。しかもこの問題解決に當り有效適切なるべき措置の前には濠亞地中海をめぐる、A、B、C、D包圍陣のごとき彼等が恃みとするほどの金城湯地にあらず結局こけ脅かし以上ものゝ役にたつものとは思はれない。

近衛覺書の意義

内閣總理大臣近衛文麿公は日米兩國間に懸案とされてゐる太平洋問題について帝國の所信をメツセージとして八月廿八日野村駐米大使を通じてルーズヴェルト大統領に送つた、日米關係に關し情報局は左の如く發表した。

【情報局二十九日午後二時廿分發表】本月二十八日野村大使は米國大統領を訪問し現下の國際情勢に鑑み日米兩國間に懸案である太平洋問題について帝國の所信を近衛總理のメツセージとして手交しました。

同日情報局吉積第二部長は、太平洋をめぐる日米間のデリケートな情勢に關してどこに痛があるかを検討してゐるのである。と近衛メツセージ問題について説明を加へた。

以上の情報局發表によつて逼迫せる國際情勢下にあつて對日敵性發揮に夢中のアメリカ合衆國とわが帝國との間において太平洋の痛と目される各種の問題を平和的に芟除すべく眞摯なる検討を加へつゝある外交々渉の進展中である事實をわれ等國民は初めて知つた。

日米外交々渉の内容はどうであるかわれ等の與り知るところではないが、われ等の常識をもつてすれば、帝國不動の國策たる大東亞共榮圈確立と日、獨、伊樞軸同盟を基本としたる帝國

永遠の發展を基調とせる上に立つた日米國交調整であることを信じて疑はぬのであるからわれ等は政府を絶對に信頼し一億一心帝國所期の目的達成を庶ふものである。

日米國交を調せんとし太平洋の痛を除かんと検討中だといふアメリカ合衆國が對日敵性を露骨に發揮しつゝあることは前項において卒直簡明に指摘した通りである。

かくの如く大統領は對日敵性を積極的に發揮しながら、即ち左手に平和を高唱するかと思へば右手に劍を振りかざし恫喝的態度をもつて我意を強請せんとするかの如く見受けられる。しかしわが國は平和を熱烈に尊重愛好するが故に忍ぶべからざるあらゆるものをその限度まで忍んで今日まで來た。互讓の精神に基き讓歩すべき限度まで讓歩してきたのである。

然るにアメリカ合衆國の敵性發揮の實情を眼のあたりみせつけられるとき、わが帝國不動の國策大東亞共榮圈確立と樞軸同盟の信義と權威を毀損することなくしては日米兩國は根本的に相容れないことがはつきりと看取できることを如何とも否定し難いのである。にも拘はらず譲つて考ふるにアメリカ合衆國は日本を敵手に戰爭を起しても毫しも得るところはなく、失ふところのものばかりである。従つて彼は極力日米戰爭は避けるべく努力しなければならぬ。

またわが國にしたところが、國家存立上自衛權に基く大東亞共榮圈確立と樞軸同盟の信義に悖らざる限りにおいて戰爭手段は極力回避することは當然であり、平和を愛好する精神はわが肇國の八紘一字の大精神に發足するところの國是である、然るに世界の情勢と言ひ客觀的情勢からみるに、このまゝ放任しておけば日本とアメリカ合衆國はどうしても衝突し武力解決に俟たねば解決の方法なきところまで追ひつめられることはもはや必至である。不幸にして日米兩國が衝突するやうなことになるればそれこそ世界は擧げて動亂の坩堝と化する悲惨事を招集する。この平和の臨終寸前において日米兩國政府は世界文化の破滅から救出、人類福祉のため起死回生の方法はないものであらうか、生前あゝもして置けばよかつた、かう言ふ名藥があつたのに惜しいことをした、といふやうな愚痴の材料となるべきものはひとつも残さないやう人事を盡して天命を俟つ心組をもつてあらゆる手段と手當を施す必要がある。これ國家の義務である。

こゝにおいて近衛首相は兩國お互にも一度冷靜に太平洋問題を考察検討してみようではないかと眞摯なる態度をもつて大統領に宛てメッセージを送つたものであらうと思はれる。

果して然りとするならば所謂近衛メッセージは平和の臨終に直面し最後のカンフル注射を試みたものといふべきである。この注射により絶望的平和が息を吹き返し得たならば煎り豆に花が咲いたほどの奇蹟といふべきである。

といふのは、日米交渉中におけるアメリカ合衆國の敵性發揮状況はどうであるかと見るに、依然として繼續せられ、しかもいよ／＼もつて積極的となり寸毫の反省の色さへなく米國の意圖が奈邊に存するのか疑問を抱かざるを得ないのである。強いて判断するならば、アメリカは交渉をたゞ徒らに遷延し、英、ソ、蔣をもつて楯とし樞軸の消耗を企圖する底意にして、しかもアメリカは、英、ソ、蔣の興廢は問題でなくアメリカ自國の發展世界制覇の野望あるのみなりと斷定せざるを得ないからである。

東條戦時内閣成立

東亞共榮圈確立を基調とし、太平洋の恒久平和を目標とする日米交渉は、アメリカ合衆國の巧妙極まる遷延策に乗じられがちで四月以來の折衝も全く停頓状態に陥ち、兩國關係は却て緊

迫化を告げる結果となつた。而してわが國の諸般の情勢はアメリカの希望するがごとき遷延策を默視することは許されない實狀にたち至つた。

近衛首相は、熱意をもつて日米國交調整に當つたのであるが、ルーズヴェルト大統領の理解あるを得るところか、アメリカは、A、B、C、D對日包圍陣の強化、露骨な敵性發揮をもつて回答とした。

かうした情勢下にあつて近衛内閣は退却の己むなきに至り總辭職を決意し十月十六日首相近衛文麿公は閣僚の辭表をとりまとめて閣下に捧呈した。

近衛内閣の陸軍大臣東條英機中將は組閣の大命を拜し與望を擔つて戦時内閣を組織した。東條中將は陸軍大臣と内務大臣の兩相を兼攝し、陸軍大將に親任されるといつた有史以來の内閣總理大臣として颯爽と登場した。

東條首相は、超非常時艱克服の重大責任をもつて國政燦理に當るや、まづ膝下の陸軍省において木村次官以下省内全將校ほか陸軍大臣直轄部隊長を集めて訓示を行ひ、

支那事變禍因の根本を剔抉し、敵性諸國の大包圍に對して皇國萬年の安泰を庶幾せんがため

には、既定の事變處理方策を堅持し全軍全國家の總力を結集し、鐵石の團結をもつてこれが遂行に邁進せんことを絶対に緊要なりと信ず、今や實に皇國は興廢の關頭に立てり、と不退轉の決意を披瀝して皇國守護の大任に聊かの遺憾なきことを要望した。また第七十七帝國議會において東條首相は國策遂行に關し包圍陣の軍事的脅威と經濟封鎖除去を期し、東亞共榮圈確立のため支那事變完遂の妨害に對しては、あらゆる障害を斷乎排除し國家百年の大計を樹立する決意を國民に遡へ、これが完遂を誓つた。而して帝國外交の三大原則を堂々と中外に闡明し日米交渉の基調を明瞭ならしめ、もつて帝國の存立を完ふせんとする固き決意を示した。東條首相の大獅子吼の一節をこゝに記して參考としたい。

帝國外交三大原則

北方においては本年六月獨ソ開戦以來、事端漸く滋からんことを思はしめ、事態の推移は帝國として無關心たるを得ざるものがありますのでわが北邊の安定のため遺憾なき措置を講じつゝあります。また、南方においては、昨年北部佛印に皇軍の進駐となり、次いで日、佛印の經濟協定、泰佛印の紛争調停等帝國と佛領印度支那との友好緊密關係は漸く増進し南方に對する

帝國の平和的進展は漸やくその緒に就かんとしておりましたが、英米蘭諸國の軍事的並に經濟的合作の強化に伴ひ蘭印との經濟交渉は不調に終り、ひいて、南太平洋における帝國の地位に重大なる脅威を及ぼさんとするの形勢となりましたので、帝國はビイシー政府と日、佛印共同防衛に關する取極めをなし、これに基き、七月末南部佛印に兵力を増派せらるゝこととなりました。しかるに、英米蘭諸國は、この帝國の當然なる自衛的措置を迎ふるに猜疑と危惧との念を以てし、資産凍結を行ひ事實上全面的禁輸により帝國を目標として經濟封鎖を實施することにも、その軍事的脅威を急速度に増加して參つたのであります。蓋し、交戰關係にあらざる國家間における經濟封鎖は武力戰に比して優るとも劣らざる敵性行爲であることは言を俟たないのであります。

かくの如き行爲は、帝國の企圖する支那事變の解決を阻害するのみならず、さらにまた帝國の存立に重大なる影響を與ふるものでありまして斷じて黙過し得ざるものであります。

然るにも拘らず、常に平和を欲する帝國と致しましては隱忍自重、忍び難きを忍び、耐へ難きを耐へ、極力外交々涉によりて危局を打開し事態を平和的に解決せんことを期して參つたの

であります。いまなほ、その目的を貫徹するに至らず、帝國は今や文字通り帝國の百年の計を決すべき重大なる局面に立たざるべからざるに至つたのであります。

政府は、肇國以來の國是たる平和愛好の精神に基き、帝國の存立と權威とを擁護し、大東亞の新秩序を建設するため今なほ外交に懸命の努力を傾注致しておる次第でありましてこれにより帝國の期するところは

一、第三國が帝國の企圖する支那事變の完遂を妨害せざること

二、帝國を圍繞する諸國家が帝國に對する直接軍事的脅威を行はざることとは勿論、經濟封鎖の如き敵性行爲を解除し、經濟的正常關係を恢復すること

三、歐洲戰が擴大して禍亂の東亞に波及することを極力防止すること

であります。以上三項に亘る目的が、外交交渉によりて貫徹せらるゝならば、獨り帝國のためのみならず世界平和のため誠に幸であると信ずる次第であります。

然しながら、從來の經緯に鑑み交渉の成否は逆賭し難いものがあります。従つて政府は、前途に横はるあらゆる障害を豫見して、之に對する萬般の準備を整へ、斷乎として帝國

既定の國策を遂行するに萬遺憾なきを期し、よつて以て帝國の存立を完ふせんとする固き決意を有しております。帝國は、實に悠久二千六百餘年の歴史の上において、曾て見ざりし國家隆替の岐路に立つておるのでありますから、政府は、深く思ひをこゝに致し、全力を盡して輔弼の責を全ふする覺悟であります。

事態が如何様に發展致しませうとも、高度國防國家體制の完成こそは正に喫緊の重大事であり、あります。これが爲にますます國民志氣を緊張し、産業經濟の能率を最高度に發揮するの要切なるものがあるのであります。これと共に、政府は國民生活の確保に關しては、萬全の策を講ずるものであります。これが更に緊縮を見ることは誠に已むを得ざるところであります。私がかゝる衷心より希望致しますことは、全國民が帝國は今や一大飛躍の秋に際會し、前途に洋々たる發展を期待し得べきことを確信して相共に今日の苦を分かち、國民一丸となつて聖業の翼賛に邁進せんことであります。

右のごとき東條首相の不退轉の固き決意に應へ、貴衆兩院は、國策貫徹、並びに政府鞭撻の決議を行つて國民總意を表明し、積極的に政府に協力する旨を固く誓つた。

最後の平和工作日米會談

東條首相は、いはゆる戰時内閣を組織し、不退轉の固き決意をもつて帝國既定の國策遂行に乗り出したが、いまや決戰内閣の使命を果すべき重大危局に直面するに至つた。しかし東條首相はわが肇國以來の國是たる平和愛好の精神に基き、大東亞共榮圈確立により太平洋の恒久的平和、それが世界平和を齎らす所以であることのため、近衛内閣に引きつゞき日米國交調整に熱意をもつて當つた。組閣早々來栖三郎氏を特命全權大使としてアメリカに派遣し野村駐米大使と共に日米交渉に當らしめた。

來栖特命全權大使は特別仕立の飛行機で十一月五日東京を出發し、香港經由太平洋を横斷して十六日ワシントンに到着した。來栖大使は十七日午後十時半（日本時間十八日午前零時半）野村大使と共に國務省にハル國務長官を訪問し近衛内閣總辭職以來停止中の日米交渉を再開、第一回會談を行つた。會談後來栖大使はハル長官の案内で白聖館にルーズヴェルト大統領を訪問し正式會見を行つた。

日米會談は、わが野村、來栖兩大使とハル國務長官との間に屢次に亘り行はれたが、ル大統領

領の堅持するところの國策は、内にモンロー主義、對外的に門戶解放機會均等、すなはち人のものはおれのもの、おれのはむろん、おれのものといふ極めて虫のよいものであり、しかもわが帝國の發展を否定せんとする意圖をその内面に包藏してゐるため、アメリカは、わが正當なる主張にも故意に耳を塞いで解せんとは努めず、むしろ交渉の遷延策に謀略を用ひて憚らぬ有様である。而して交渉中にもかゝはらずアメリカ當局は音頭をとつて、A、B、C、D對日包圍陣の強化に浮身をやつして、フィリッピンの兵力増勢、太平洋の軍事基地強化に努め、いよ／＼もつて對日敵性を露骨に發揮し、わが上下を極度に刺激する傍若無人の態度を示すに至つた。

東條首相は隱忍自重し、忍び難きを忍び、耐へ難きを耐へ、極力外交交渉により平和的に日米の國交を調整し、太平洋の平和を招來せんことを庶幾し、來栖特命全權大使をアメリカに派遣したにもかゝはらず、日米交渉の經過は、アメリカの無反省無理解のため全く期待に反する結果を生じ、太平洋を挟んで日米兩國はいまや最惡の事態をかもさんとする不幸な關頭に立つた。ハル國務長官は利害關係にあるからとの口實の下に英、濠、蘭、蔣の四ヶ國代表を集め、

緊密な連絡をとつてゐる。その會議の内容は知る由もないが、老獪なアメリカは、日米交渉の最悪な事態たる決裂の場合に處するため英、濠、蘭、蔣の各代表を糾合して日米交渉の経過を報告し、あるひはその意見を徴し、日米交渉に消極的参加をなさしめ責任を分擔せしむる魂膽であると見られた。日米交渉が萬一決裂したとすれば責任はル大統領の負ふべきものであつて英、濠、蘭、蔣の分擔によつて決して五分の一に軽減されるものではない。

帝國は、實に悠久二千六百餘年の歴史において曾つてみざりし國家隆替の關頭に立つたといへ、國家の自存と權威を保持し、既定の國策遂行のため東條首相は今後の事態のいかなる變化に對しても障害を突破していかなければならぬと心強き決意を示し、また東條兼攝陸相と島田海相は第七十七帝國議會において、いかなる事態に對してもわれに萬全の備へありと國防の安固は磐石微動だにしない點を率直に表明されたのは一億國民の力強く感銘するところである。

死中活を求めるの途

アメリカ合衆國の敵性發揮はわれ等日本國民の到底忍ぶ能はざるものであり、現状のまゝで

は日米國交調整の交渉は繼續するも無駄骨を折るに過ぎないものと信じられるが、こゝに百歩を譲つて無駄を承知の上で交渉が進められるとしてわが國はいつたいアメリカに何が期待できるであらうか。

アメリカは、米洲における盟主たるは自由であるが、アジアに關するかぎり過去の行きがかり一切とその優越感を清算し對日敵性發揮を停止して誠意を示さざるかぎり、兩國の間に圓滿なる友好關係は結ばれないであらうと確信される。すなはち、わが大東亞共榮圈確立政策を認めかつ現に實行中のスターク建艦計畫を即時中止するとともに太平洋に散在する幾多の軍事基地諸施設を撤回しもつて平和愛好の實を示すことこそアメリカ政府のとるべき最も賢明なる方途なりといはねばならぬ。

然るにアメリカ政府は、大日本帝國の存立繁榮否認を、その國策としてゐるのである。それは、こと苟しくも日本の經濟的發展の途と思はれるものについては、支那大陸、南洋方面はもとより、世界到るところにおいて、アメリカの可能なる範圍の限度までこれが阻止妨害に對日敵性を發揮したる幾多の事例が明瞭にこれを證明する。この點はアメリカの對日敵性發揮の項

において指摘した通りである。

此の如き蔽ふべからざる事實の前に、アメリカはなほその非を悟ることなく、欺瞞、謀略、恫喝等の限りをつくし、執拗に貫徹を期したのである。資産凍結解除、通商航海條約締結、對日借款供與等々の好餌をもつて日本を釣らうとするくらひの手は打つに違ひない。アメリカが好餌を投げかけた時、その好餌の裏にどんな毒藥が仕掛けてあるか仔細に検討してみることがわれ等は決して忘れてはいけない。何等の思慮分別なくしてガブリと喰ひついたら最期骨の髓までしやぶられる危険がないと誰が保證できやう。

この際アメリカと國交を調整し、支那事變を處理しこゝ二三年みつちりと國力を培養した上で再出發をする必要がある、とかういつた趣旨の意見がよく途説として耳に入る。一應もつともな説と思はれる。むしろこの説にしたところが大日本帝國永遠の發展が約束されるといふ條件を基調とされてのことと確信するが故にわが不動の國策たる大東亞共榮圈の確立に支障なく樞軸同盟の信義に悖らざることを基礎として日米提携ができることならば毫も躊躇することはいらぬ欣然と日米提携すべきである。

だが待てよ。そんなうまい方法が果して現在あるだらうか冷静におちついて考察してみる必要がある。大東亞共榮圈の一段階となるべき日佛共同防衛の條約に基いてわが國の佛印駐兵強化を行ふと同時にアメリカからの物資輸入の途は斷たれてしまった。資産凍結が行はれ、それが蘭印をはじめ英米系に屬する諸國は何れも右へならつて對日經濟封鎖の片棒を昇ひたのである。わが國の絶對的必要物資たる石油がピツタリ止まつて一滴も入らないのだからわが國にとつては一大事であることに相違ない。鐵類其他必要物資についてもまた同様である。然るにアメリカと國交が調節できればこの斷たれた途が開いて石油も輸入できれば貿易が自由になり諸物資は堰を切つた水のやうに流れこむであらう。さうなれば逼迫した國內に清新の氣を注入し國民は擧げて發瀾たる生氣に溢れるであらうと。あるひはその通りになるかも知れない。だがアメリカの要求條件を容れて日米國交が假りに調整されたところで、わが國の所要物資が思ふ通りに輸入できるであらうか。早い話が、石油と鐵の問題をとり上げてみるに、わが國が消費した上貯藏し得るだけの石油をアメリカが賣るだらうか。アメリカが注文通り賣つてくれたところで油槽船の船腹關係でわが手に事實上入るだらうか。また、鐵だが、アメリカ海軍の壓倒

的脅威の外にわが海軍兵力量を維持し得るに必要な鐵量を賣るだらうか。そしてその鐵量を輸送し得るだらうか。わが國は聖戦すでに五年、この間戦争資材軍需品其他相當に消耗をしてゐることは争はれない事實である。然るにアメリカは無傷にして、しかも援英のため軍需品ともに尨大なる生産力擴充を行ひ國を擧げて兵器廠となつてゐるのだから、わが國が五ヶ年間の消耗を補給するだけでも相當の歳月を要するのに比較して、アメリカは日本の足踏みをしてゐる間に軍備はグン／＼と充實され、例のスターク案三百五萬トン建艦計畫はたちどころに完成し大西、太平兩洋艦隊の編成をみるに至り待望の世界制覇陣が完璧となる。これはアメリカの術中に陥ちたもので、かうなることは彼等の企圖せる陷阱なのである。

この時に及んでも、なほわが大東亞共榮圏は未完成であり、鐵と石油は米國依存の鐵鎖に繋がれたまゝその軌絆を脱することができないみぢめな状態に置かれてゐるであらう。國防の重要々素をなす鐵と油と米國に依存する國家の對米發言權にどれだけの權威が保たれるであらうかは論ずるに及ばないことである。

日清戦争の賠償として獲得した遼東半島租借權が三國干涉により涙を吞んでこれを還附した

日本國民は臥薪嘗膽十年にして露國の恨みをはらしたことは小學兒童もよくこれを知るであらう。しかしわれは臥薪嘗膽などと安價なセンチメンタルに酔つたりしてはいけない。二十年三十年でも、將來に國家永遠の繁榮が約束される見透しがあるものならわれ等は薪の上はおろか石の上にも寝ることは決していとぬものであるが、薪の上に寝たまゝ再び起つこと能はざるに至つては永劫浮ばれない。これは斷じて避けねばならぬ。

こゝにおいてわれ等は、わが國の繁榮を否定せんとするアメリカ合衆國の國策を想起検討し彼等の謀略の手に乗らぬやう戒心を怠らず毅然として自主獨往、不動の國策完遂を期して邁進せねばならぬ。

近衛メツセージを基調とする日米交渉の停頓して圓滑なる進行をみざるはアメリカ政府に誠意の缺くるところあり、太平洋の危機切迫に導入せる責任はすべてアメリカにありと、わが國輿論の沸騰しつゝあるに想倒するときいまや斷乎として國策遂行によつてのみ死中に活がもめられる所以であることを銘記すべきである。

かくてわれ等の得たる結論は、日米兩國は所謂廣袤一億七千萬平方キロの太平洋を挟んで砲

火のうちに相交へざるを得ない宿命にあるといふことである。しかし、日米兩國はいかなる時機に、どんな形式において國交斷絶を來すであらうか、それはおのづから別問題である。

帝國海軍不動の信念

歐洲戰爭は獨伊樞軸の攻勢いよく猛烈を加へイギリス帝國はいまや崩壞の寸前に喘いでアメリカの援助にひたすら縋がるのみといふ情勢により、アメリカ合衆國の參戰か否かその態度決定にルーズヴェルト大統領は苦慮してゐるとき、恰かもわが國は皇國の興廢を賭けた日本海軍に大勝を博した第卅六回海軍記念日に當り海軍大臣及川古志郎大將は五月廿七日午後七時廿分ラジオを通じて全國民に對し日露戰役の輝く大戰果と搖ぎなき傳統をうけ繼いで今日の記念日を迎へた帝國海軍の威容を説き、現下の世界情勢においていかなる國と雖も恃む所はたゞ自らの力あるのみである。自ら恃むに足る實力があればこそ不動の信念がそこに生れるのであつて、いかなる危局に臨むとも敢て驚くには足らない、とて變轉極まりなき世界情勢に處する信念と帝國海軍の態度を述べ、國民と共に斷乎時艱克服に邁進しやうと、國民の決意を促し多

大の感動を與へた。

その同じ日大本營海軍報道部報道課長平出英夫大佐は『海軍精神を語る』と題しラジオを通じて左の如き要旨の帝國海軍不動の信念を率直に披瀝した。平出大佐のこの演説はアメリカ合衆國の參戰問題をめぐりルーズヴェルト大統領の爐邊談話を前にしてなされたものであり、太平洋を挾んで日米關係の微妙なる動きをみせつゝある際のこととして世界の注目を集めた。

世界を震はせた平出放送

日本が世界最大のロシアに必ず勝つといふことを信ずる人は日本帝國以外には極めて少かつたのであるが、わが國民は大和魂で必ず最後まで頑張るといふ氣持から、理窟では勝目のない戦ひを勝ち抜かねばならぬ必勝の信念に燃えつゝこの大戰爭を闘ひ通したのである。

日本海大海戦はかゝる意氣込みの最高潮の頂點において行はれたもので經濟的の勝利でもなければ、また科學的の勝利でもなく眞に精神力と術力とでかちとつた大勝利であつた。目下帝國海軍は外は大東亞新秩序の確立、内は高度國防國家の建設を大目標とし空前の四大事業を同時に實施しつゝある。即ち支那事變完遂、世界大變局に備ふる戦備の充實、將來に備ふる軍備

の擴充および英米依存性の脱却がこれである。

昨年末以來波高しといはれた太平洋が最近一應小康を得たかの如き印象を國民の一部に與へてゐるやうに聞き及ぶが、果して太平洋はその名の如く波靜かになつたのであらうか、否太平洋の波は日一日と高くなりつゝあるのではあるまいか、イギリスはドイツの主として潜水艦と飛行機による逆封鎖作戰によつて逐次窮迫の度を増してゐるやうに見え、この結果イギリスを援助してその滅亡を防ぐことが出来るかどうかアメリカ自身の安危にかゝる問題だと騒がれるやうになつて來た。その援助を徹底的にやらうと計畫されたものが武器貸與法であるがイギリス援助の物資は今もなほ大西洋上にかんりの部分を沈められてしまふのでアメリカとしてはアメリカ軍艦や商船を使つて安全にイギリスに品物を送り届けよやうと考へてゐるやうである今後狀況の如何によつてはアメリカ軍艦とドイツ潜水艦との戦鬪を惹起する危険を伴ふのでその結果は事實上の獨米開戦まで發展するものと見るのが當然であらう。アメリカが參戰すると日獨伊三國同盟の關係をもつて遠い對岸の火災とも見える歐洲戰や大西洋の問題が直に日本に影響をもつて來るのである。アメリカが日本に戰爭を仕掛ける場合も米艦隊をあげて日本に攻

め寄せる事は決して容易なことではないと一般に論ぜられます差當り海上ゲリラ戰即ち通商破壊戰を行ふのであらうとは世界海軍通の間に信ぜられてゐるところであるが、この場合もドイツがイギリスに行つてゐるやうに劇しい潜水艦戰や空襲を日本に對して實施することは非常な困難を伴ふであらう。何となれば日本の地理的情勢上最寄りの根據地より例へば東京灣まで千マイル以上もあり、潜水艦や飛行機の數も相當の制限を受けるからである。従つてゲリラ戰は可能ではあらうが歐洲戰爭で見るやうな深刻なものではあり得ないと思ふ。

この世界の難局を切り拓いて堂々の歩武を進むものはその國のもつ本當の力でなければならぬ。その力の本體は日本においては長くも上御一人の下に萬民一體となつて結束しその分に應じて國を推し進むる力である。海に強き國は陸に強からず、陸に盛んなる國は海整はず更に空の力を加味すれば海陸空のいづれをも合せて強く備へたる國は世界に餘り例がないのであるまいか、空の力をも具備したる帝國の陸海軍の強盛なる力はすでに世界に定評のある事柄で如何なる國でもこの力に對しては手を出し難き感じをもつてゐるのであるが、ただ國內の結束を破り或は軍民を離間し或は陸海兩軍を相離れしめ國民間に相反する思想を抱かせる如き

工作こそ敵性國家が百方手をつくして實施しやうとするところであつて日本に對する絶好の攻め手と考へ最後の勝利をこの一點にかけて待望してゐるかの如くである。故に國民間に無用の摩擦を生ずるが如きは正に敵性國家の謀略の手に乗ぜられることであることを理解し大いに警戒を要する次第である。『一億一心』の新體制が如何に大切であるかはいまさら喋々を要しないが、或は國土の一部が空襲にさらされ或は物資の一部が潜水艦に撃沈されるやうな場合が起つても國民が不動の信念の下にその團結を亂すことなく毅然としてこの職域奉公に邁進するならば如何なる敵も日本をどうすることも出来ない筈である。

次に日本參戰の問題であるが、三國同盟の誼みによる場合のほか日本は戰爭に入ることはいであらうが若し萬一敵性國家群の經濟壓迫がわが方の生存權を犯すに至つた場合には帝國としては自衛上當然蹶起せねばならぬものと思はれるのであるが斯くの如き事態に立到るや否やは一に相手國の我に對する態度によるもので、わが方自ら戦はんがため相手を刺激するといふが如きことではないのである。従つて帝國海軍としては紛々たる世論に超越し軍備の擴充と戦力の充實とに精進しつゝ大命一下何時にてもまた如何なる強敵に對しても戦ひ得る準備と必勝

の信念とを抱いて満を持して待機してゐるのであつて將士は外柔く内剛き昔の日本武士を理想とし世界最大の敵に對しても捨身獨特の戦法を案じ寡をもつて衆に當りしかも必ずこれを屠して皇國を泰山の安きに置かんことを期し支那事變以來わが帝國を壓迫して來た敵性國家の行爲に對しては終始深甚なる注目を怠らないものである。帝國海軍は現在大小二百餘隻の艦艇をもつて支那沿岸海域の作戦に従事しつゝ更に他の三百餘隻の艦艇とこれに必要な根據地とを整備して西太平洋の海域に備へてゐるのであるがこの整備状態はまさに帝國有史以來空前のものであつて必要な基地は今や完全なる防備を施し終つて海鷲これに據り大鯨こゝに潜み、輕々しく我に挑戦するものあらばこれを一舉に粉碎せんとする姿勢にあるのである、帝國海軍の航空兵力は軍民一致の努力によりその數すでに四千機になんとし、支那大陸において示しつゝある遠距離爆撃その他の戦法とはまた別個にわが海上航空部隊としての獨特の必殺的戦法をも練りつゝある状態である。今日の世界状態から日本が參戰することなしと斷言することは誰にも出来ないと思はれるのであるが、萬一の場合においても何等驚くに足らぬ準備が行はれてゐることは如上に述べた通りであるからわれ／＼國民としては不必要な心配をすることなく一切

をその擔當者に任せ、また徒らに論議に走ることなく各々その職域において御奉公し皇國三千年の歴史を更に發展せしめ大和民族萬歳の運命を開拓するの氣魄をもつてこの未曾有の國難突破の進軍を明朝に勇ましく續くべきであると信ずる『皇國の興廢この一戦に在り、各員一層奮勵努力せよ』の信號は大東郷の精神をそのまま活かして今日既に東亞の空高くひるがへつてゐるのではあるまいか。

日米交渉の發火點

世界平和と人類の福祉を熱願するわが帝國は近衛聲明、東條聲明に明示されたる如くあくまで平和的に日米關係の國交調整の成立に努力を惜まず東條内閣は來栖三郎大使を特派し駐米大使野村吉三郎大將とともに米國政府と商議せしめられたのであるが、米國政府は四月中旬非公式試案として提示したる提案、すなはち

- 一、兩國の抱懷する國際觀念及國家觀念
- 二、歐洲戰爭に對する態度

- 三、支那事變に對する態度
- 四、日米兩國間の通商
- 五、太平洋地域に於ける經濟活動
- 六、太平洋地域の政治的安定
- 七、比律賓中立化

右の如き項目を含み是を太平洋全般の問題に關する一般的協定の基礎たらしめやうとした。

右の提案中米國政府は日獨伊三國同盟條約に關しては米國が自衛に名をかりて歐洲戰爭に參入する場合帝國が太平洋方面において米國の安全を脅威せざることにつき保障を求め、又支那事變に關しては、米國の容認する基礎條件を以て日支和平を仲介しやうといふ意思を示した。

これに對し帝國政府は五月中旬、三國條約については戰爭軍事援助義務は同條約規定の場合に發動するものであり、又支那事變については米國は近衛三原則、日支基本條約及日滿華共同宣言を了承し、我善隣友好政策に信賴して重慶に對し和平を勸告すべく重慶に於て右勸告に聽従しなかつたならば重慶援助中止をせよといふ對案を提出し爾來交渉は同案をめぐり日米間に

繼續折衝されたのである。この間わが國は米國案を參酌して新案をつくり局面の打開につとめたが米國は(一)一切の國家の領土保全及主權尊重、(二)他國の内政不干涉、(三)通商上の無差別待遇、(四)平和手段に依るの外太平洋に於ける現状の不變更なる諸原則の適用に關する帝國の意圖、並に三國條約問題、在支日本軍隊駐留問題、及國際通商無差別待遇問題に關し帝國政府の見解を明示せよと要求して來た。

東條内閣となつてから米國は三國條約の廢棄、通商無差別原則は無條件に支那に適用せよ、列國共同の下に支那の經濟協同開發を行ふこと等を包含する經濟政策に關する日米共同宣言を要求したので帝國は同原則が全世界に適用せらるゝことを希望して右希望の實現に順應して支那に對しても同原則の適用を承認する趣旨を與へ共同宣言案についてはこれが實行される場合支那國際管理の端緒となる虞あるを以て米國に撤回を要求した。

東條内閣により特派せられたる來栖大使は野村大使とともに十一月十七日以來ルーズヴェルト大統領、ヘル國務長官等と會見種々折衝を重ねたのだが米國政府は日本が獨逸と提携し居るかぎり日米交渉は至難なりと強硬に主張して理解せず論議はもはや無駄、兩國の國交は破綻の

ほかなき逼迫せる状態となつたのでわが帝國政府は兩國々交妥結をはかるために十一月二十日左の新提案を米政府に提示した。

- 一、日米兩國政府は何れも佛印以外の南東亞細亞及南太平洋地域に武力的進出を行はざることを確約す。
- 二、日米兩國政府は蘭領印度に於て其必要とする物資の獲得が保障せらるゝ様相互に協力するものとす。
- 三、日米兩國政府は相互に通商關係を資産凍結前の状態に復歸すべし、米國政府は所要の石油の對日供給を約す。
- 四、米國政府は日支兩國の和平に關する努力に支障を與ふるが如き行動に出でざるべし。
- 五、日本國政府は日支間和平成立するか又は太平洋地域に於ける公正なる、平和確立する上は、現に佛領印度支那に派遣せられ居る日本軍隊を撤退すべき旨を約す。日本國政府は本了解成立せば現に南部佛領印度支那に駐屯中の日本軍は之を北部佛領印度支那に移駐するの用意あることを闡明す。

右の提案に對し米國政府は同意せずとなし我方に對し依然強硬態度をもつて十一月廿六日三國條約の廢棄、支那及佛印より一切の軍隊撤收を繰返したる内容其他の要求を提出したのである。

右の日米交渉經過要旨はわが外務省の公表せる日米交渉の經過によるものであるが、米國政府はかゝる平和的交渉中にも拘らず何等の誠意を示さないばかりか對日包圍陣を急速に増強し恫喝的態度をもつて威嚇し、かつその兵力をもつてわが内南洋領地あるひは臺灣近海に至る偵察をも行つたのである。なんとといふ傲慢不遜のふるまいであらう。ルーズヴェルトはわが帝國起つ能はずと見括つて、できない相談を持ちかけ屈服を期待したことであらうが、陰忍にも自から限度がある。

わが帝國は日露戰爭以來米英の壓迫下に國力の増進、國威の宣揚に總力が蓄積されて現在に及んだ。米英の不法の重壓が加はれば加はるにつれて反撥力は旺盛となつていつた。ワシントン、ロンドン軍縮條約により最高潮に達したといへよう。

かくて宿敵米英擊滅打倒戦はかれら自からの點火により爆發したのである。

獨伊米國に參戰

米英擊滅の大詔渙發あらせられた八日より三日後の十二月十一日午前十一時（日本時間午後六時）ベルリンのヒットラー總統官邸において駐獨大使大島浩中將、リツベントロツプ獨外相駐獨イタリア大使アルフイェリ氏との間に對米英戰共同遂行單獨不講和及新秩序建設に關する日本國、ドイツ國、イタリア國間協定に正式調印が行はれた。

世界新秩序建設の高遠なる理想を有し英ソ擊滅途上にある獨伊兩國が東亞新秩序建設の使命に起つわが帝國の米英擊滅の征戰に、日獨伊三國同盟の精神に則り斷乎アメリカ合衆國に對し宣戰を布告したことは、打てば響く日獨伊樞軸國間の密接不離の濃かなる國交、盟邦の信義を如實に顯示したものである。

自由主義國米英と共產主義國家ソ聯とはあたかも水と油の聯合國を形成しあるに對し共同戦線にたつ日獨伊樞軸國同盟は磐石の如く一段と強化されるに至つた。内閣情報局は同日午前十時三國同盟強化の新協定内容について次の如く發表した。

情報局發表

獨伊兩國は今般對米英參戰に決し本十一日伯林に於て帝國全權大島大使、ドイツ國全權リツベントロツプ外相並びにイタリア全權アルフイェリ大使の間に對米英宣戰の共同遂行、單獨講和及新秩序建設協力を内容とする左の如き日獨伊間協定調印せられたり、アメリカ合衆國及英國に對する共同の戰爭が完遂せらるゝ迄は干戈を收めざるの確乎不動の決意を以て大日本帝國政府、ドイツ國政府、及イタリア國政府は左の諸規定を協定せり。

第一條 日本國、ドイツ國及イタリア國はアメリカ合衆國及英國により強制せられたる戰爭を其の執り得る一切の強力手段を以て勝利に終る迄遂行すべし。

第二條 日本國、ドイツ國及イタリア國は相互の完全なる了解に依るに非ざればアメリカ合衆國及英國の何れとも休戰又は講和を爲さざるべきことを約す。

第三條 日本國、ドイツ國及イタリア國は勝争を勝利をもつて終結したる後に於ても亦千九百四十年九月廿七日其締結したる三國條約の意義に於ける公正なる新秩序招來の爲最も密接に協力すべし。

第四條 本協定は署名と同時に實施せらるべく且千九百四十年九月廿七日の三國條約と同一

期間有效たるべし、締約國は右有効期間の満了前適當なる時期に於て爾後に於ける本協定第三條に規定せられたる協力の態様に付了解を遂ぐべし。

日泰攻守同盟を締結

米英擊滅の大東亞戰爭はすでに八日火蓋が切られた。わが南方軍事行動を飛躍的に増強されねばならぬため、坪上駐泰大使は帝國政府の命令に基いて十二月八日以來英國の泰國侵入を排除する必要から日本軍隊の泰國通過承認方についてビブン總理と折衝した。

ビブン泰國總理は大勢を洞察し帝國の提議を容れ原則的諒解の成立を見た。その後引きつゞき兩國間に友好裡に右同盟條約の正式手續を進めた結果廿一日午前十時バンコックに於て日泰攻守同盟條約成立、同條約に正式調印が行はれた。

こゝにおいて東亞の盟主わが帝國と南方アジアの新興泰國との間に血盟の誓ひが成立し、日泰兩國は共同のもとに東亞侵略の米英的勢力驅逐一掃を期して軍事行動を起すこととなつた。

日 泰 條 約

大日本帝國政府及泰國政府は東亞に於ける新秩序の建設が東亞興隆の唯一の方途にして且世

界平和の恢復及増進の絶對要件たることを確保しこれが障害となれる一切の禍根を芟除根絶するの確乎不動の決意を以て次の通協定せり。

第一條 日本國及泰國は相互の獨立及主權の尊重の基礎に於て兩國間に同盟を設定す。

第二條 日本國又は泰國と一又は二以上の第三國との間に武力紛争發生するときは泰國又は日本國は直に其同盟國として他方の國に加擔し有らゆる政治的、經濟的及軍事的方法に依り之を支援すべし。

第三條 第二條の實施細目は日本國及泰國の權限ある官憲間に協議決定せらるべし。

第四條 日本國及泰國は共同して遂行せらるゝ戰爭の場合に於ては相互の完全なる了解に依るに非ざれば休戰又は媾和を爲さざるべきことを約す。

第五條 本條約は署名と同時に實施せらるべく且十年間有效とす締結國は右期間滿了前適當なる時期に於て本條約の更新に關し協議すべし。

中華民國對米英宣戰す

盟邦中華民國政府は大東亞戰爭勃發と同時に日華基本條約の精神に基いて同甘共苦の大席のもと米英擊滅の大東亞戰爭に協力してきたが同政府は民國卅二年一月九日（昭和十八年）を期し米英に對する宣戰を布告しわが國と共同戰線に立つて共同の仇敵米英並びに一聯のその與國を擊滅して世界新秩序建設に積極的協力を致すべき國是を中外に宣言した。

すなはち中國の歴史的宣戰布告を決定すべき九日の中央政治委員會議は午前九時南京汪公館に主席汪精衛氏以下五院々長、中央政治委員その他各關係全要人約百數十名出席して開會、萬場一致參戰を決議しその決議に基いて大東亞戰爭への參戰を中外に聲明すると同時に獨伊その他の樞軸國側に正式通告を發した。

續いて同十一時より國府大講堂において汪行政院長と重光大使との間に大東亞戰爭完遂についての日華協定の調印式が嚴肅裡に行はれた。右について報情局は次の如き發表を行つた。

情報局發表

本日中華民國國民政府は、米英兩國に對して宣戰布告し次いで午前十一時國民政府大講堂において重光特命全權大使と汪行政院々長との間に「戰爭完遂についての協力を關する日華共同

宣言」及び「租界還付及び治外法權撤廢等に関する日本國、中華民國間協定」調印せられたり右に關し帝國政府において聲明行はれまた東條内閣總理大臣の談話發表せられたり。

大日本帝國政府及中華民國國民政府は兩國緊密に協力して米英兩國に對する共同の戰爭を完遂し、大東亞に於て道義に基く新秩序を建設し惹て世界全般の公正なる新秩序の招來に貢獻せんことを希望し左の通宣言す。

大日本帝國及中華民國は米國及英國に對する共同の戰爭を完遂する爲不動の決意と信念とを以て軍事上政治上及經濟上完全なる協力を爲す。

昭和十八年一月九日即ち中華民國三十二年一月九日南京に於て

主權尊重の立證

日華兩國政府は戰爭完遂に付ての協力に關する日華共同宣言の本旨に從つて中華民國の主權尊重の趣旨から租界還付及治外法權撤廢の日華新協定を締結した。その結果杭州、蘇州、漢口沙市、天津、福州、厦門及び重慶の八專管租界と上海及び厦門鼓浪嶼の兩共同租界はいづれも國府の回收が承認されること。また治外法權は撤廢せらるゝことに決定した。

歐洲戰爭の展望

大ドイツ再建成的る

一九三二年アドルフ、ヒットラー氏は政權を握ると、在野時代からその腦裡にこびりついて離れない理想、ドイツ再建を目標にすべての準備工作にとりかゝつた。ドイツ再建はまづ國民の組織にある。國民を再組織し、そこから出發してドイツの再建が完了の上は失地回復、植民地奪還とドイツのなすべき事業は將來に幾多殘されてゐる。ヒットラー總統は大いに期するところあり、輝く希望に燃えつゝドイツ再建に向つて巨歩を踏み出した。

ヒットラー總統の肚裡には、一九三二年政權掌握と同時に今次歐洲戰爭やむなしとすでに戰爭を覺悟してゐたことはその政策の上に明瞭に看取できる。

ヒットラー總統のドイツ再建と歐洲新秩序建設の跡を辿り、今次歐洲戰爭は、いかにして起り世界戰爭へと發展したかその複雑なる外交戰とを併せて検討してみよう。

前世界大戦の結果ドイツは徹底的に叩きのめされた。ドイツは一九一八年の媾和條約はドイツにとり未曾有の屈辱的のものであつた。しかもフランスは機會あるごとにドイツの再起不能を目標にいろ／＼と畫策した。

一九二二年フランスはドイツが賠償金の支拂ひが怠慢であるといふ理由で十二月ルール地方に兵力を進駐し同地方を保障占領した。ルール地方は石炭の産地でドイツの經濟的中樞である當時ドイツ政府は一應對抗策を計畫したが、結局フランスのなすまゝに泣寝入りとなつてしまつた。國民の中には政府腑甲斐なしと憤慨したものも少しはあつたがいかなともすることができなかつた。

フランスはアルサス・ローレンの世界最大の鐵礦資源を持つ主要地區をドイツから召し上げたが、いままた石炭の産地ルール地方を占領したためフランスの大陸における地歩は極めて優位を占むるに至つた。

この事實はイギリスにとり心中穩かならぬもので一杯となつた。イタリアもまたフランスのルール地方占領に少からず不快の念を抱くといふわけである。

ルール地方占領はフランスのヴェルサイユ條約違反なりと斷定し大いにいきり立つたが、ドイツは武力でフランスに抗爭することができなかつた。武力なき主張がいかに惨めな結果となるかをドイツ國民は身をもつて體驗した。國民の政府に對する反感はつるばかりであり、ナチスの躍動は實にこの頃から始まつた。

軍備なき外交は屈辱に終る、軍備再興にはまづ國民の精神的武裝が先決だ。これあつて初めて軍備の全きを得るのであると斷じ、ヒットラー氏は國民の精神的武裝を強調した。一九二三年ナチスはヒンデンブルグ大統領の任期満了を利用してその再選を策動しヒットラー内閣實現を計畫した。同年十一月八日ミュンヘンに一揆を起し、非合法的なクーデターによつて一舉に政權を獲得せんとしたが、つひに失敗に終り、ヒットラー氏は同士とともに逮捕され禁錮五年の刑に處せられた。だがヒットラー氏はその翌年假出獄を許されるに至つたのでナチスの活動はいよいよ本格的となり、その政權獲得鬭争は活潑となつた。

一九三三年一月三十日ナチスは一揆を起してから十年目で政權を掌握した。ヒットラー總統は政權獲得と同時にまづマルキストの一掃、民族の純血、ユダヤ禍、ナチス黨以外の黨派の禁

止により政府獨裁權の確立をはかつた。而して四ヶ年計畫を發表し、農民の救済、失業群の一掃、行財政制度の改革、生活必需品の保證、植民政策の確立、通貨政策の確立、對外政策の基調等について國民に公約をなし國民をぐんぐんと引つばつていつた。

ヒットラー總統は、ドイツ國民大衆のために蹶起、ナチス黨の強化をはかり、その基礎を築いた。一九三四年六月ナチス黨突撃隊首腦レーム、シュライヘル氏等大幹部を一舉に處斷し、或は誠首整理をして、所謂血の肅正清黨を斷行した。

ヒ總統としては、年來生死を共にして闘つてきた同志たる突撃隊の首腦部を處斷するにはよく／＼のことであり、ずぬぶん苦慮したやうである。突撃隊首腦者がやゝもするといはゆる成り上りもの的な横暴專斷をやり、しかも自ら國防軍にとつて代つて權力を揮はんとする態度に出で、また幹部の私生活上にも目にあまるものがあつたためヒ總統は大乗的、大國防軍再建の必要上からドイツのために私情は許されぬと泣いて馬稷を斬つたものであるといはれる。

勝たんと欲せば攻めよ

ナチスの外交方針は、ヒットラー總統の『政府がわが國民の自由を恢復し、まづ生くべき權

利を保留することをもつて最高の使命と思惟する。國家は平等の權利を有たざるべからず』と國民の公約に基いたものである。即ちヴェルサイユ條約の廢棄、海外植民地の返還要求等により、大ドイツ國建設がドイツ外交の基調とされたのである。

ヒ總統の力強い意思力と、國際情勢に對する透徹せる判斷力に基く熟慮斷行は、國民の信賴を一身に集めるとともに、ドイツの國際的地位は著しく高められて行つた。

國家を機械のごとき死物とせず、民族發展の搖籃なりとなすところに初めて無爲停頓の時代がかへつて活々とした活潑な生ける時代が登場する、古今東西、時と處を問はず、流れざるものは腐り、動かざるものは錆る。勝たんとするものは攻めねばならぬ。守勢を事とするものには勝利はない。ヒ總統は斯のごとき日頃の信念に基いて、國民の向ふところを常に指向した。この方針に基く最初の爆彈外交は一九三四年十月國際聯盟に叩きつけた國際聯盟軍縮會議脱退であつた。

獨統帥部改革と戰時體制

ヴェルサイユ條約は、ドイツの軍備を縮少制限することを規定したが、列國も同時に一般軍

備を縮小することを前提としたものであつた。ところがその後の列國の情勢はどうかといふに、軍備縮少どころか、かへつて、軍備を擴張するのに日もこれ足らずとする状態であつた。ドイツはこの情勢に基き軍備の平等權を當然要求する權利があると主張し、ヒットラー總統は再軍備宣言をなし、陸海空軍全般に亘つて再軍備を行ひ、義務兵役制度を布いた。

ヒ總統が政權を掌握して三年目、一九三五年（昭和十年）六月十八日ドイツの對英海軍兵力三割五分保有要求をイギリス帝國は即時容認し英獨海軍協定が成立した。

ドイツ海軍は、戦闘艦六隻、乙級巡洋艦六隻、驅逐艦十二隻だけで、現在ドイツ海軍が世界に誇る潜水艦の如きはたゞの一隻も持たなかつたものであるが、ドイツは英獨海軍協定によりヴェルサイユ條約の規定による保有量の四倍に當る四十萬トンを保有することになつた。

イギリスが對英三割五分の海軍力をドイツに許したことは、ドイツ海軍によつてフランスを牽制するといふ老獪なるイギリス外交の底意が閃いたといへる。いづれにせよ、ドイツは對英三割五分の海軍力を保有することになつたのだから、總統は英獨海軍協定成立後三週間といふに、かねて準備してゐた建艦計畫を發表し、直ちに建造に着手し、その電光石火的素早さに

世界を驚かし、フランス、イタリアを極度に刺激した。

英獨海軍協定に基くドイツの建艦計畫は左の通りである。

二萬六千トン級主力艦	二隻
一萬トン級巡洋艦	二隻
千六百二十五トン級驅逐艦	十二隻
二百五十トン級潜水艦	六隻
一萬五千トン級航空母艦	一隻

この他、續いて翌一九三六年には六ヶ年整備計畫として主力艦九隻、甲級巡洋艦四隻、乙級巡洋艦十隻、航空母艦二隻、驅逐艦三十四隻潜水艦四十五隻、合計百四隻の建造計畫を發表した。

かくして、ドイツはグナイゼナウ、シャルンホルストの二戦闘艦（二萬六千トン）を竣工せしめ（ビスマルクテイルピッツ二戦闘艦各三萬五千トン）は戰爭中續いて竣工したほか巡洋艦驅逐艦、潜水艦等どしどし進水せしめ、今次英獨開戰當時は左の如き海軍力を保有してゐた。

ドイツ海軍兵力（開戦當時）

- 戦闘艦 二隻（五二、〇〇〇トン）
- 装甲艦（豆戦艦） 三隻（三〇、〇〇〇トン）
- 甲級巡洋艦 二隻（二〇、〇〇〇トン）
- 乙級巡洋艦 六隻（三五、四〇〇トン）
- 駆逐艦 二二隻（三六、八六六トン）
- 水雷艇 三七隻（二五、七一五トン）
- 潜水艦 六七隻（二六、〇三二トン）

なほ、戦争中竣工したもの約二百隻で潜水艦は百七、八十隻戦争で喪失したのを差引き現有兵力は約二十八萬トン位と推定される。

空軍は第一線機六千機、第二線機六千機、それに飛行機製造能力は一ヶ月約一千機といはれる、しかも、時速七百キロの優秀機あり、英本土爆撃可能の爆撃機その他三千九百機以上を算へるほど優勢なるに比べて、イギリスは第一線機二千機第二線機二千機合計四千機、製造能

力月産六百機といはれる。

陸軍は三百萬を動員し、なほ必要に應じ六百萬の動員可能であり。高度に裝備されてゐる。常備兵力は約百萬で集團司令部六、軍團司令部一八、歩兵師團四三、（この内自動車化師團四あり）機械化師團五、騎兵旅團一、山地旅團三である。これが實力の點に至りてはポーランド攻略、蘭白及びフランスを一舉に席捲した電撃作戦、またバルカン作戦、近東作戦、近くは對ソ電撃作戦における實戦が百の議論よりこれを如實に實證してゐる通りである。

而してドイツは軍備再建を計畫し着々と實績を擧げるに及んで統帥機構の整備を斷行し、ドイツ國軍はいつでも起ち上がる戦時體制を整へたのである。

最高統帥部の強化

ヒットラー總統が國軍を掌握し、その下に幕僚を置いてこれを統率し、統帥と政權を一元化し、ヒ總統獨裁權を確立した。その内容は左の通りである。

ドイツ國は從來國家の元首として軍の最高統帥者たるヒットラー總統の下に、全國軍を統率し、かつ國防大臣の地位を有したブロンベルグ元帥辭職し、ヒ總統自ら直接に陸、海、空の三

軍を統率して国防大臣の地位を委任することとなつた。またブ元帥の下に陸軍長官たりしフリツチ大將も辭職しブラウヒツチ大將がこれに代つた。

ゲーリング航空大臣兼空軍長官は、その地位のままで元帥に昇格し、海軍大臣レーダー大將はそのまゝ留任した。

一方、新たに全國軍の統一的幕僚部が設置せられカイテル大將がその幕僚長となり、同時に国防大臣の事務取扱ひを命ぜられた。

ノイラート外相は辭職し、その後任に駐英大使リツペントロツプ氏が任命せられ、駐日大使デイルクセン氏、駐伊大使ハツセル氏、駐澳大使パーペン氏等は休職を命ぜられた。

經濟相シャハト氏の後任として前宣傳省次官フンク氏が任命せられ、經濟省は四ヶ年計畫を中心として改組された。

國政最高諮問機關として、參議院といつたものが設置せられ、前外相ノイラート氏を議長とし、リツペントロツプ外相、ゲーリング空相、ゲツベルス宣傳相、ヘス黨總裁代理、ランマース内閣書記官長、ブラウヒツチ陸軍長官、レーダー海軍長官、カイテル總監部長等が參與に任

命せられた。

新秩序建設は樞軸の使命

東亞共榮圈の確立をめざして起ちあがつた日本帝國の理想に反抗し、米英兩國を背景として抗日の陣を張る蒋介石政權に對し、わが國は斷乎これを排撃すべく昭和十二年七月七日宋哲元の無法な發砲による蘆溝橋事件に端を發して東洋永遠の平和と人類福祉のため打倒蒋介石政權の兵を支那大陸に進めた。

忠勇義烈なるわが皇軍百萬は米英の援蔣行爲を排しつゝ或は酷寒零下數十度の地、或は炎熱鐵をも熔かす酷暑、また支那沿岸二千八百哩に至る海上封鎖作戰に風浪と闘ふ將兵は陸に空に或は海上に闘ひ、聖戰實に五年に及び支那四百餘州の大半を席捲し、世界戰史に輝く不滅の頁を遺した。

蒋介石は、首都南京を放棄して重慶に立籠り、援蔣といつても功利的な米英の援助をたよりに抗日の餘喘を保つてゐるが、援蔣輸血路として殘された唯一のビルマルトも、わが海陸の勇猛果敢な連爆のために、その生命線は斷ち切られ、斷末魔に喘へぐ英國と同じくいまや崩壞

の危機に瀕してゐる。

世界新秩序建設に當り、歐洲新秩序建設を擔當する獨伊兩國と、東亞新秩序建設の役割をもつ東亞の盟主わが日本帝國とは日、獨、伊三國同盟を締結し、東西相呼應してこの大理想に向つて邁進しつゝあるのであるが、そもく日、獨、伊樞軸陣營の結成されたのは昭和十二年十一月締結された日、獨、伊防共協定にその基礎を置いて發足されたものであることは今さらあらためて言ふまでもないことである。

東亞新秩序は新興滿洲から

世界歴史の一大轉換期を比す舊秩序打開運動は、英米派張學良の對日挑戦によつて、まづアジアの一角滿洲に烽火があがつた。張學良は米英の思想に支配され、その力を背景として抗日侮日の運動を起し、滿洲におけるわが既得權益を無視し不當の壓迫を加へた。

わが帝國は隱忍自重し、張學良に對してその反省を促したのであるが、かれは毫しも反省の色なく、かへつて、不遜にも奉天の北郊北大營附近においてわが南滿洲鐵道株式會社鐵道線路を爆破し、しかも、わが警備の巡邏部隊に對する攻撃をもつて回答とした。

わが帝國は既得權益の擁護と、在留邦人の生命財産保護のため、時を移さず自衛權を發動しこれに善處した。

米英の不當なる干涉壓迫の手はますます加はり、しかも、その煽動支援により滿洲の戦火はたちまち上海に飛火した。而して、アメリカ合衆國は武力にものを言はせてもわが方に干涉壓迫を加へんとしたが、現陸軍長官である當時の國務長官スチムソンは、作戰部長ブラット提督の所信を叩いたところが、アメリカ海軍の實力は、日本海軍を抑へ得るに足る自信なきことはつきりとしたため、アメリカ合衆國の對日干涉壓迫計畫は遂ひに沙汰止みとなつたことはいまなほわれ等の記憶に新たなるものがある通りである。

滿洲上海事變は、一應解決を見たが、米英の魔手は伸びて、さらに一段と蔣介石政權支援強化となり、抗日の片棒を昇ぎその態度はいよくもつて露骨となるに至つた。

その結果つひに昭和十二年七月七日勃發した北支那蘆溝橋事件にまで發展し全面的支那事變となつた。

而して支那事變は、世界舊秩序の根底に根強くはびこる矛盾を刈りとるわが日本の新秩序建

設途上の所産であつて滿洲事變から支那事變へと發展したのもみな米英の援蔣對日壓迫政策の具體的現はれであることは事實の示す通りである。

米英の魔手東亞を攪亂す

東亞における米英の策謀は獨り援蔣行爲のみに止まらず、その魔手を蘭領印度にまで伸ばし日蘭通商交渉に水をさし、ことごとくに日蘭離間策を弄するといつた悪質極まるものである。さらに、わが國の對支作戰上絶對的必要にもとづく佛領印度支那への進駐に當りては米英はタイ國の一部反日分子を煽動して日本との友好關係に離間策謀を企てた。その結果タイ佛印間の係争問題を惹起せしめるに至つたが、米英の東亞攪亂工作の底意を看破したるわが國は、間髪を容れずタイ佛印兩國の間に起つて居中調停を行つて米英の裏をかき彼等の謀略を完全に破砕した。而して、タイ佛印兩國代表は東京において約二ヶ月に亘り討議を重ねた結果五月九日めでたく妥結成りタイ佛印間の國境紛争問題は兩國間に平和條約の正式調印を了り圓滿解決したのである。

かくて、タイ佛印平和條約の成立により兩國間の平和はこゝに確保されその友好關係を回復するとともに日泰、日佛間兩議定書により帝國政府はこれら新秩序を保障することとなつた。

この事實は日、佛印、タイ間の善隣友好關係が新たな基礎の上に立ちいよ／＼緊密となる結果政治經濟軍事の上に意義深い示唆を與へたのである。

東亞共榮圈の確立工作は、かくして着々と堅實なる基礎を築きつゝある時歐洲においては、わが帝國と同じ目標に進み世界新秩序建設にその一翼となつて邁進の途上にあるドイツを中心として外交戦は活潑に展開された。

獨逸植民地返還を要求

ヒットラー總統は一九三八年一月卅日議會で植民地返還の要求演説を行ひ、ドイツの態度を明かにしたが、ドイツはそれ以來機會あることにそれを繰返し強調した。このドイツの植民地返還要求は英佛をして苦惱せしむるに十分だつた。

英佛は、ドイツの要求問題をなんとかして大事にまで發展せしめず平和的に解決したいものとあせつた。イギリス外相ハリファックスは十月十七日ドイツを訪問してヒットラー總統と會見し、ドイツの植民地返還の眞意がどこにあるか、その點を打診した。この會談は世にいはゆる英獨會談として喧傳されたものである。

この會談で、ドイツはアフリカにおける英領の返還を要求しない代りにトーゴのカルメーン及びベルギー領エンゴー、ポルトガル領アンゴラ等の資源開發を要求し、しかもその要求は一方的のものであつて、この開發には代償を拂はないでよいといつたふうに報ぜられた。

日獨伊三國防共協定成立

昭和十二年十一月六日ブラツセルにおいて、九國條約加盟國會議開催のさなかに突如として日獨伊三國防共協定成立が各關係國によつて發表された。この協定は世界の外交界に一大衝撃を與へた。

この三國協定は、昭和十一年十一月二十五日に締結された日獨防共協定に新たにイタリア國が原締約國として加盟したもので、これによりヨーロッパとアジアを貫く大防共陣が完成されたのである。

防共協定は、コミンテルンの世界赤化工作に對し、また人民戰線派の反日獨伊工作に對して非常な威力を示すものといはねばならぬ。スペイン動亂がコミンテルンの赤化工作によつて起つた一つの實例であり、それがいまの歐洲の問題にまで發展した原因の一つでもあり、支那事變もまたコミンテルンの東亞攪亂工作により障害をうけてゐるのであるから、東西兩大陸に跨り、日獨伊がガツチリと結んで強力な防共陣を張つたことは、スペインと支那に對する二つの赤化工作に對し重大意義をもつものである。而して三國協定成立の結果として現はれたものが日本帝國のフランコ政權の承認となり、友邦滿洲國とフランコ政權との相互承認でありさらにイタリアの國際聯盟脫退となつたのである。

即ち、日本帝國政府は昭和十二年十二月一日をもつて、フランコ政府をスペイン國の正式政府として承認した。また、滿洲國とフランコ政府とは十二月二日相互承認を交換しついでイタリアは十二月十一日正式に國際聯盟を脫退した。イタリアは滿洲事變における日本、再軍備問

題に對するドイツと同じやうに、エチオピア問題に關する對聯盟關係の矛盾を綺麗さつぱりと清算したのである。

獨逸合併無血裡に成る

ゲルマン民族の團結により、所謂第三國の建設はナチスドイツの網領の一項である。ヒットラー總統はドイツ國外隣邦國內に居住する百萬のドイツ民族の保護をなすことはドイツの責任だとする方針にもとづきヒットラー總統は一九三八年(昭和十三年)二月二十二日オーストリア首相シュニツク氏をベルヒステンガーテンの山莊に招じ獨逸合併の話を進め、翌三月十二日ドイツ政府は總統令を發布してオーストリアとドイツの合併を宣言した。

かくして、ドイツは、ドイツ民族發展の上に、また歐洲政局の上に新らしき紀元を劃したのである。しかも、この獨逸合併は一滴の血をも流すことなくして、全ドイツ民族の歡乎と全世界各國の驚異腫目のうちに完成されたのである。

英伊協定成立

スペイン内亂が發生してからといふものは地中海におけるイギリスとイタリアニアの關係は著しく悪化した。それがため獨逸樞軸と英佛協定側との對立が一層激化し、またパレスチナ地方をはじめアラビア及びアフリカ回教徒地方に猛烈な反英運動が起つてきた。この事實はイギリスをしてイタリアとの妥協方策をかりたてるに至つた。

イタリアとしては、エチオピア合併に對してイギリスをはじめ、各國が正式にこれを承認することを要望してゐた折柄であるから、こうした兩國の要求によりイギリスとイタリアの接近工作はいわゆる魚心と水心とびつたり合致し四月十六日英伊協定が締結された。

この英伊協定はスペインにおけるイタリア義勇兵の撤收と、エチオピア合併承認と交換的に妥協が成立したものである。しかしこの協定は成立はしたもののチェッコ問題やいろ／＼の利害關係に影響され揉めてなかく／＼容易に解け合はなかつたためその効力發生とまではいかなかつた。ところがミュンヘン四國會議の結果十一月十五日に至り漸くにして解決されたわけであ

る。

獨白不侵略條約成る

獨伊兩國はスペイン問題を契機にいよく親密提携の實をあげるに至つた。十二年九月にムツソリーニ首相のヒットラー總統訪問が行はれ、また十一月六日に日獨伊三國防共協定の成立となりベルリン、ローマ東京の樞軸は強化されます。威力を増すこととなつた。

一方十二年ベルギーは中立復歸を宣言し十月に入つてドイツと不侵略條約を締結した。このベルギー、ドイツの不侵略條約はベルギーがドイツの陣營に投じたものと見ることは早計であるが、しかしベルギーがフランスの陣營から離れたことは事實である。英佛陣營はかうして漸次落目に向つたことはすでに衆知の通りである。

ソ芬戦争

ソ聯とフィンランドとは不侵略條約を締結してゐる盟邦同士の間柄であるにも拘らずソ聯は

國境におけるフィンランド人發砲事件といふものを理由として一九三九年十一月二十八日ソ聯政府はソ芬不侵略條約の廢棄を宣言した。そして續いて翌二十九日ソ聯はフィンランドとの國交を斷絶する旨を聲明するとともにソ聯軍は時を移さず國境を越へフィンランド領内に進攻を開始した。ソ聯軍は國境全體に亘り海空陸相呼應して總攻撃を行ひ、その首都ヘルシンキを猛爆した。

戦争そのものゝ経過は必ずしもソ聯に有利とばかりはいへなかつた。フィンランドは雪深い國境地帯の山岳と森林を利用してソ聯軍をかなり悩ました。ソ聯軍はフィンランドの約十萬といはれる軍隊に對し約三十萬の軍隊をもつて一氣に芬軍を制壓しやうとしたのだが、數においては三倍といふ壓倒的優勢を示したが質の點において劣つてゐたため戦闘そのものは失敗といふも過言でない経過を辿つた。その結果はソ聯軍事當局者の注意を喚起し、ソ聯は雜草と人的資源は無限なりといふ位に人的資源に恵まれてゐるからといつて徒らに數のみでは有利な戦闘はできない宜しく質の改善向上をはかる必要ありとの結論を得た。この點ソ芬戦争はソ聯にとり貴重な經驗であつた。ソ聯は爾來國軍の改組改善に當つた。

しかし、結局においてフィンランドはスエーデン政府の調停斡旋により三月十三日ソ芬兩國は軍事行動を停止する協定に調印を行ひ和平が成立した。

フィンランドは、ヴィープリ並にヴィープリ灣及びその島嶼を含むカレリア地峽の全部、フィンランド灣内の數島嶼、メルキヤルヴィの東部地方、リバチ及びスレドニア兩半島の一部をソ聯に割譲しフィンランドは相互不侵略を約し他の第三國との間にいかなる同盟も締結しないまた軍事據點をソ聯に貸與すること、その他數項目に亘る條件をソ聯に與へたのである。かうしてソ聯の野望はつひに達成せられた。

滿洪兩國防共陣營に加盟

日、獨、伊三國政府は、日、獨、伊三國の間に結ばれたインタナショナルに對する協定の第二條に基いて滿洲國及びハンガリア國に對しかねて三國協定に關する外交交渉を進めてゐたが滿洲國及びハンガリア兩國は十四年一月十三日をもつて日、獨、伊防共協定に欣然參加することとなつた。

滿洲國は、日滿一體不可分の關係にあるので建國の初めからわが國と密接なる協調を保ち防共に對する活動を實行してきたのであるから、今回防共協定に參加したのは極めて當然のことである。

ハンガリア國は歐洲大戰においてオーストリア、ハンガリア帝國が崩壊し、國內は大混亂に陥ちたのでたちまちコミンテルンの乗するところとなり一九一七年（大正七年）ベル・クーンの革命が起つた。ヨーロッパにおいて共產主義の慘禍を蒙つた最初の國である。

しかし、攝政ホルテイ提督統率の下に起つた反共王黨派はたちまち共產黨を驅逐して王國を再建し舉國一致的協力によつて着々と復興の實をあげた。

チエツコ地圖から消える

チエツコ問題は由來ヨーロッパにおける發火點だといはれてゐたが、一九三九年（昭和十四年）三月十日スロヴァキアにおいて、チソ内閣の罷免に端を發し俄然事態は重大化するに至つた。スロヴァキアとルテアニアは獨立を宣言し、そしてボヘミア及びモラヴィアのドイツ保護